- 日程 7 議第 46 号 吉野町都市計画新議会条例の一部を改正することについて
- 日程 8 議第 47 号 吉野町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正することについて
- 日程 9 議第 48 号 吉野山地区簡易水道統合事業中央監視装置及び送水ポンプ盤設置工事請負契約の締結について
- 日程 10 議第 49 号 辺地総合整備計画の変更について
- 日程 11 議第 50 号 平成 28 年度吉野町一般会計補正予算（案）第 2 号について
- 日程 12 議第 51 号 平成 28 年度吉野町介護保険特別会計補正予算（案）第 2 号について
- 日程 13 議第 52 号 平成 28 年度吉野町簡易水道特別会計補正予算（案）第 1 号について
- 日程 14 議第 53 号 平成 28 年度吉野町下水道事業特別会計補正予算（案）第 2 号について
- 日程 15 議第 54 号 平成 28 年度吉野町水道事業特別会計補正予算（案）第 2 号について
- 日程 16 認第 3 号 平成 27 年度吉野町一般会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 17 認第 4 号 平成 27 年度吉野町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 18 認第 5 号 平成 27 年度吉野町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 19 認第 6 号 平成 27 年度吉野町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 20 認第 7 号 平成 27 年度吉野町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 21 認第 8 号 平成 27 年度吉野町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 22 認第 9 号 平成 27 年度吉野町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 23 認第 10 号 平成 27 年度吉野町土地開発基金会計歳入歳出決算の認定について

いて

日程 24 要 望 等

日程 25 一 般 質 問

11. 本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

12. 議事の経過は次のとおり

山本議長

ただ今の出席議員総数は10名でございます。

定足数に達しておりますので、これより平成28年第3回吉野町議会定例会を開会いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりです。

日程1 会議録署名議員の指名について

会議規則第120条の規定により議長より指名いたします。

1番 小泉議員 2番 中井議員を指名いたします。

日程2 会期の決定についておはかりいたします。

本定例会の会期は本日より9日までの8日間にいたしたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本定例会の会期は本日より9日までの8日間に決定いたしました。

開会にあたり、町長よりご挨拶をお願いいたします。

北岡町長

おはようございます。

開会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、平成28年第3回吉野町議会定例会を招集いたしましたところ、皆様方にはご出席いただき誠にありがとうございます。本定例会はご存知のとおり決算認定等が主な議題ではございますが、各委員会におきまして慎重な審議をよろしくお願ひしたいと思います。

今回上程いたします議案につきましては、報告案件が2件、承認案件が1件、条例の改正等が4件、そして補正予算(案)が5件、決算認定が8件でございます。慎重な審議をあらためてよろしくお願ひ申し上げます。

この機会でございますので、7月4日の臨時議会以降の行政報告を簡単にさせていただきます。7月5日、奈良県広域消防組合通信センター及び作戦室完

成式典というのがございました。39 市町村のうち 37 市町村での奈良県広域消防組合がスタートしておりますが、このたび通信指令センターが出来上がりました。これによりまして一元的に通信ができるということで、GPS を使いまして一番近い救急車が走れるという非常に効率的な動きになっております。また万が一の災害の時には作戦室が機能できるというふうなことが可能になりました。また同日、吉野町女性消防団辞令交付式というのを行いました。女性の活躍等が望まれる社会ではございますが、消防団におきましても女性の目線を大事にいたしました、そういう消防団活動をお願いしたいということで、本団直属で1分団作ることになりました。7月11日、吉野三町村雇用創造協議会総会。これは、すでにスタートしておりますが、雇用創造協議会、7月1日より事務所を構えまして動いております。吉野・川上・東吉野の三町村での雇用創造を作っていくところでございます。14日、吉野町と奈良労働局協定調印式ということで、吉野町と奈良労働局との間で雇用に関する調印を行いました。続きまして16日、差別をなくす町民集会。私は私用で留守でしたので教育長に出席していただきました。19日、吉野、大峯、高野観光圏協議会平成28年度総会を開催いたしました。観光圏の事業といたしましてはもうほとんど終わっているわけでございますけれど、このたび高野町のほうが非常に前向きな姿勢を示されておきまして、この協議会の形のままで今後の展開をこれから進めていくというところでございまして、今後の展開を非常に期待するところでございます。20日、奈良県簡易水道協会理事会及び通常総会ということで、しばらくの間この奈良県簡易水道協会の会長をしておりました。このたび28年度末をもちまして我々の簡易水道と上水道が統合されます。上水道経営ということになりますので、簡易水道協会の会長は簡易水道だけをお持ちのところが望ましいだろうということで会長職をおろさせていただきました。簡易水道に絡みました施設を持っておりますのでこの理事会・協会にはまたこれからも参加するところでございます。22日、国栖地区自治協議会総会。まちづくり基本条例を作らせていただいてから自治協議会の設立をたいへん待っておりました。待望の第1回目の初めての協議会が国栖地区で作られました。この最初の総会でございました。いろんな部会でいろんな活動をこれからしていただきます。非常にこれか

らの活動を期待するところでございますし、他の地区の模範になることを願います。26日、結婚応援ボランティア吉野世話やき隊結団式ということで、なかなか独身の方が結婚が進まないという状況もございます。婚活も一生懸命やっただいておりますが、社会福祉協議会を中心に、この吉野世話やき隊という、結婚の応援をしようというふうな隊を作ってくださいまして、この活動も本当に望まれるところでございます。皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。7月27日、町表彰式。立野の辻本奈央さんが手塚賞という漫画の新人賞をいただきましたので、その表彰をさせていただきました。これは、かつて山口の林さんが声楽のほうで賞をいただいたので表彰したこともございます。そういう文化的な活動、本当にいろんな方から頑張っただいておりますので、これからの活動を大いに期待するところでございます。とばしまして8月6日、ウッドスタート宣言調印式並びに町制60周年事業木育キャラバンということを開催させていただきました。木のまち吉野をもっとPRしていこうという動きをこれからしていくわけですが、その最初のスタート。木育のスタートでございまして、ウッドスタート宣言をさせていただきました。これから子ども達からまた日常の生活から、我々の木に対する想いをもっと表現していこうという動きをこれからも続けて行きたいと思っております。どうか皆様方のご協力ご助言をお願いするところでございます。8月7日、中竜門活性化事業中竜門夏祭り。燦・産・参の方々を中心に中竜門の方々に夏祭りを開催させていただきました。あらためて中竜門地区で小学校がなくなり、柳光が出来上がりということで、皆さん方が集まる機会が少なくなっている中、夏祭りを60周年記念事業と併せていやっていただきました。今後、こういう催し物がすすみまして、地区での元気があふれてくることを待つところでございます。続きまして8月9日10日と、町議会の皆様方と一緒に議員研修、東京のほうに行かせていただきました。ハウスビジョンでの吉野杉の家の見学を中心に見させていただきました。また皆様方も本当にいい催しだったなと思っていただいていると思っております。この見学をさせていただいた後も非常に見学者も多く、最終日には1時間2時間待ちというふうな話も聞いております。この催し物から吉野杉、吉野桧、吉野の材に対する世界各国からの

注目が出てくると期待しております。続きまして 11 日、清流西谷の川と湧き水恵みプロジェクトということで、西谷の消防団の方々が 60 周年記念事業ということで実施していただきました。ならコープさんが水のビジネスを始める、そのいい機会でもありますし、西谷に川で本当に綺麗な水の中で子ども達の楽しむ声を聞いておりました。今後ともこれがずっと続きまして、ある一定のイベントとして続きますことをあらためてお願いするところがございます。8 月 26 日、ふるさと吉野の集い。これは、東京のほうで吉野町とゆかりのある方々と集わせていただいて、情報発信等をやっております。5 回目になります。今回は、観光大使というかたちということで数名の方に名刺を配っていただくだけなのですが、そういう催し物をいたしまして、実質応援団として動いていただける方をこれからもどんどん増やして行きたいなと思っております。27 日、歴史の駅シンポジウムということで、これは、渋谷のさくらホールというところで、NPO 法人歴史の駅という方々と一緒に歴史に関するシンポジウムを行いました。この NPO 法人、去年は明日香村と一緒に国の始まりというで東京でやられておまして、今年は吉野町と一緒に南朝、吉野町の時代にスポットを当てたシンポジウムをしていただきました。今後の展開を大いに期待するところがございます。

以上、簡単でございますが行政報告とさせていただきます。

あらためまして本定例会におきまして慎重審議をお願い申し上げまして、開会のごあいさつとさせていただきます。

山本議長

ありがとうございました。

日程 3 議長の諸報告に入ります。会議規則第 121 条但し書きの規定により、閉会中の議員派遣の報告書を別紙のとおり提出しておりますので、ご覧の上ご了承願います。

山本議長

日程 4 報第 5 号「平成 27 年度決算に基づく吉野町健全化判断比率等の報告について」を議題として上程し、議案は事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

説明を求めます。山田参事。

山田参事

報第5号について説明を申し上げます。

報第5号につきましては吉野町の健全化判断比率についての報告でございます。まず、実質赤字比率でございますが、赤字がなかったことから横線となっております。また、連結実質赤字比率についても赤字がないことから横線ということとなっております。また、実質公債比率につきましては、7.9パーセントということでございます。これにつきましては昨年度より0.8パーセント減少しておるということで、改善された数字だということでございます。そして、将来負担比率につきましては、100.2パーセントということでございます。これにつきましては、昨年度より20.9パーセント増加してございます。悪化傾向ということでございますが、これにつきましては、南和広域医療組合への負担が昨年度大きく膨らみましたことからその償還が将来的に生じてくるということから数値が悪化したものでございます。併せましてこちらにはございませんが、吉野町の計上収支比率につきましては平成27年度は93.0パーセントということ、平成26年度の98.2パーセントから5.2パーセント改善しておるところでございます。

以上です。

山本議長

質疑を求めます。

本件は報告に報告にとどめます。

山本議長

日程5 報第6号「地方自治法第180条第1項の規定による専決処分の報告について」を議題として上程し、議案は事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

説明を求めます。山田参事。

山田参事

報第6号について説明を申し上げます。議案書の裏面のほうをご覧くださいと思います。

地方自治法第180条第1項の規定によりまして、下記の事故に係る損害賠償額を定め、和解することについて専決処分をしたものでございます。

事故の相手方につきましては、吉野町吉野山に在住の町民の方でございます。事故の概要でございますが、平成28年4月8日の午前9時40分頃、吉野山宮坂駐車場、これはもとの吉野山荘の跡地でございます。に、相手方の車両が進入する際、観光客で隠れていた出入口のポールと接触し車両前右輪後部を破損した。当該ポールは破損しており、地下収納できない状態となっていたが、観光客の多い時期であったため観桜期終了後に改修工事を実施する予定とし、特段の安全管理対策をせず放置していた。このため損害の一部を賠償するものでございます。賠償額その他和解条件でございます。過失割合につきましては、町が40パーセント、相手方は60パーセント。損害賠償額につきましては72,000円。今後、吉野町及び相手方双方本件事故に関しては、異議を申し立てないことを確認してございます。

以上です。

山本議長

質疑を求めます。

本件は報告にとどめます。

山本議長

日程6 承第6号「吉野町ひとり親家庭等医療費助成条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて」を議題として上程し、議案は事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

説明を求めます。芳田参事。

芳田参事

承第6号について説明させていただきます。

今回の条例の一部改正につきましては、ひとり親家庭等の医療費助成条例で引

用している児童扶養手当法施行令の一部が改正され、平成 28 年 8 月 1 日から施行されたことに伴う改正です。

ひとり親家庭等医療費助成金の所得制限につきましては、児童扶養手当法施行令の規定の額を引用しております。児童扶養手当法施行令の改正により、この条例で引用しておりました箇所番号等が変更されております。引用されていた条例の内容の部分については一切変更されておられません。従いまして、従来からの条例の内容等は一切変わっておらず、まったく同じ内容であるということでございます。単に、番号等の表示が変わったということでございます。

以上でございます。

山本議長

質疑を求めます。

おはかりします。

本件を報告のとおり承認することに異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本件は報告のとおり承認することに決定いたしました。

山本議長

日程 7 議第 46 号 「吉野町都市計画審議会条例の一部を改正することについて」を議題として上程し、議案は事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

説明を求めます。吉岡参事。

吉岡参事

議第 46 号について説明を申し上げます。

別紙の説明資料をご覧いただきたいと思います。7 月 1 日付けの機構改革に伴います条例第 8 条の課名の変更をお願いするものでございます。

ご審議よろしく申し上げます。

山本議長

質疑を求めます。

おはかりします。

本案を産業建設委員会に付託いたしたいと思いますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は産業建設委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程 8 議第 47 号 「吉野町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正することについて」 議題として上程し、議案は事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

説明を求めます。山田参事。

山田参事

議第 47 号について説明を申し上げます。

説明資料のほうをご覧いただきたいと思います。従来、吉野町の消防団員の定数は 400 名としておったところでございますが、今回 405 名と変更をお願いするものでございます。これにつきましては、女性消防団を募集いたしましたところ、7 名の方々の応募があったため、定員を増ずる必要あるということでございます。

よろしくご審議のほどお願いいたします。

山本議長

質疑を求めます。

おはかりします。

本案を総務委員会に付託いたしたいと思いますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は総務委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程 9 議第 48 号 「吉野山地区簡易水道統合事業中央監視装置及び送水ポ

ンプ盤設置工事請負契約の締結について」を議題として上程し、議案は事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

説明を求めます。吉岡参事。

吉岡参事

議第 48 号について説明申し上げます。

工事名は、吉野山簡易水道統合事業中央監視装置及び送水ポンプ盤設置工事でございます。契約の方法は、一般競争入札による契約でございます。契約金額は 78,840,000 円で、うち消費税額に相当する額は 5,840,000 円でございます。契約の相手方は、奈良県大和高田市栄町 4 番 33 号 松田電気工業株式会社 代表取締役 辻 修 でございます。工期は、平成 28 年 3 月 29 日の竣工日と定めております。支出科目は平成 28 年度簡易水道特別会計でございます。

ご審議よろしくお願いいたします。

山本議長

質疑を求めます。

おはかりします。

本案を産業建設委員会に付託いたしたいと思いますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は産業建設委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程 10 議第 49 号 「辺地総合整備計画の変更について」を議題として上程し、議案は事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

説明を求めます。山田参事。

山田参事

議第 49 号について説明申し上げます。

議案書の裏面のほうをご覧いただきたいと思います。今回変更をお願いしま

すのは、小名辺地の計画でございます。公共施設の整備計画につきましては、町道 24 号線の事業費、従来 11,000 千円であったものを今回 22,000 千円に変更をお願いするものでございます。それ以外の計画については従来そのままとしておるところでございます。

よろしくご審議のほどお願いいたします。

山本議長

質疑を求めます。

おはかりします。

本案を総務委員会に付託いたしたいと思いますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は総務委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程 11 議第 50 号 「平成 28 年度吉野町一般会計補正予算 (案) 第 2 号について」を議題として上程し、議案の朗読を省略して直ちに説明を求めます。

山田参事。

山田参事

議第 50 号吉野町一般会計補正予算書第 2 号について説明を申し上げます。

まず 1 ページのほうをお開き願います。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 267,158 千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 5,795,283 千円とするものでございます。また地方債におきましては第 2 表地方債の補正によるところでございます。それでは 6 ページのほうをお開き願いたいと思います。6 ページ第 2 表地方債の補正でございます。今回、定住促進住宅建築事業債といたしまして 39,000 千円の補正をお願いするものでございます。続きまして、15 ページのほうをお開き願いたいと思います。歳入予算でございます。平成 28 年度の地方交付税の概算額が決定いたしましたので、地方交付税につきまして 120,535 千円の追加をお願いするものでございます。また、臨時財政対策債につきましては 27,334 千円の減額をお願いするものでございます。続きまして歳出のほうの説明をさせていただきます。21 ページのほうを

お聞き願いたいと思います。今回の補正予算につきましては、まず7月の人事異動に伴います人件費の補正。また、10月から最低賃金が上昇することに伴います補正。それらが併せまして、まず、人件費の補正が3,522千円の増でございます。この増につきましては、下水道会計で給与を計上しておりました職員を一般会計のほうで計上することによります追加ということでございます。また、最低賃金の改定に伴いまして一般会計全体で261千円の賃金の増をさせていただいております。それでは21ページの総務費のほうでございます。総務費の一般管理事業で1,039千円の補正をお願いするものでございます。主なものといたしましては、大字別施設等の助成金1,000千円でございます。これにつきましては、1施設200千円ということで5施設の1,000千円を当初予算に計上しておりましたが、申し出が多く、1,000千円がもう無くなるということでございますので、新たにまた1,000千円、5地区分を計上させていただいたものでございます。続きまして、財政調整基金積立金でございます。193,000千円でございます。これにつきましては、地方財政法7条の規定によりまして、繰越金の約2分の1を積み立てるということで193,000千円の補正をお願いするものでございます。続きまして、庁舎等管理事業でございます。修繕料といたしまして800千円の補正をお願いするものでございます。これにつきましては、議会事務局のエアコン修理に修繕費を使ってしまいました関係がございます。あと、換気扇等の修繕、取替えが必要だということでございますので、800千円の追加をお願いするものでございます。そして最下段でございます。町制60周年記念事業でございます。プロレス開催実行委員会交付金ということで、2,500千円の補正をお願いするものでございます。これにつきましては、吉野町内で実行委員会が組織されまして、その実行委員会への交付金ということでございます。続きまして1ページめくっていただきまして、中段のほうでございます。社会保障税番号制度導入推進事業713千円の補正をお願いするものでございます。これにつきましては、予防接種情報の連携に伴うシステム改修費用でございます。続きましてまた1ページめくっていただきまして25ページのほうをご覧くださいと思います。中段やや下でございます。介護保険事業特別会計繰出金3,319千円を減額するものでございます。そ

して最下段でございます。こども園管理総務事業 1,152 千円の補正でございます。主なものといたしまして、臨時職員賃金 1,075 千円でございます。これにつきましてはいま現在管理栄養士が近い機会に出産、育児休暇入るということがございますので、その際の補充の管理栄養士の賃金ということでございます。続きまして1ページをめくっていただきたいと思ひます。27ページでございます。上からふたつ目でございます。簡易水道事業会計繰出金 6,600 千円でございます。これは、簡易水道の統合に伴います変更認可申請にかかる費用でございます。そしてその次、水道事業特別会計繰出金 1,335 千円でございます。これにつきましては、繰出基準が変更になったことに伴います繰出金ということでございます。続いてまた1ページめくっていただきまして29ページでのほうをご覧ください。29ページ下段でございます。自伐林業推進事業 2,764 千円の補正をお願いするものでございます。主なものといたしましては、委託料 1,176 千円でございます。これにつきましては、自伐林業の研修委託料、これは県信連のほうへお願いする費用でございますが、それが 676 千円。そして自伐林業フォーラム、これは NPO 法人であります自伐林業推進協会のほうへお願いする 500 千円。あわせて 1,176 千円でございます。続きまして31ページのほうへ進ませていただきます。31ページの中段でございます。町道管理事業で 5,000 千円の補正をお願いするものでございます。これにつきましては、需要費の修繕料で 2,000 千円。これは、佐々羅地内他で側溝等の改修、修繕費用でございます。また、工事請負費で 3,000 千円。これにつきましては、小名地内の横断側溝の改修工事費等でございます。続きまして最下段でございます。河川整備事業 1,500 千円の補正をお願いするものでございます。これは、香東地内での河川整備事業の費用として計上したものでございます。続きまして次のページ33ページのほうをご覧ください。最上段、下水道事業特別会計繰出金。マイナスの 3,550 千円の減額でございます。これにつきましては、先ほどの機構改革に伴います人件費のときに説明させていただきましたとおり、下水道会計でみておりました職員1名の人件費を一般会計でみることに伴います減額でございます。そして、その中段下でございますが、定住促進住宅新築事業 52,000 千円でございます。これにつきましては、飯貝地内での定

住住宅の新築を計画しておるところでございます。まず委託料といたしまして造成の設計委託料が 5,000 千円。そして住宅の設計委託料が 8,000 千円。土質調査委託料 2,000 千円。併せて 15,000 千円。また、工事請負費といたしまして、造成工事の工事費 15,000 千円。そして用地購入費といたしまして 22,000 千円でございます。用地につきましては 1,366 平米最終的には 6 戸の建築を予定しておるところでございます。続きまして最下段のほうでございます。災害対策事業 1,880 千円でございます。これにつきましては主なものといたしましては委託料。防災士の研修委託料 1,830 千円でございます。いままで防災士の研修というのは、大阪とか神戸、名古屋のほうで行われておりまして、2 日間、1 泊 2 日という形で、出張の形式で挙げておったところでございますが、今回この研修を 30 名程度吉野町で受けさせるということで、吉野町で協会に研修会を開催していただくための委託料といたしまして、1 人あたり約 61 千円かかりますので、30 名分 1,830 円の計上でございます。

以上、よろしくご審議のほどお願いいたします。

山本議長

質疑を求めます。

おはかりします。

本案を予算決算特別委員会に付託いたしたいと思いますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は予算決算特別委員会に付託することいたします。

山本議長

日程 12 議第 51 号 「平成 28 年度吉野町介護保険特別会計補正予算 (案) 第 2 号について」 を議題として上程し、議案の朗読を省略して直ちに説明を求めます。

芳田参事。

芳田参事

議第 51 号について説明させていただきます。

1 ページをお願いいたします。第 1 条 保険事業勘定の既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 24,015 千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 1,346,458 千円とする旨の補正でございます。内容につきましては歳出ほうから説明させていただきたいと思っております。20 ページ 21 ページをお開きさせていただきたいと思っております。まず総務費でございます。一般管理費の負担金補助及び交付金につきまして 1,427 千円の増額をお願いしております。内容につきましては、介護ロボット等導入支援事業特例交付金 927 千円。これにつきましては、特別養護老人ホームであります柳光より、介護ロボット等の導入支援事業への応募依頼があり、国に補助要望をした結果、交付金が採択されましたので補正をお願いするものです。全額国費となります。続きまして、介護職員初任者育成補助金 500 千円。これにつきましては、介護職員初任者研修、いわゆるヘルパーさんの研修を受講される方への補助金を 500 千円譲渡させていただいております。全額県費となります。続きまして、基金積立金につきましては、財政調整基金への積立金 17,740 千円を計上させていただいております。ページをめくっていただきまして、諸支出金、償還金につきましては平成 27 年度の介護保険事業の清算に伴いまして、国の負担金への返還が生じたので 4,834 千円を計上させていただいております。

以上でございます。よろしくご審議をお願いいたします。

山本議長

質疑を求めます。

本案を予算決算特別委員会に付託いたしたいと思っておりますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は予算決算特別委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程 13 議第 52 号「平成 28 年度吉野町簡易水道事業特別会計補正予算(案)

第1号について」を議題として上程し、議案の朗読を省略して直ちに説明を求めます。吉岡参事。

吉岡参事

議第52号について説明申し上げます。

1ページをお開きいただきたいと思います。既定の歳入歳出予算の総額にそれぞれ6,600千円を追加し、歳入歳出予算の総額を1,008,246千円とするものでございます。17ページをお開きいただきたいと思います。平成28年度末に上水道への統合に伴います認可図書作成のための委託料6,600千円の増額補正をお願いするものでございます。

ご審議よろしくお願いたします。

山本議長

質疑を求めます。

おはかりします。

本案を予算決算特別委員会に付託いたしたいと思いますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は予算決算特別委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程14 議第53号「平成28年度吉野町下水道事業特別会計補正予算(案)第2号について」を議題として上程し、議案の朗読を省略して直ちに説明を求めます。

吉岡参事。

吉岡参事

議第53号について説明申し上げます。

1ページをお開きいただきたいと思います。歳入歳出予算の総額にそれぞれ3,550千円を減額し、歳入歳出予算の総額を251,150千円とするものでございます。17ページをお開きいただきたいと思います。7月1日の人事異動に伴い

ます人件費の調整で 3,550 千円の減額をお願いするものでございます。

ご審議よろしくお願いいたします。

山本議長

質疑を求めます。

本案を予算決算特別委員会に付託いたしたいと思いますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は予算決算特別委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程 15 議第 54 号 「平成 28 年度吉野町水道事業特別会計補正予算 (案) 第 2 号について」 を議題として上程し、議案の朗読を省略して直ちに説明を求めます。

吉岡参事。

吉岡参事

議第 54 号について説明申し上げます。

1 ページ目をお願いいたします。第 2 条でございます。当初予算第 3 条に定めました収益的収入及び支出について補正するものでございます。まず収入でございますが、水道事業収益に 340 千円を増額補正するものでございます。これにつきましては、繰出し基準の改正によるものでございます。また支出につきましては水道事業費用に 570 千円を増額補正するものでございます。内容は職員手当の不足分でございます。続きまして第 3 条、当初予算 4 条中の過年度分損益勘定留保資金 56,810 千円を 56,120 千円と改めるものでございます。また、資本的収入及び支出につきましては、まず収入でございますが資本的収入に 990 千円を増額をお願いするものでございます。繰出し基準の改正分でございます。続きまして資本的支出でございますが、職員手当の不足によります 300 千円を増額補正をお願いするものでございます。続いて第 4 条でございますが、予算第 7 条に定めました経費の金額を 870 千円増額いたしまして、15,630

千円とするものでございます。つづいて第5条でございますが、予算第8条に定めました他会計補助金の金額に1,330千円を増額いたしまして、14,700千円とするものでございます。

ご審議よろしくお願いいたします。

山本議長

質疑を求めます。

本案を予算決算特別委員会に付託いたしたいと思いますが異議ございませんか。

(「異議なし」 の声あり)

異議なしと認めます。よって本案は予算決算特別委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程 16 認第3号「平成27年度吉野町一般会計歳入歳出決算の認定について」

日程 17 認第4号「平成27年度吉野町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について」

日程 18 認第5号「平成27年度吉野町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について」

日程 19 認第6号「平成27年度吉野町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について」

日程 20 認第7号「平成27年度吉野町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について」

日程 21 認第8号「平成27年度吉野町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について」

日程 22 認第9号「平成27年度吉野町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について」

日程 23 認第10号「平成27年度吉野町土地開発基金会計歳入歳出決算の認定について」

を議題として一括上程し、議案の朗読を省略して直ちに説明を求めます。
山田参事。

山田参事

ただいま一括上程されました平成 27 年度決算について説明を申し上げます。

平成 27 年度歳入歳出決算説明書をご覧いただきたいと思います。まず最初に決算説明書の 4 ページのほうでございます。認第 3 号一般会計の決算状況でございます。歳入決算額につきましては 6,042,573,673 円。歳出決算額につきましては 5,581,376,627 円。形式収支といたしまして 461,197,046 円。翌年度へ繰越すべき財源は 75,549,000 円。実質収支といたしましては 385,648,046 円の黒字ということでございます。まず歳入の状況でございます。歳入総額につきましては先ほど申し上げたとおりでございます。その内訳といたしまして、自主財源といわれます吉野町の町税等につきましては 1,529,144,454 円ということで、収入全体の 25.31 パーセントということでございます。また依存財源といわれます交付税等につきましては 4,513,429,219 円。74.69 パーセントでございます。それでは歳入につきまして款別の状況を報告させていただきます。まず第 1 款、町税税でございます。町税につきましては 731,299,501 円でございます。個人町民税が 266,146,378 円。法人町民税が 41,057,440 円。固定資産税が 362,174,990 円。軽自動車税が 21,194,900 円。町たばこ税が 40,170,693 円。入湯税が 555,100 円ということでございます。つぎめぐっていただきまして、それぞれの町税の主な増減理由につきまして説明をさせていただきます。まず町民税の個人町民税でございますが、均等割りにおいては昨年とほぼ同様の税収となりましたが、人口減少による所得割り納付義務者の減少に伴いまして所得割り額が減収となったということでございます。また、法人町民税につきましては、収益の回復等によりまして法人税割りの納付法人が増加したことに伴い増収となりました。また固定資産税につきましては、土地につきましては平成 27 年度の評価替えにおいて宅地等の地価変動による土地評価額の見直しに伴い減収となったところでございます。建物につきましては、平成 27 年度の評価替えにおきまして、建築後の経過損耗による家屋評価額による見直しに伴い減収となりました。償却資産税につきましては、通信事業者及び太陽光発

電事業者等の新規設備の導入増加により、昨年とほぼ同様の税収となったということでございます。続きまして第2款地方譲与税でございます、決算額といたしまして50,537,000円でございます。内訳といたしましては、自動車重量譲与税が35,187,000円。地方揮発油譲与税が15,350,000円でございます。続きまして第3款の利子割交付金でございます。決算額が1,805,000円でございます。第4款配当割交付金につきましては決算額7,567,000円でございます。第5款株式譲渡所得割交付金は決算額7,107,000円でございます。第6款の地方消費税交付金156,012,000円でございます。これにつきましては26年度より約6千万ほど増額となっております。これは消費税率の増に伴うものでございます。1ページめくっていただきまして、8ページをお願いいたします。最上段には地方消費税交付分の通常分と社会保障財源分の内訳について記載をさせていただいております。続きまして第7款ゴルフ場利用交付金でございます。決算額といたしまして29,594,040円でございます。第8款自動車取得税交付金11,519,000円でございます。続きまして第9款地方特例交付金。決算額616,000円でございます。第10款地方交付税2,681,299,000円でございます。平成26年度に比べまして9千800万あまりの増額となっております。これにつきましては、人口減少対策経費というのが盛り込まれたことに伴います増額ということでございます。続きまして10ページのほうをご覧いただきたいと思っております。第11款交通安全対策特別交付金、決算額1,039,000円でございます。第12款分担金及び負担金でございます。3,835,956円でございます。第13款使用料及び手数料でございます。決算額といたしまして107,397,155円でございます。続きまして第14款国庫支出金でございます。決算額356,282,619円でございます。内訳につきましては、国庫負担金150,656,558円。国庫補助金201,850,097円。国庫委託金3,775,964円ということでございます。続きまして第15款県支出金でございます。決算額といたしまして263,051,560円でございます。内訳といたしまして、県負担金が143,181,236円。県補助金74,725,343円。県委託金45,144,981円という内訳でございます。続いて1ページめくっていただきたいと思っております。第16款財産収入でございます。決算額14,664,852円でございます。内訳といたしまして財産引用収入の財産貸付収入が

10,482,503 円。利子及び配当金が 2,619,225 円。財産売払収入 1,563,124 円でございます。続きまして 13 ページのほうに移らせていただきまして寄附金でございます。決算額 81,203,705 円でございます。これにつきましては平成 26 年度より 3 千 260 万あまりの増額ということになってございます。内訳を申し上げます。一般寄附金のうちの一般寄付金が 100,000 円。そして世界遺産吉野ふるさとづくり寄附金 61,866,100 円でございます。これにつきましては、ふるさと納税によるものでございまして、26 年度と比較いたしまして 3 千 200 万あまりの増となっております。衛生費寄附金でございます。2,179,656 円。し尿処理費寄附金 600,000 円。清掃費寄附金 1,000,000 円。吉野桜基金寄付金 6,615,249 円。集会所改修寄附金 3,870,000 円。街路灯整備寄附金 3,832,700 円。消防施設寄附金 1,140,000 円となっております。続きまして 1 ページめくっていただきまして第 18 款繰入金でございます。決算額 112,999,861 円でございます。内訳といたしまして減債基金繰入金 37,964,499 円。地域福祉基金繰入金が 62,186,000 円。世界遺産・吉野ふるさとづくり基金繰入金が 795,000 円。吉野桜基金繰入金が 8,263,132 円。そして、ふるさと整備基金繰入金が 3,791,230 円となっております。続きまして、第 19 款繰越金でございます。決算額 347,887,458 円ということでございます。続きまして第 20 款諸収入でございます。決算額 129,855,966 円でございます。内訳といたしまして、延滞金加算金及び過料 69,597 円。町預金利子が 854,988 円。雑入が 128,931,381 円でございます。雑入の内訳といたしましては、次表のほうに記載させていただいております。主なものといたしましては、総務費雑入が 60,133,301 円でございます。これは、広域行政組合、また医療組合へ職員が出向しております、その出向者の人件費等が町のほうに収入としてあがってきておるといようなものでございます。続いて 1 ページめくっていただきまして、16 ページのほうをご覧くださいと思います。第 21 款町債でございます。決算額は 947,000,000 円でございます。平成 26 年度と比較いたしまして 326,500,000 円の増ということでございます。これにつきましては、南和の医療施設の整備費用といたしまして今回多くなった部分でございます。町債の目的別発行状況につきましては表のほうに記載のとおりでございます。続きまして 17 ページの歳出のほうに移らせて

いただきたいと思ひます。歳出につきましては、決算額が 5,581,376,627 円でございます。翌年度への繰越額といたしまして 148,159,000 円でございます。まず第 1 款でございます。議会費のほうでございます。決算額 87,775,469 円でございます。第 2 款総務費でございます。決算額 1,060,449,312 円でございます。昨年度に比較いたしまして、7 千 100 万あまりの増額ということになってございます。この増額の理由でございますが、企画費のほうで 1 億 100 万円の増額になってございます。これにつきましては、各費目にほうに分散しておりました地域おこし協力隊をすべて企画費のほうで計上させていただいた分。また、昨年度立てました総合計画、後期基本計画の策定費用等でございます。また、総務管理費のほうでは 500 万あまりの減額となっております。これにつきましては、平成 27 年度の退職者が減したことによります減額ということでございます。そして、情報管理費のほうで 3 千 540 万あまりの増額となっております。これは、マイナンバー関連に伴いますシステムの改修や導入に係る費用ということでございます。続きまして、1 ページめくっていただきまして第 3 款民生費でございます。決算額 1,052,793,339 円ということで、前年度に比べまして 76,699,570 円の増額となっております。内訳といたしまして、社会福祉費 886,502,792 円。児童福祉費といたしまして 153,683,519 円。これにつきましては、約 7 千 500 万あまりの増額となっております。これは、平成 26 年度まで幼稚園として教育費におりました部分がこども園として民生費のほうにその費用に持ってきた関係で増額となっております。また人権施策推進費 12,607,028 円ということでございます。続きまして 19 ページのほうに移らせていただきます。第 4 款衛生費でございます。決算額 1,305,015,874 円でございます。内訳といたしましては、保健衛生費 928,544,484 円。清掃費 371,265,259 円。環境対策費 5,206,131 円ということになってございます。保健衛生費につきましては、前年度に比較して 3 億 4600 万あまりの増額となっておりますが、これは、南和医療への負担金の増額でございます。続きまして、第 5 款農林水産業費でございます。決算額 136,934,685 円でございます。平成 26 年度と比較いたしまして 32,420,641 円の減額でございます。内訳といたしまして、農業費が 69,324,441 円。これにつきましては、昨年度と比べまして 31,097,695 円の減

額。これは、地籍調査事業、上市が終了したことに伴います減額でございます。林業費 67,480,244 円。水産業費 130,000 円でございます。続いて 1 ページめくっていただきまして第 6 款観光商工費でございます。決算額 157,015,517 円でございます。昨年度と比較いたしまして、2,815,256 円の増ということでございます。内訳といたしまして、観光交流費 51,627,128 円。観光費 36,220,295 円。観光施設費 6,015,909 円。商工業振興費 63,152,185 円でございます。この中で、商工業振興費につきましては 26,857,963 円の増となっておりますが、これにつきましては、プレミアム商品券等の発行に伴います費用が計上されたことによる増でございます。続きまして第 7 款土木費でございます。決算額 528,469,835 円でございます。26 年度と比較いたしまして、139,013,678 円の増加でございます。内訳といたしまして、土木管理費が 47,407,538 円。道路橋梁費が 85,095,584 円。河川費が 4,629,119 円。都市計画費が 114,620 円。下水道費といたしまして 173,511,341 円。住宅費といたしまして 217,711,633 円となっております。この中で住宅費につきましては 1 億 4,600 万弱の増ということになってございます。これは、定住住宅新築に伴う費用が計上されたことによるものでございます。続きまして第 8 款消防費でございます。決算額 300,409,109 円でございます。前年度と比較いたしまして 7,487,847 円の減でございます。内訳といたしまして、常備消防費が 254,242,000 円。非常備消防費 39,614,240 円。消防施設費 2,886,840 円。災害対策費 3,666,029 円でございます。つぎ、1 ページめくっていただきまして、第 9 款教育費でございます。決算額 389,810,871 円。26 年度と比較いたしまして 62,893,976 円の減でございます。内訳といたしまして、教育総務費が 123,676,929 円。小学校費 58,469,771 円。中学校費 25,883,829 円。社会教育費 81,148,765 円。保健体育費 100,631,577 円となっております。昨年度と比較いたしまして、幼稚園費がゼロとなっております。79,344,703 円の減となっております。これにつきましては、こども園ということで民生費のほうで計上させていただいたことに伴う減ということでございます。続きまして、第 10 款の災害復旧費でございます。決算額が 3,817,360 円でございます。昨年度と比較いたしまして 50,613,516 円の減でございます。これにつきましては、平成 27 年度は災害が

少なかったということでございます。続きまして、第 11 款の公債費でございます。決算額が 558,885,256 円。26 年度と比較いたしまして、42,736,420 円の減ということでございます。そして第 12 款予備費でございます。平成 27 年度につきましては、予備費の支出は行っておりません。

続きまして 24 ページのほうに移らせていただきます。

認第 4 号、国民健康保険特別会計の決算でございます。歳入決算額につきましては 1,447,157,853 円。歳出決算額につきましては 1,427,428,313 円。形式収支といたしまして 19,729,540 円。翌年度へ繰越すべき財源といたしましては 0 円となっておりますので、実質収支は 19,729,540 円の黒字でございます。歳入につきましてはただいま申し上げましたとおりです。歳入の内訳につきましては、国民健康保険税が 231,915,169 円。使用料および手数料が 71,600 円。国庫支出金 279,756,209 円。療養給付費交付金 41,813,000 円。前期高齢者交付金 387,307,113 円。県支出金 69,998,948 円。共同事業交付金 291,627,872 円。財産収入 122,553 円。繰入金 126,962,693 円。繰越金 15,254,213 円。諸収入 2,328,483 円でございます。大きく変わっておりますものにつきましては、国庫支出金が 4 千 600 万あまりの減ということになっております。これは、医療費の減に伴います補助金の減でございます。また、前期高齢者の交付金につきましては、6 千 700 万あまりの増となっております。これは、対象者の増に伴います増加となっております。また、共同事業交付金につきましては 1 億 1700 万あまりの象となっておりますが、これは、共同事業の事業対象が拡大されたことに伴います増ということでございます。それでは 25 ページ、国民健康保険特別会計の歳出に移らせていただきます。歳出の決算額につきましては 1,427,428,313 円でございます。主な内訳といたしましては、総務費が 6,469,071 円。保険給付費が 891,911,761 円。後期高齢者支援金等 141,847,573 円。前期高齢者納付金等が 90,400 円。老人保健拠出金が 7,054 円。介護保険納付金が 57,216,713 円。共同事業拠出金が 307,240,029 円。保健事業費が 9,262,461 円。基金積立金 122,553 円。諸支出金 13,260,698 円。予備費 0 でございます。昨年度と比べて大きく変わっておりますものは、共同事業拠出金でございます。これにつきましては先ほど申し上げましたとおり、共同事業の対

象事業が拡大されましたことに伴います増、1億3,700万あまりでございます。そして、国民健康保険事業の概要を前年度と比較をさせていただきますと、加入世帯数については1,456世帯ということで、43世帯の減ということになってございます。被保険者数につきましては2620人。前年度に比べまして93人の減でございます。1世帯当たりの保険税額につきましては159,282円で、12,980円の増。1人当たりの保険税額につきましては88,517円で7,682円の増になっております。また、1人当たりの費用額につきましては406,823円となっております、31,116円の増となっております。

続きまして26ページに移らせていただきます。

認第5号後期高齢医療特別会計の決算でございます。歳入決算額につきましては138,744,076円。歳出決算につきましては138,256,986円。形式収支といたしまして487,090円。翌年度へ繰越すべき財源はございませんので実質収支487,090円の黒字でございます。歳入についての状況を説明させていただきます。歳入額につきましては先ほど説明させていただいたとおりでございます。内訳といたしまして、後期高齢者医療保険料88,075,460円でございます。使用料及び手数料につきまして17,120円。繰入金47,989,952円。繰越金167,190円。諸収入2,494,354円でございます。続きまして27ページ歳出のほうに移らせていただきます。歳出の決算額につきましては138,256,986円でございます。内訳といたしまして、総務費2,370,843円。後期高齢者医療広域連合拠出金133,309,931円。保健事業費が2,293,212円。諸支出金が283,000円ということでございます。後期高齢者医療事業の概要を前年度と比較いたしますと、被保険者数につきましては1963人ということで13人減少してございます。一人当たりの保険料につきましては45,097円ということで1,774円減少してございます。1人当たりの費用といたしましては38,803円というので2,841円の総額ということでございます。1人当たりの費用といたしましては921,263円ということで70,351円の増加ということでございます。

続きまして28ページのほうに移らせていただきます。

認第6号介護保険事業特別会計でございます。歳入決算額につきましては1,144,535,810円。歳出決算額につきましては1,123,855,319円。形式収支と

いたしまして 20,680,491 円。翌年度に繰越すべき財源はございませんので、実質収支は 20,680,491 円の黒字でございます。歳入の状況でございます。歳入につきましては先ほど申し上げたとおりでございます。内訳につきましては、保険料 217,935,600 円。国庫支出金が 294,909,595 円。支払基金交付金が 302,597,000 円。県支出金 164,237,290 円。財産収入 164,835 円。繰入金 154,487,226 円。繰越金が 9,703,414 円。諸収入が 500,850 円ということでございます。昨年度と比較いたしまして、保険料が 3 千 200 万あまり増ということでございますが、これは、保険料率をアップしたことに伴うものでございます。また、国庫支出金、支払基金交付金、県支出金につきましては、それぞれ 1 千万、2 千 500 万、600 万の減額ということでございますが、これは、利用者の減に伴う減額ということでございます。それでは、介護保険の歳出に移らせていただきます。歳出の決算額は 1,123,855,319 円でございます。内訳いたしまして、総務費のほうで 15,528,528 円。保険給付費が 1,073,952,513 円。地域支援事業費 24,320,717 円。基金積立金 164,835 円。諸支出金 9,887,726 円でございます。大きく変わってりますのは、保険給付費が 2 千 780 万あまり減額ということになっております。これは、利用者が減少したことに伴います給付費の減額ということでございます。介護保険事業の概要を前年度と比較いたしますと、被保険者につきましては 3,453 人ということで、前年度と比較いたしましと 25 人減少してございます。要介護認定者数が 745 人ということで、35 人減少してございます。サービス利用者数（在宅）につきましては 427 人ということで 2 名の減ということでございます。サービス利用者数（施設）のほうは 143 名ということで 17 名の増でございます。また、サービス利用者数（地域密着）のほうは 13 名ということで、1 名の減ということでございます。続きまして、30 ページのほうでございます。介護保険事業特別会計のサービス事業勘定でございます。歳入決算額につきましては 5,638,648 円。歳出決算額については 5,638,648 円ということで、歳入歳出とも同額でございますので、実質収支は 0 ということでございます。

続きまして 31 ページのほうに移らせていただきたいと思います。

簡易水道事業特別会計でございます。歳入決算額については 857,310,107 円。

歳出決算額につきましては 818,874,777 円。形式収支といたしまして 38,435,330 円。翌年度に繰越すべき財源がございませんので実質収支 38,435,330 円の黒字ということでございます。歳入の状況を説明させていただきます。歳入総額につきましては、先ほど申し上げたとおりでございます。内訳といたしまして、負担金及び交付金につきましては 30,000,000 円。使用料及び手数料は 70,938,165 円。財産収入が 78,546 円。繰入金が 43,096,941 円。繰越金が 32,264,515 円。諸収入が 22,300,940 円。国庫支出金が 116,031,000 円。町債が 542,600,000 円でございます。昨年度と比較いたしまして大きく増えたもので、つきましては、町債 3 億 7560 万円増加ということでございます。これは、吉野山の簡易水道統合事業に伴います借り入れでございます。そして続きましての表につきましては、簡易水道後との使用量等について記載をさせていただいておるところでございます。続きまして 32 ページのほうをご覧くださいと思います。簡易水道事業の歳出の状況でございます。歳出の決算額につきましては 818,874,777 円でございます。内訳といたしましては簡易水道費が 771,008,962 円。公債費が 47,865,815 円ということでございます。簡易水道費の内訳といたしましては、総務管理費が 36,678,800 円。基金費が 78,546 円。水道管理費が 29,298,446 円。建設改良費が 704,953,170 円でございます。これにつきましても吉野山簡易水道統合事業に伴います増、3 億 7 千 800 万あまりということになってございます。続きまして 33 ページのほうには、各簡易水道事業ごとの決算状況について記載をさせていただいておるところでございます。

続きまして 34 ページのほうをお開きいただきたいと思います。

34 ページ、認第 8 号下水道事業特別会計の決算でございます。歳入決算額につきましては 248,632,833 円。歳出決算についても 248,632,833 円ということで、歳入歳出ともに同額でございますので、収支は 0 ということでございます。歳入の状況につきましては、先ほど申し上げましたとおりでございます。内訳といたしましては、負担金及び交付金が 1,857,800 円。使用料及び手数料が 24,392,570 円。国庫支出金が 6,400,000 円。繰入金が 158,382,463 円。町債が 57,600,000 円ということでございます。続いて、下水道事業の歳出の状況でこ

ございます。歳出は先ほど申し上げましたとおり 248,632,833 円でございます。内訳といたしましては、下水道事業費が 53,291,542 円。公債費が 195,341,291 円でございます。35 ページのほうに移らせていただきまして、下水道事業の普及の状況を前年度と比較させていただきますと、上から 4 つ目でございます。整備区域内人口については 2,375 人ということで、前年度と比較して 2 人増でございます。また、下から 2 段目でございますが、下水道への接続人口といたしましては 1,888 人ということで、昨年度と比較いたしまして 140 人の増でございます。下水道の接続率については 79.5 パーセントということで、昨年度と比較して 5.5 パーセントよくなっておるということでございます。

続きまして 36 ページのほうをご覧くださいと思います。

認第 9 号農業集落排水事業特別会計でございます。歳入決算額につきましては 33,893,864 円。歳出決算額につきましては 26,901,108 円。形式収支といたしましては 6,992,756 円でございます。翌年度へ繰越すべき財源はございませんので、実質収支は 6,992,756 円の黒字ということでございます。歳入の状況につきましてはいま申し上げましたとおりでございます。歳出につきましてもいま申し上げましたとおりでございます。内訳といたしまして、農業集落排水事業費が 4,572,230 円。公債費が 22,328,878 円ということでございます。

続きまして、認第 10 号吉野町土地開発基金会計決算書について説明を申し上げます。認第 10 号決算書、2 ページをご覧くださいと思います。まず、現金勘定についてでございます。歳入につきましては預金利子が 26,592 円。貸付金元利収入が 26,190 円。繰越金が 33,878,493 円ということで、合計 33,931,275 円ということでございます。歳出につきましては、事業を行っておりませんので 0 ということでございます。続きまして、資産の内訳でございます。有形固定資産が 236,355,491 円でございます。これの内訳につきましては、3 ページのほうに記載をさせていただいておるところでございます。続きまして、投資でございます。87,300,000 円。これは、土地開発公社への貸付金でございます。そして、先ほどの現金勘定でございました 33,931,275 円が流動資産として、現金預金として 33,931,275 円ということで計上させていただいておるところでございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

山本議長 ただいまの各会計歳入歳出決算の監査報告を、浜田監査委員にお願いいたします。

浜田議員 去る8月5日、大西監査委員と共に、地方自治法第233条第3項の規定により、平成27年度吉野町一般会計、特別会計の各決算における歳入歳出簿等の、審査並びに、平成27年度決算に基づく財政健全化審査をおこなった結果を、報告いたします。

審査の結果、

- ①歳入歳出簿等の関係帳簿は、すべて正確であった。
- ②各収支とも、決算内容は法に触れるものがないと認める。
- ③歳入歳出とも、適正に行われており、すべて予算に適合しているものと認める。
- ④決算内容は、正確に処理されており、誤りがないものと認める。
- ⑤歳計現金の管理状況は、万全かつ適正な管理を行っているものと認める。
- ⑥財政健全化審査における実質公債比率については、早期健全化基準を下回り概ね適正である。
- ⑦将来負担比率については、早期健全化基準と比較するとこれを下回り概ね適正である。

との結果でありました。

以上、平成27年度吉野町一般会計、特別会計の歳入歳出決算の審査報告を終わります。

山本議長 上程いたしました各会計歳入歳出決算について質疑を求めます。
上滝議員。

上滝議員 丁寧に、先ほど総務参事の山田君のほうからいろいろとご説明をされましたが、実は、平成27年度に国民健康保険税を1割上げ、あるいは介護料を1割か

ら2割上げたとなっております。そんななか、財政調整基金が平成27年の決算で、介護保険料と、それから国民健康保険税の基金の金額だけもう一度ご説明いただきたい。

以上。

山本議長

山田参事。

山田参事

それでは私のほうからまず基金のほうからご説明いたします。

先ほどの決算説明資料の39ページのほうをご覧くださいと思います。39ページには一般会計分の基金の残高を記載させていただいておるところでございます。まず財政調整基金につきましては、平成27年度には137,435,936円を積み立てまして、27年度末残高末残高といたしまして837,464,529円となっております。40ページ以降で国民健康保険特別会計の基金の状況、また介護保険特別会計の基金の状況について記載をさせていただいておるところでございます。国民健康保険特別会計の財政調整基金につきましては、平成27年度末で残高1,920,827円というところがございます。また介護保険特別会計の平成27年度末の財調基金残高については82,652,584円ということがございます。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

ただいまご説明を聞いたうえでございますけれども、介護保険料については8千万ほどの繰越があると。基金があると。一方、国民税が小額の190万であるとご説明があったわけでございますけれども、たいへん国民健康保険の加入者が減ってきておるかと思っておりますけれども、非常に国民年金で生活されておられる方がたいへんな状況でございます。そんななか、またまた公共料金を上げる可能性があるのかなと、そんな想いでいま質問をした訳でございますけれども、できるだけ公共料金は上げないような努力をしていただくという前提でものを申したわけでございますので、今後ご参考をお願い申し上げます。

終わります。

山本議長

おはかりします。

認第3号から、認第10号について、予算決算特別委員会に付託いたしたいと思いますが、異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって認第3号から認第10号につきましては予算決算特別委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程24「要望等について」要望書が1件提出されております。

上市町内会連合会会長 轟町内会長 梶井 啓司氏 他7名より提出されております「消防車両更新についての要望書」についてを議題とし、事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

意見を求めます。

おはかりします。

本要望については、総務委員会に付託いたしたいと思いますが、異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本要望は、総務委員会に付託することにいたします。

山本議長

日程25 一般質問に入ります。

辻本茂議員より出されております

(1) 『日本一の子育てを目指す吉野町の子育て支援並びに教育指針等の現在進捗状況は住民ニーズに合った行政であるのか?』について

(2) 『日本一の健康長寿を目指す吉野町の老人福祉等の現在進捗状況は住民ニーズに合った行政であるのか?』について

(3) 『男女雇用均等法・女性活躍推進法に鑑み、町職員のみなさんの働き方』について

の一般質問をお願いいたします。

辻本議員。

辻本議員

一般質問をお願いしたいと思います。

冒頭すみません。発言事項、質問要旨、若干タイトルが長くなってしまいましたので申しわけございません。区切ってお伺いをしたいと思います。

まず、1つ目でございます。日本一の子育てを目指す吉野町の子育て支援並びに教育指針等の現在進捗状況、また住民ニーズに合った行政になっているのかどうかについてでございます。

子育て支援等についてお伺いするわけでございますけれども、今月、9月は決算議会ということもございしますが、財政面も含めて住民ニーズに合った子育て・教育行政は計画どおり進んでいるのでしょうかというところで、北岡町政になりましてから日本一を目指すんだと、以前お伺いした際にも相当な意気込みを持って取り組んでいくんだということを町長からお伺いしておりましたが、私自身も想像もつきませんでした。日本一を目指すんだと、本当にすばらしい心意気だなというふうに思っておりますが、数年行政のほう進んでまいりました。

そろそろさまざまな状況の中で結果が見えつつあるのかなというふうに思っております。子育て会議等、住民の皆さんも熱心に参加していただいたり、そしてまた、子供の医療費等助成を拡充したり、さまざまやっただいておると思うんですが、現在計画どおり進んでいるのかどうなのか、日本一というのをそろそろうまく見えてくるものがあるのかなという一般的な質問でございます。町長、教育長、担当参事のほうで答弁をお願いしたいと思います。

山本議長

町長。

北岡町長

ご質問ありがとうございます。

日本一の子育て支援を目指すという話でございました。日本一の子育て支援につきましても、第4次総合計画の前期基本計画に重点施策として上げさせていただきます。

主な施策といたしまして、挙げると切りがないのでございますが、ざっと簡単に項目だけ言わせていただきますと、学童保育の実施をさせていただきました。認定こども園を開園させていただきました。子育てサポーターと未就園児の集いの場として、にこにこランド等の開催をしております。子育て相談を開催しております。子育てガイドブックを作成いたしまして、これは非常に好評でございまして、各市町村長からもお褒めをいただいております。子育てメール配信を開始しております。また、定住促進の奨学金制度ということで、平成27年度からでございますが、奨学金を出して定住していただければ返還は要らないというふうなことをやっております。子ども・子育て支援事業計画を作成いたしました。また、教育相談体制を充実しております。また教育内容の充実ということも進めております。ふるさと教育の推進という形で進めております。こういう形で前期進めてまいりまして、今後期基本計画を策定し、今後期基本計画の1年目でございます。

後期では、子供と親がともに笑顔で成長していけるよう、地域を挙げて社会全体で子ども・子育てを支援し支え合う町づくりを進め、子育て家庭が孤立しないよう情報交換と仲間づくりができる場や相談体制の充実を住民の方のニーズ等を確認してさらに推進していきますということでございます。

主な施策といたしましては、教育・保育サービスの充実、子育てに関する交流や情報提供、子育て支援、医療を継続し、また増加すると。教育・保育内容を充実する。子供と親が安心して住める場所づくりを進める。ふるさと教育を進めるというふうなことでございまして、事務事業評価等も進めておりながら、非常に評価が高い数字でございます。

日本一の子育てということやって、意気込みだという話をさせていただきました。現状はいろんな各市町村がやられること、やられていないことは何か

とか、皆さん方のニーズを聞きながらやってまいりました。やってまいりましたが、项目的な問題とか内容とか、ほとんど奈良県でも有数の状態にはなっているとは自負しておりますが、これがそのまま受け入れられているかという、また疑問でございまして、今回いろいろ調査しましても、大変大事なことだけれどもそんなに皆さん方に大満足だという状況ではないというふうなことは認識しております。

日本一という、今回そういう言い方を後期では言わなくなったんです。日本一といいますと、意気込みということもありますが、つい比較してほかの市町村でやっていることに追いつこうと、我々は行政の、言葉は悪いですけども、上から目線的な、こんな制度がありますよ、しますよということをつい走ってしまいます。これはよくないと。住民の方々が本当に何を望んでおられて、どうということなのかということで、今度は日本一という、もし言葉を使うならば、日本一の満足度を目指すべきであるというふうな形をとっております、細かく住民の方々のニーズを聞きながら、それに対応するという形をこれからは重点的にやってまいりたいなという思いでございまして。

山本議長

辻本議員。

辻本議員

そうですね。非常に大きなテーマなので、難しいところがあるかと思えます。日本一にこだわっているわけですけども、私は。恐らくは全国でうちの町は日本一の子育て支援をやっているんだと胸を張っておっしゃっているところもあるのかなと思えます。ただ、財政面も含めて非常に厳しいハードルである。しかしながら、そういう形を持って教育行政を進めていくというのは、継続して大切なことだと思えます。もちろんその中には財政、そして計画というところがあるんですが、就任してそろそろ教育長も落ちついてこられたのかなと思えますけれども、4総も、今、町長が紹介していただきましたが、計画どおりというような形で、教育長として今どのように捉えておられるのかというところをお聞かせいただければなと思えます。

北岡町長

教育長。

森 本
教 育 長

自席にて回答させていただきます。

この4カ月ですけれども、私、見させていただきまして、子育て支援体制というものについては、本当にきめ細やかな体制が組みられていると思います。それを今着実に進めているところでございますけれども、今、町長のほうから概要を言っていただきましたので、私のほうといたしまして、少し内容的なところでお話をさせていただきたいと思います。

町長のほうから、ふるさと教育の推進ということが出されておりました。それにつきまして少し内容をお話をさせていただきたいと思います。

教育大綱にもありますように、「ふるさと吉野への郷土愛、愛着心あふれるひとづくり」ということで現在教育を進めておりますけれども、その中核になりますふるさと学習というものにつきましては、これは本町の教育の特色であると考えております。

特にこの教育を進めるに当たりまして、まず、地域の特色ある産業や自然・文化・歴史等のそれに携わる人々の生きざまということを学習することを通して、この吉野町に誇りを持ち、そして今まで築いてきていただいたことを子供たちが自覚をし、そして続いて、例えば、学校内における特別活動、学校行事等でみずから自分たちが主体的にその活動にかかわろうとする子供、またそれがひいては吉野町の活動に参加していこう、そういうようなところを目指したふるさと教育でございますけれども、それが一つ一つ進んでいっているように思います。

以上でございます。

山本議長

辻本議員。

辻本議員

継続して吉野町を愛する心を育てる教育というのを続けていただきたいなというふうに思います。本当にそういう意味でいうと、中学生の職場体験でありますとか吉野町の産業について、やはり子供たちによく知っていただくという

のも大切かなと思います。

先ほどさまさま町長のほうからも学童であったりこども園であったり、本当にきめ細やかにたくさん事例を取り組んでいただいていると。あえて言うならば、それをしっかりと町民の皆さんにお伝えし、そして理解していただき、行政としてはこれだけ汗かいているんだというのも、一つお伝えすることによって、それがまた返ってきてよりよきものになるのかなというふうに思いますが、次長にお伺いします。

先ほど町長のほうから、やはり日本一の満足度というのを新たに今後は考えるべきじゃないかなというふうにご答弁いただいたんですが、その満足度とは、要するに住民ニーズだと思うんです。教育委員会として子育て支援等について住民ニーズを受けとめるという形を考えたときに、どのような形で今現在されているのでしょうか。よろしくお願ひします。

山本議長

和田次長。

和田次長

ありがとうございます。

子育て支援につきましては、吉野町については、先ほど町長のほうからお話もありましたけれども、住民のニーズとか財政状況、経済的な状態も含めましてご負担を減らすような形で進めてきたわけでございますけれども、毎年、事業につきましては、まず事務事業評価、施策評価をさせていただき、効率的に住民の皆さんが満足を得るような事業を進めているかという部分については、職員が点検をしながら財政計画であったり行財政改革であったり、その方針に基づき施策の見直しをしております。

ただ、住民の皆さんのニーズというのが一番大事な話でありまして、住民の皆さんの意識調査であるとかアンケート調査、そういったものを、計画を立てるときには実施もしております。ただ、総合計画の中でも指標というのがございますので、その辺の達成度、また、住民の皆さんが何を望んでいるのかというふうな部分も含めて精査をしていきたいなというふうに思っております。

特に、地域担当ということで今やっておりますけれども、町政懇話会、先日

もさせていただいたと思うんですけども、そういった中できめ細やかな住民の皆さんのニーズを確認しながら事業を進めていきたいというふうに思っております。

山本議長

辻本議員。

辻本議員

その時々でというような形かも知りません。今現在アンケートをやっているとかというのがあるのかな、どうなのかなというのも思ったりしていたんですが、もちろん住民ニーズというのは日々変わってくると思います。今現在、国の指標というか、よく言われているのは6人に1人の子供さんが貧困状態であるというような数字もあるようです。

実際に言いますと、例えば地域的な事情というのがあるんですが、よくお聞きするのは、やはり子供さんが就学という形の中で、親御さんが一生懸命応援しているという姿をお聞きするところによると、多くよく聞くのは樫原であるとか、そちらのほうに、もう本当に熱心な方でしたら、毎日ほど塾へ往復送っていらっしゃる方もおられるように聞きます。すごい努力されているんです。実際のところ私も子育てしてきましたけれども、そこまではやっていなかったなというふうに思っているんですが、その労力、時間的なもの、それからもちろん経済的な面を考えてもすごい大変なことをされているんだなど。

よく言われる有名な進学塾というのをお聞きしたりするんですが、ある住民さんとお話ししていたら、吉野町内にそういうのが1つあったらすごく助かるねけどなとか、ただ、それも民間事業者の話でありますので難しいところもあると思うんですけども、例えば東京都内で行政が学校終わってからそういうような形で塾を誘致してやっているような、そういう取り組みをされていることも以前はお聞きしていました。今どうなっているのかは知らないんですけども。

例えば、住民ニーズの一つとしてお聞きするのは、やはり進学して、小学校、中学校の間はいいんですけども、高校になるとやっぱり電車に乗って通学をすると。そのときに親御さんが駅まで送り迎えをしている姿、たくさん見ます。

それこそ上市駅なんかでも7時の最初の電車の時間帯であつたらすごく渋滞するぐらいで、駅前のロータリーがいっぱいになるような、そんな状況があります。

うまく通学バスの連係というのを利用していただけるような形できないのかな。ただ、個々家庭においてさまざま事情はあるようなんですが、気になるところがあります。

さらには、先ほど6人に1人が貧困というような話もありましたけれども、最近よく言われているのが、特に奨学金を受けて進学をする、大学に行くということで、中には学部によってはかなり高額な奨学金を受けて社会人に出るときにマイナスからスタートしていく。中には数百万というような形で大変な思いをされている苦学生というか、そういったお話もよく聞きます。

吉野町の将来を担う子供たちがそういった形で、本来であれば高校授業料無償化というのがあるんですが、大学においても奨学金の拡充というのも国でやってもらえたらいいんですけども、ある意味ひよつとしたら町として助けができるようなことがあるんじゃないかなというふうに、私自身は考えたりもしております。

たとえわずかであっても、社会でマイナススタートするんじゃないしに、しっかりと頑張ってもらいたいというような形をつくれればよりよいのではないかなと、そういったニーズ、住民さんとお話ししていたらさまざまお聞きします。また、ぜひ教育委員会のほうで、今現在、各それぞれご家庭によってご事情は違うとは思いますが、広く対話のできるような教育行政をとっていただければなというふうに思います。

時間のほう制限ございますので、すみません、2点目質問させていただきます。

日本一の健康長寿を目指す吉野町の老人福祉等の現在進捗状況は住民ニーズに合った行政であるのかということで、これも先ほどの子育て支援とよく似ているような感覚で私自身は捉えておるんですが、今吉野町で、自動的にと言ったら失礼ですけども、どんどん高齢者の方が増えていっております。もちろん健康で長生きしていただくほど保険料のほうも、当然歳出も減っていくわけ

なんですが、4次総合計画の中でも当然このことに触れてさまざま議員の皆さんもされて、いろんな意見を交換されておられました。

町長と担当参事にお伺いたします。

日本一の長寿の町であるという、そういうのを目指すとか、そういう単純な話ではないと思うんですが、今現在進めていただいている行政の中で順調よくいっているのでしょうか。町長のほうから一言答弁をお願いしたいと思います。

山本議長

町長。

北岡町長

自席から失礼いたします。

この話も、日本一の健康長寿、同じ話でございまして、当然前回も前々回も質問いただいて、やっぱり意気込みだという話をさせていただきました。これも同じでございまして、ただ健康寿命という指標があることはありますが、それを延ばすことももちろん県も目標とされていますし、我々も目標にするべきでございまして、これも同じく制度としてはいろいろなことをやりながら、最終的にはやっぱり住民一人一人の満足度を上げていくということが一番であると。満足度が日本一であるということを目指すべきだということを思っております。

前期の計画では、日本一の健康長寿を目指しますという重点プロジェクトを立ち上げまして、また後期では、いきいきと暮らすことができる健康長寿社会の形成という形で引き継がれております。

昨年度に健康増進計画を策定いたしました。健康づくり介護予防サポーターを核として町民主体による自主的な健康づくりの活動が地域で展開され、町全体に広がるように推進し、町民が元気で健康的な町を実現するというふうに記しております。

平成27年度に第2次吉野町健康増進計画及び食育推進計画を策定いたしました。この計画では、食生活、運動、心の健康、受動喫煙の防止、健康管理の5つの分野に分けて目標値を上げております。目標値を上げましたら、もうそれにかかわりまして進捗ぐあい等をきちっとチェックしながら進めてまいりたい

と思っております。

また、地域包括支援センターでは、地域ケア会議を昨年より立ち上げております。現在介護予防と健康づくりとした事業、誤嚥性肺炎のケアに特化した口腔ケア推進事業、認知症に目を向けた認知症予防サロン、笑いヨガ普及啓発事業、吉野町健康ウォーキング連携推進事業というのを行っております。

さまざまなニーズに応えながら、健康で明るく楽しくいかに暮らしていただけるかということのをこれからも大事にしていきたいと思っております。

以上でございます。

山本議長

辻本議員。

辻本議員

同様に、満足度を高く目指すんだということとともに、目標値をしっかりと見据えつつ、さまざま施策事業を進めていくんだという力強いご答弁をいただいたのですが、先ほどの27年度決算報告の説明のほうにも出ておりましたけれども、後期高齢者、前期高齢者というふうに分かれておりますが、ここに来てというか、当然ですけれども、団塊の世代の方、やはり多いので、前期高齢者の方がいきなりかなり増える時代がここ数年来るということでございます。そういった中でも、やはり健康で長生きしていただけるような老人の皆さん、もちろん高齢者の方で病と闘っておられたりとか、さまざまな場面で町としてケアが必要なことはあると思うんですが、担当参事にお伺いしたいと思います。

当然具体的に社協のほうでもいろいろ頑張っていただいでいて、シルバー人材センターも独立をされ、生きがいを持って日々仕事に打ち込まれたり、そしてまたさまざま地域の中で活躍される方もたくさんおられます。住民ニーズに合った取り組みということで、今回は老人クラブさんについてお聞きしたいと思えます。

老人クラブさんのほうも、県や町から助成金をいただきながら日々活動されておられるんですが、よく聞くお話としては、なかなか先立つものが活動するには必要やねんと、何とかならへんかなというような声はよくお聞きします。ただ、吉野町で最大の組織でもある老人クラブさんですけれども、以前、昔か

らの補助金制度等で右から左へというような時代ももう過ぎてきておりますので、何かいいことできればいいのにな、町のために役立つことをして、老人クラブとして活動費捻出できたらいいのになとか、そういうような前向きなお声も聞きます。そういったところ踏まえて、担当参事のほうから担当課で老人クラブさん頑張ってくださいねというような、そういった取り組みはされておられるのでしょうか。よろしく願いいたします。

山本議長

芳田参事。

芳田参事

高齢者の健康・介護両面について老人クラブが果たす役割というのは大変大きいということは私どもも感じております。しかし、年々現実には老人クラブの会員数が減っているということについて、町としても苦慮をしておりますし、これからの課題かなということは感じております。

今ご指摘いただいたとおり、老人クラブの活動をより魅力的に充実させるということについては、ある程度の財源が必要であるということもご指摘のとおりかなということは感じております。

それで、今現在行われている老人クラブの活動について、県・国との補助メニュー等とも突き合わせまして、新たに補助金をいただけたりするようなマッチングについては今後検討していきたいと考えております。町としても、また老人クラブの事務局を持っております社会福祉協議会等についても、そういった新しい前向きの取り組みについて何かお手伝いできるようなことが、その補助要綱等も検討しながら検討してまいりたいと考えております。

山本議長

辻本議員。

辻本議員

ぜひ対話をするというのが非常に大切かなと思います。もちろん紙でアンケートをとってというのも、まあまあその入り口になるのかもわかりませんが、できる限り対話をする形でさまざまなニーズを聞いていただきながら、よりよき方向になることを願っております。ひょっとしたら町からこうやって

くださいと言うよりも、住民の方からこうやったらどうでしょうかというような前向きなお話もたくさん聞けるのではないかなというふうにも思ったりしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

3つ目でございます。

前回もちょっとお聞きしたんですが、なかなか非常に働き方について考えるといっても幅が広くあります。特に今年女性活躍推進法というのも施行されて、なお男女雇用均等法というような中で吉野町の職員の皆様方も大変頑張っていると思います。特にそういった中で吉野町においては、よく言われるセクハラとかパワハラとか、そういうのではないと思います。ないと思いますという言い切りもあれですけども、どこで担当されてそういうような形をされているのかわかりませんが、

また女性の方の専門職化、そしてまた管理職登用についてというところで町長にお伺いしたんですが、女性ならではの場面でも専門職される場合もありますでしょうし、男性・女性問わず知識豊富な方が仕事を進められるということもあると思います。今現在、専門職として女性が活躍されているのか。また管理職として今後女性管理職の方が増えてくるのか、そういった一般的な質問になりますけれども、町長にご答弁をお願いしたいと思います。

山本議長

町長。

北岡町長

前回もご質問いただきまして、目標値等を掲げているという話をさせていただいたと思います。現状の最近の何年間かとか年齢の低い方々に関しましては、男女別に何も関係なしでやっていますので、人材の育て方とか、これもスペシャリストであるのかジェネラリストであるのか、何年間かジョブローテーションをして方向を見つめてやっていこうということをやっています。

それより上の方々、もう既にやめておられる方々とか、今残っておられる方がどれぐらいのスキルを身につけておられるのかということ、本当に男女とかいう性別の問題じゃなくてやってきたときに、やっぱり男性の方が残っているのも数が多いですし、難しい部分があるのかなと思っています。

ただ、女性の管理職の割合を増やさなきゃならないと、増やさなきゃならないと、女性だから増やさなきゃならないのかというのは、いろいろ問題やと思いますが、それなりの対応はしていかなきゃならないとは思っております。

女性ならではの専門職というふうに決めているわけではございませんけれども、保健センターで保健師さんがそういう形では、別に女性と限っておるわけではないですけれども、現状は女性の方が中心に動いていただいている。何となくではありますが、そういう社会福祉関係では女性特有のきめ細やかさとか、そういう丁寧さ等を含めてよりよく活躍していただけるのかなという感覚でございませぬけれども、そういうふうな方向なのかなという、そういう感覚を持っておりますが、規定してというわけでもないなど。

あくまでも一人の人間としての能力はどこにあつてどうなのかということ、きちんと見ていかなきゃならないというふうに思っております。

山本議長

辻本議員。

辻本議員

ありがとうございます。もちろん私もそう思います。男性・女性とあえて言うよりも、それぞれ個々として頑張っていらっしゃる方、当然専門職をされたり管理職されたりというのはあろうかなと思いますけれども、職員さんのことは総務参事のほうでいろいろと担当になってくると思うんですが、先ほどから言っています住民さんとの対話というのも、同じように職員さんのほうで、例えば今現在栄養士の方で出産・育休というような形もありますように、具体的なご相談というかそういうのを、もちろん担当課ではとりあえずは直属上司のほうに相談されたりとかあると思うんですけれども、庁舎全体として、そういうような職員さんの働き方とか、もしくはそれぞれの内容について対話をされるという、そういう場面は吉野町として設けておられるのでしょうか。担当参事、ご答弁よろしく申し上げます。

山本議長

山田参事。

山田参事

今、辻本議員からのお話がありましたように、まず直属の上司がその対応窓口として対応していくというのが一般的な形だというふうに思っております。

ただ吉野町では今年に入って、6月、7月の話でございますが、課長補佐以下の職員につきましては、町長と直接的に個人面談を行いまして、そして、そこで仕事上のいろんな悩みであるとか考え方とか、例えば職場の中での働き方等について個人面談をいたしまして、そこから職員のいろんな要望といいますか、考え方というのを拾い上げていくというようなことをやっております。

山本議長

辻本議員。

辻本議員

もう時間でございますので、最後に一言だけ。

今、町長が直接個人面談をされているということをお聞きしましたが、以前はやっぱり精神的にかなり疲れられてという職員さんもおられました。ただ、そういうことはもうあってはならないと思いますので、ぜひきめ細やかに、職員さんの働き方についても今後ともご努力いただければなと思います。

以上、一般質問を終わります。

山本議長

昼食休憩に入りたいと思います。

再開は午後1時より。5分前に入場いただけたらありがたいです。よろしくお願いたします。

(休憩 午前11時59分)

(再開 午後 1時 0分)

山本議長

再開いたします。

午前中に続きまして一般質問2人目、上滝義平議員より出されております

(1) 上水道と簡易水道の統合について

(2) 地籍調査と固定資産税の問題について
の一般質問をお願いいたします。

上滝議員。

上滝議員

3番、上滝でございます。

毎回一般質問をしておりますので、少々気分が緊張しております。しかし言わなければならないことは言わなあかんで、しっかりと私が問題を提起いたしますので、簡潔に参事のほうからお答え願いたい。それから、町長には後で2点ほど質問をさせていただきます。

まず最初、上水道と簡易水道の統合でございますけれども、いつごろ上水道と簡易水道が統合されるのか、担当参事からお答えください。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

以前から申し上げておりますとおり、28年度末でもって上水道と簡易水道を統合いたしまして、29年4月からは上水道での経営が始まります。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

29年4月から上水道に統合されるということですね。現在の上水道と簡易水道の料金はどのようになっているのかお伺いいたします。ということは、上水道の範囲は市街化地域なのかどうなのかという部分も踏まえてお答え願います。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

現在の簡易水道の料金体系から申し上げますと、単一料金制、1立米幾らという単純な料金体系から、また上水道と同じ逦増従量制と申し上げます水量の段階に応じての料金という体系の2本立てになっております。ここで申し上げ

るには細かく分かれていますので、ちょっとご遠慮いただきたいと思うんですが。

それで、上水道のエリアといいますのは、今、主に市街化区域といいますか、吉野川筋、中荘も含めまして、その辺がまず上水道エリアであるということでございます。

山本議長 上滝議員。

上滝議員 いや、私が言うておるのは、簡易水道の何件あって、そのうちどのような料金体系になっておるのかお聞きしたいんです。どうぞ。

山本議長 吉岡参事。

吉岡参事 すみません、何件とはどういう……件数。施設の数が幾つあるか。

上滝議員 簡易水道そのものが何件あって、料金体系はどうなっているのかということ。

吉岡参事 簡易水道、今現在9カ所ございます。

それで料金体系でございますが、まず、従水量と同じ料金体系を持っております簡易水道は西谷、喜佐谷、柳、三津の簡易水道が上水道と同じ料金体系であります。それから、別の料金体系でしておりますのが南大野簡易水道、これは1立米60円という単価でございまして、そこには基本料金が乗ってきますので単純に60円ではございせんが。それから、国栖の簡易水道につきましては1立米180円、それから、三色野簡易水道は1立米150円、吉野山簡易水道は、上水道のような従量制をとっておりますが、単価は200円からのスタートということになっております。それから、香束簡易水道については1立米80円、全ては税抜き単価でございました。

山本議長 上滝議員。

上滝議員

よくわかりました。

そこで、いろいろ吉野山地区の上水道、あるいは簡易水道でも、いろいろ修繕もせなあかんし金もかかっておると思いますけれども、現在までの上水道、簡易水道の起債額の総額を教えてくださいと思います。よろしく。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

27年度決算ベースで申し上げます。まず、簡易水道事業でございますが、14億7,600万、これは元利合わせてでございます。それから、上水道の起債額でございますが、これも元利合計で11億7,900万円でございます。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

上水道と簡易水道と合わせて、大体私、今計算しておってんけれども、起債総額は26億5,000万ということですね。そんな中で、借金はそれはそれでいいんですけれども、この29年4月1日から上水道に統合すると。統合したら、たしか町長がもうちょっと安くなるようなことを考えるというような発言が前にございました。できたら上水道と簡易水道と統合される際は、公共料金である水道料金をできるだけ下げてほしいという思いで発言をしておるわけでございますけれども、大体上水道に合わせてどのぐらいのペースで下げるのか。今わかっておるのやったらお聞かせ願いたいと思います。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

簡易水道の統合計画、上水に統合する、その計画が21年に策定はしております、ちょっと時期的にいつごろであったのかは、ちょっと私、今記憶していないんですけれども、町長のほうからは、統合するんであればその料金を下げるということについての指示はいただいております、今現在その検討に入っ

ておりまして、どの程度の額になるのかというのは、まだ今お答えできる状況にはございませんので、申しわけございませんが。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

今、参事のほうからお話あったとおり、さきに町長のほうから、統合する際は上水道の部分を何%か下げるであろうというふうに私は期待しておるわけでございますけれども、できたら大淀町は1立米100円と聞いております。100円にはでけへんけれども、そのいろんなことを精査していただいて、できるだけ公共料金を上げないような努力をしていただきたいと、こう思います。

次に、地籍調査についてお伺いいたします。

地籍調査と、後で固定資産税の話させていただきます。

地籍調査については、いつごろ始まって、現在までの状況をお知らせ願いたいと思います。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

昭和53年度に吉野町としては地籍調査を開始いたしました。千股地区からの調査が始まりまして、26年度には上市地区の調査を行ったところでございます。今現在、その上市地区については法務局のほうへ成果を送る準備をしておるところでございます。

それから、行政面積のうちの河川でありますとか、公共物を除きます地籍調査をせんといかん面積については90.2平方キロございまして、そのうちの37.58平方キロが完了しておりまして、率で言いますと41.6%が地籍調査完了しておるところでございます。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

その説明の中で、地籍調査が上市で終了で、上市へ、もう法務局のほうへ進

達しておると。その進達ですけれども、昔、前町長、福井町長のときに、地籍調査終了後に固定資産税を実測に基づいて課税をするということを言うておりました。

今、現町長、北岡町長については、そのことを継続しておるかと思えますけれども、吉岡参事、実際補助対象になるのは農地、つまり田畑と宅地のみですね、補助対象は。それで、山林については、しているところとしてへんところとありますけれども、山林については負担金をいただいて、どことどこしておるのか私はわかりませんが、その山林も負担金を出せば今でもできるのかどうかということをお伺いしたいと思います。

山本議長 吉岡参事。

吉岡参事 過去には樫尾の自治会の山林でありますとか、六田の自治会の山林でありますとか、その辺の調査は地元からのご依頼があつて進めております。まだあと、喜佐谷でありますとか色生地区からも要望もあるようでございますが、今のところ山林についてどのような進め方をするのかというのは、まだ決めておらない状況でございます。

山本議長 上滝議員。

上滝議員 さきに言うたように、山林は後回しになっておるけれども、農地・宅地については優先的にもう吉野町が積極的にやっけていただいて終了する予定でございますけれども、いつごろ固定資産税に反映するのかお聞きしたいと思います。その分は田中参事のほうですか。どうぞ。

山本議長 田中参事。

田中参事 ありがとうございます。

今、地籍調査は、今の予定では平成30年度に完了する予定というふうに私ど

もは聞いておるんですけれども、ちょうど平成30年度が評価替えの年に当たりますので、その次の評価替え、平成33年度の評価替えに合わせて準備ができればなというふうに思っております、まだ決定事項ではございません。

山本議長 上滝議員。

上滝議員 できるだけ早く実測に基づいて課税できるように努力をしていただきたいと思います。

そこで、地籍調査がもう大体終了でございますけれども、その中に吉岡参事、筆界未定という民民同士の話で決着がついていない場合でも法務局に出しておられると思いますけれども、そこは今大体で結構ですけれども、そういう筆界未定というのは何件ぐらいあるか、わかったら教えてください。

山本議長 吉岡参事。

吉岡参事 各地区で筆界未定というのはあることは承知しておるんですけれども、その数というのは、ちょっと把握はしておりません。申しわけないですが、わかりません。

山本議長 上滝議員。

上滝議員 いろんな話を聞きましたが、町長にお尋ねいたします。

町長、この地籍調査そのものはどんな目的でしておると考えておるのか、お答え願いたいと思います。

山本議長 北岡町長。

北岡町長 古くからといいますか、歴史上の話からしますと、税金をかけるための、きちんとやるためのものであるのがまず1点と、最近では、これをもとにどうい

うふうな土地の利用をしていくかというふうな、そういう2つの方向があるかと思っております。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

完璧なお答えではないと思います。要するに、この地籍調査そのものはなぜするのかと言いますと、吉野町は過疎地でございますし、過疎を脱却するために、いろんな行政としてやることはやっておるかと思えますけれども、吉野町が開発をするための地籍調査であるということを皆さん共通認識していただきたい。

私がある町長に、この間、町長、地籍調査は何のためにするのか教えてくださいよと、こうお尋ねしましたら、即決で、その人は固定資産税を上げるために地籍調査をすると、こういうことを言ったんです。何ということと言うんだと言って私はその町長に怒ったわけでございますけれども、今、町長にお尋ねしますと、固定資産税はもちろん、開発するための地籍調査であるということで安堵したわけでございますけれども、今後とも、考え方はいろいろ立場によって違いますけれども、よろしくお願いを申し上げます。

もう一回、田中参事にお答え願いたいと思えますけれども、地籍調査と連携しながら終了後、終了というのは、先ほど何年に終了するということを大体聞きましたけれども、固定資産税に反映する時期は、そんなこれから5年といたら、私もう死んだるか分かりません。もうちょっとどうかなと。早くするのがいいのか悪いのかというのは別として、地籍調査終了後に見直しをするという考え方があるのかないのか、もう一遍お答え願いたいと思えます。

山本議長

田中参事。

田中参事

全町で公平性を確保するという意味で、以前から地籍調査が全域で終了、宅地・農地の地籍調査が終了後、評価替えに伴って課税を変えさせていただこうというふうに、以前からの決定事項でございますので、その方向で今後も進め

ていきたいというふうに思っております。

山本議長 上滝議員。

上滝議員 わかりました。

次に、固定資産税の問題でございます。この固定資産税で現在の固定資産額の調定額及びそれに伴う繰越滞納額を入れて、滞納総額を教えてくださいと思います。

山本議長 田中参事。

田中参事 固定資産税の今年度の当初の調定は3億8,469万2,235円でございます、そのうちの滞納繰越分につきましては2,302万6,475円というふうになっております。

山本議長 上滝議員。

上滝議員 また後で滞納、あるいは調定そのものに対してはお聞きしますが、まず聞かなあかんことは先に申し上げます。

次に、市街化地域における農地や山林、あるいは宅地、これの1平方メートル当たりのそれぞれの評価額というのが大体わかっておりましたらお答え願いたいと思います。

山本議長 田中参事。

田中参事 評価額というよりも、比較するには課税標準額のほうがわかりやすいかとは思いますので、課税標準額でよろしいでしょうか。

上滝議員 はい、結構です。

田中参事　　まず、市街化区域内の田、農地の中の田は平米単価692円が平均でございます。畑は市街化区域内は779円が平均でございます。それから、宅地のほうは5,540円が平均でございます。外のほうも……。

上滝議員　　山林は。

田中参事　　山林は、もう吉野町全般24円というのが平均になっております。

山本議長　　上滝議員。

上滝議員　　そこで、その調整地域や農振地域があるわけですがけれども、農振地域のうち、平米当たりの田畑の評価額、わかりましたら教えていただきたいと思います。

山本議長　　田中参事。

田中参事　　農振地域だけというのはちょっとつかんでおりませんねけれども、市街化区域外といいましょうか、もう都市計画区域外も含めましてでも構いませんでしょうか。

市街化区域外も、市街化区域以外全部の平均値につきましては、田は103円、畑は47円、それから宅地は2,263円と、随分と差があらうかと思ひます。

山本議長　　上滝議員。

上滝議員　　よくわかりました。

次に、土地及び家屋の評価替えをするのは3年ごとと聞いておりますけれども、3年というのはいつの3年で評価替えをしたのか。そしたら、これから3年というのはわかりますね。その時期を教えていただきたいと思ひます。

山本議長

田中参事。

田中参事

前回の評価替えは27年度でございました。今回は、先ほども申しあげましたように、30年度が評価替えの年になります。その次が33年度ということになります。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

よくわかりました。

私は何を言いたいのかといいますと、固定資産税にどっさり払っておる人と払ってへん人もおります。それはつまり、家については評価額20万円やったら非課税やと、土地については30万円やと、こう聞いています。償却資産税も100万円かなと思っておったら、150万円が限度額になっておる、これ正しい答えですね。

そこで、若いときに大きな立派な家を建てて、そして資産も取得して、その人がお年をとってきて国民年金だけもらっておるのに、その固定資産税を維持することができない。つまり、今までは払えたのにこれからは払われないというような人のことを耳にしたんですけれども、そういう固定資産税の高い安いは地方税法にのっとなって評価替えをしておるので、私ははっきり言いにくいですがけれども、そういう困った方々に対応する手段、例えば、評価替えを、評価額を変えないけれども、町として援助する方法があるのかなのか、そのことをお伺いしたい。

山本議長

田中参事。

田中参事

固定資産税の立場から言いますと、その法のもとでの公平性の確保とかいいますと、その減免というのは基本的にはございません。生活が困窮されているということで、そういう事情でありますと、それを勘案した制度といいますと、生活保護受給になりますと、減免、あるいは突然の災害に見舞われた場合の減

免というのは制度上ございますが、今のところ、そういう、それに当たらない場合の減免というのは税法上は想定されておりません。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

形を変えて実態を調べて補助金を出すとか手当てがあるなら、そういうことをしていただきたいと思います。

そこでもう1点、参事にお聞きしますけれども、固定資産税が高いからよう払わんという滞納者が、さっき言うたように2,300万でしたか。固定資産税を課税するのに今まで間違いがあったのかなかったのか。

つまり、新聞でちょっと見ますと、全国での市町村では97%の市町村で39万人以上の課税ミスがあったという事実が明らかになったんです。吉野町は税務課の人もしっかりしておるし、もちろん町長もしっかりしておるので、そんな間違いはないかと思えますけれども、27年度、28年度にそんな間違いがあったのかどうかお伺いします。

山本議長

田中参事。

田中参事

ありませんでしたと言いたいところでございますけれども、吉野町のほうでも若干のパンチミスでありますとか、機械の読み取りミスとかでご迷惑をかけた件数が若干あったということに報告を受けております。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

若干というのはどれほどかわかりませんが、私が知っておる範囲内では、丹治の方が6年前に土地を譲渡した。譲渡したのにかかわらず固定資産税が課税されたというのが1件ございます。それを役場の税務課で申し上げたら、5年間さかのぼって還付申請をしていただいたらということで還付をいたしました。ところが、本人がそれに気づけへんだら絶対にわからないことでもありま

すし、還付もしてくれるとはよもや思っていないことだろうと思っておると思います。

役場自身が税金の切符なり、あるいは文書を出すなり、固定資産税の通知するなり、その問題については、全住民が役場の人のことやから間違いがないというて信じる人が全体の99.9%かもしれません。しかし、先ほど言うたように97%の市町村で39万人以上の課税ミスが発覚されたということを経験されているので、吉野町は間違いはないと思いますけれども、もう一遍再度精査していただくようお願いを申し上げます。

もう1つ、余談話になるんですけども、例えば市街化地域で1,000万円の建物を建てた。そして、それ以外に三津や滝畑、小名や殿川、あるいは入野、そこら辺が、比較をしますと、税務課で聞きましたら1,000万円やったら1,000万円同じようにかけておると、課税しておると。そのことを私聞きまして、それはちょっとおかしいの違うかと。上市で建ておるものが1,000万だったら、殿川や小名で建てた建物と同じ評価でええのかよというて、私は税務課の職員にただしました。

そうしますと、答えは、自治省から出されておる評価評点数については、そのとおりやっております。だから、どこで建てようと100は100、10は10という回答でございました。しかし、それ以上に何かの問題があったら考慮する部分はないのかよというような部分について、私は朝から地方税法を調べてまいりました。そうすると意外なことが書かれておるんです。町長にお伺いしますけれども、その意外なこととは何なのか、わかっておるんやったら説明をお願いします。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

元職員で、税に詳しい上滝さんが最近気づかれたことを私がわかるはずがないので、よかったら教えていただきたいと思います。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

実は、町長、地方税法を調べますと、固定資産評価基準には需給事情により減点補正率の算出方法により適用されるという文言があんねん。つまり、わかりやすく言えば、市街化地域で1,000万円の評価額があつて、殿川で1,000万円の評価があつたとしても、その殿川が需給事情あるのかないのかを調査せなあきません。まず売り手がおるのか、買い手がおるのかということをしつちり調べる。そして、需給事情がなかったら固定資産税に減額を20%する、あるいは30%する。そんな措置はなされて当たり前やと私は思うんです。町長、その見解はいかがなものでしょうか。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

大都会と比べますと、上市も小名も殿川も需給事情は大して変わらないと思っております。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

町長、需給事情というのは、相続はどこでもできるわけですけれども、その家の売り手、買い手がおるのかどうか。殿川では、私ないと思います。あるいは小名も、あるのかないのか私は調査したことがございませんけれども、三津や滝畑も同様のことを言われます。

そんなことを、田中参事、地方税法にはきつちりと固定資産の評価基準には需給事情がある場合は減点、補正率の算出法によって適用されるということを明確に書いてある以上、需給事情が町長はないとおっしゃいましたが、需給事情があるのかないのかということ进行调查していただきたい。

もう時間が来ましたので、何か言うことあるのか。そしたらどうぞ、田中参事。

山本議長

田中参事。

田中参事

需給事情、私らも耳にしたことございます。それも奈良県下が国から税法上にとりまして奈良県下の需給事情の率を指定されておまして、奈良県下全体が国の指示のとおり1、沖縄県とか北海道のほうに行きますと需給事情が変わったり、東京や大阪でありますと需給事情が1より上がったというようなことになっているというふうに聞いておまして、県下はどこへ行っても国の指示どおりの需給率だというふうに聞いております。

山本議長

上滝議員。

上滝議員

そないに田中参事が言うたら、私はちょっと言いたくなるんですけども、実際吉野町は過疎地、その過疎地がもう長年続いておって、平成32年3月31日には過疎法が切れると。それを北岡町長がまた力を入れていただいて延長をしていく努力をしてくれと。私はさきに和歌山の二階総務会長に話しして、延長するようにしてくれという要望だけはしてあります。

しかし、その吉野町で有権者の方々の気持ちを考えれば、やっぱり三津の1,000万と丹治の1,000万と、どうなのか。そこらの評価の定め方を再度検討していただけることを願って、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

山本議長

続きまして、藪坂眞佐議員より出されております

(1) 高齢者が生きがいを持って住み続けられる吉野町のために

(2) 吉野町の歴史や文化を次世代につなぐ取り組みを

の一般質問をお願いいたします。

藪坂議員。

藪坂議員

8番、藪坂です。一般質問をさせていただきます。

まず、大きく2点について質問なんですけれども、なぜこの質問をさせてい

ただきたいと思ったかという、そのきっかけについてちょっと最初に時間をいただいて説明をしたいと思います。

実は、町づくりに興味・関心のある方なら皆さんご存じだと思うんですけども、2.81ショックというのがあります。岡山県の奈義町で合計特殊出生率が2.81という、その恐ろしい数字が出ていると。その2.81ショックを勉強しようということで、全国から議員さんや議会や自治体の人たちが訪れているという話や論文をあちこちで耳にし目にしましたので、奈義町へ行って本当かどうかというのを確かめてまいりました。

そのときに本当に2.81ショックの言葉どおりびっくりするぐらい子供たちがたくさんいました。その中では、テレビでも言われていましたけれども、うちは子供が2人しかおれへん。2人では恥ずかしい。やっぱり3人か4人ほしいというわけで、子供さんが3人以上おるという、3人、4人おられる家庭が半数以上を占めておられる。ですから、人口は六千数百人です。吉野町よりちょっと小さいぐらいの町で、しかも26年度から27年度にかけては人口が増えております。ですから、町長さんは6,000への挑戦ということで、夢と活力あふれる持続可能な奈義町をつくろうというのですごく張り切っておられる。

そんな中で、ほとんど人口は1,000人ほどしか違えへんのに、なぜこんなに元気なんだろうかという、そこらあたりで私は非常に疑問を持っていましたので、そんな論文に書いてあるとおりにかどうか、子育て支援日本一は同じでした。目標が同じ。しかも高校までの医療費無料化、あるいはワクチン、予防接種云々も法定外も含めて支援しているとか、吉野町がやっている子育て支援とほとんど変わらないのに、なぜこんなに子育てしやすい町、奈義町に移って来はる人たちが増えてきている。だから自然減を上回る社会増が出ている。あるいは自然増がある。この辺の違いは何なんだろうかということが、今回質問させていただく2番目のところともかかわってくるところです。

だから、同じこと言っているのに、なぜこんなに魅力的なんだろうかというところで、先ほどからも出されていましたが、私びっくりしたのは、この奈義町の総合計画を読んでいたら、吉野町も総合計画を立てるときに全部アンケートとりましたよね、中学生や高校生にも。やっている中身はほとんど

ど変わらないのに、出てきた回答が全然違うんです。

吉中の子供さんたちのアンケート結果、やっぱり見ていたら、住みづらから大人になってもここへ住むのはかなわん。それは交通の便がないとか、大型の店がないとか、そういう要望がアンケート結果出てたんやけれども、奈義町の場合には、奈義町で気に入っている施設や自慢できるものとして、最多の回答は、奈義山などの豊かな自然、これが54%、過半数。次点は、ここで私もうひっくり返ったんですけれども、法定外ワクチンや高校生までの医療費無料化など充実した子育て支援が39%でした。この子育て支援は高校2年生、3年生の年齢の高い層、または女子での好意的な回答が多くなっています。つまり、中学生や高校生諸君が住民の一人として、その町が提供しているいろんなサービスや取り組みを自分のものにしていくという、この決定的な違いにびっくりしたんです。

1番目の質問と関連してくるんですけれども、高齢者の、じゃ、皆さんはどうなんかな。高齢者施策も吉野町がいろんな取り組みしているのとかぶる部分がたくさんあるのに、高齢者がすごく元気なんです。例えば、ビカリアという貝殻がたくさん出てくると。奈義町が海の底であった時代の貝殻が出てくるからというので博物館をつくってあるんです。そこの博物館へ私たちはもう4時過ぎてから行ったものやから駆け足で行ったんだけど、館長さんが70歳という女性でした。そのおばちゃんがもう生き生きと解説してくれはるんです。学芸員さんですかと言ったら、いえ、違います。普通のボランティアやけれども、お金をもらっている。そういう立場の方でした。しかも、子供たちが、小中学生はもちろん、近隣からも来てくれるので、その子供たちが体験学習できるとかいうので、すごくその方は、ほかにも高齢者の方が働いておられる。それがすごく生き生きしておられたんでびっくりしたんですけれども、何かこのあたりで随分違うなど。

職員さんたちが非常に若いというのがありました。これも大きな影響かわからへんのですけれども。その中でおっしゃっていたの、いや、せやけど、そんないろんな子育て支援のことで人口増やしましようみたいな提案をしても、普通は大体、ううん、また仕事増えるみたいなことで、みんながやっぱり牽制し

合うという雰囲気があるんじゃないですかと聞いたときに、課長さんがおっしゃっていてびっくりしたのは、自治体の悪い慣例、3ない主義というんだそうですけれども、前例主義、前例がないことはもうやめておこう。それから、他町比較主義、他町と比べてどうか。そんなん他町でしてへんからやめておこう。それから、規定予算依存主義、予算がないからやめておこう。

これは、私たちもそうだし、吉野町の職員さんたちも大体この3つは物事を考える、新しい事業を起こすときの基準ですよ。ところが、奈義町でびっくりしたのは、職員さんたちにはそういう概念がないということでした。だから職員さんたちは割合思い切った施策をどんどんとっていくんだ。吉野町の職員さんって、本当に過労死するん違うかというぐらい一人でいろんな仕事抱えて走り回っておられる。でも、それで職員さんたちの自分たちのやりたいこと、能力が十分発揮できてるのかなという疑問を私はいつも持っています。すごく元気だった職員さんが、なじんできたらだんだん元気がなくなっていかなるみたいなんがとっても気になっていました。

だから、職員さんも含めて住民が主人公ということが具体的にはどういうことか、私も選挙のたびに言ってきたけれども、初めて目からうろこだったんです。つまり、中学生や高校生がその町がしている施策は何か。この施策はやっぱ奈義町として誇りに思える。そういうことが身についている。おばさんたちが物すごく元気で働いておられる。そこら辺の姿勢の違いだなというのを物すごく痛感しました。

そういう視点に立って質問をさせていただきます。

健康長寿日本一の町を目指しています。この中で高齢者の皆さんの生きがい支援はどうなのか。今、吉野町の高齢者の皆さんは元気がなくてしょぼんとしているわけではありません。非常にお元気です。運動公園へ行ったらたくさんの人たちがグラウンドゴルフをしておられる。Y S Cがすごく頑張ってください、何とか杯何とか杯とよく。そういうときには町外からもたくさんの方が来てくださる。

ところが、頑張っている人たちが行けなくなってしまう。行かなくなってしまう。その理由、一番の理由は、もう町長さんも気づいておられると思うんで

すけれども、交通の便です。自分が車を運転して行ける。あるいは近所の人が乗せてくれたらグラウンドゴルフに行けるんです。でも、交通の便がなくなった途端にもう通えなくなってしまう。それは近所のゲートボールやグラウンドゴルフでも同じです。運動公園や中央公民館へ文化活動でコーラスに行きたいねけどとおっしゃる、お習字に行きたいねけどとおっしゃるけれども、うまくスマイルバスとドッキングできない。あるいは、帰るまでに1時間半ほど待たんなん。こういう問題をどうやっていくのか。

そのあたり、サークル活動へもまた、先ほどは老人会の皆さんたちをもっと支援というお話をしてくださっていたんやけれども、そういう交通の便、あるいは取り組みに対する内容、やっぱり年金だけで暮らしている人たちにとっては年間8,000円とか1万円の会費がやっぱり非常に高いんです。だから、とつても歌は大好きやし死ぬまで歌いたいと思っけていても、やっぱり会費が負担になってきているというお話も聞きます。

このあたりで、まず、高齢者の生きがい支援についてどんなふうにお考えか、町長さんなり担当の皆さんからよろしくお願ひします。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

ご質問ありがとうございます。奈義町のお話をさせていただきまして、やっていることは大して変わらないと褒めていただいて、逆に勇気が出る話でございました。

ちょっと若干それに触れさせていただきたいんですけれども、結構そういう方向では動きつつあると私は思っています。現状は、まちづくり基本条例をつくっていただいて、今、国栖で自治協議会で進んでおりますけれども、本当に皆さん方明るく、じゃ、次これしようという感じでの動き方が出てきていると私は思っております。職員におきまして、結構自発的には動いておりまして、なかなかいい動きをしていただいていると思っております。

ただ、もともと申していましたが、PR不足というか、説明不足というか、なかなかやっけていただいていることを理解していただけていないというのがあ

るのかなと。理解していただいているというよりは、初めからもっと一緒にやらないといけないのかなという気もいたしておりますが、まちづくり基本条例を、この精神をどう伝えていくかということ、今、小学校等でどういうふうに教育していこうかということをやっています。また、世間では子供議会がありました、1日町長やっておられたりとか、そんな形で町政とか身近な政治にどう皆さん方が興味を持っていただいて、どうやったらどう反応していくかということ、これからまた地道な努力をしなければならぬと思っております。

先般から吉野町中、ずっとふだん話が聞けない方々のお話を懇話会で聞いてまいりました。そういうことにきちっと応えていくことが、皆さん方と一緒に町政を進むことになるんだらうなということ、今意識しておりますし、職員にも伝えておりますので、少しずつでありますが変わってきていると思っております。

さて、高齢者の生きがい支援でどう考えているかと、特に交通手段でございます。

これももう何年もしゃべっておりますが、早くコミュニティーバスの中にデマンドタクシーをもっと導入したいと。1時間に1本、とりあえずドア・ツー・ドアで行きたいところへ行けるというふうな形のシステムを考えろということ、をずっと言っております、今検討中で、今年度にある程度の方向を示していただけると聞いております。公共交通の協議会等もございまして、その辺からも方向を示していただけると感じております。そうなりますと、ドア・ツー・ドアで1時間に1本ぐらいしかつくれないかもしれませんが、町内を動けるようになるのではないかなというふうなことを思っておるところでございます。

サークル活動の支援でございます。先ほど老人クラブの話もございました。逆に言うと、老人クラブ入ってなくてもいろんな活動に差しさわりのないという状況が老人クラブの活動を邪魔しているのかなと、こんなことも思ったり、老人クラブに入っていると、じゃ、どういう活動ができるんだというふうなことを、もうちょっとお互い考えなければならぬのかなと思っておりますが、い

ろんな方々と細かくお話をさせていただいて、どんなことをさせていただいたら喜んでいただけるかも含めて、これからも寄り添った行政に努めてまいりたいと思います。

どうかいろいろ教えていただきますように、よろしく願いいたします。

山本議長

藪坂議員。

藪坂議員

デマンドタクシーの充実という点では、本当にこれしかないのかなというふうに思っています。でないと、スマイルバス、やっぱり乗ってくださる人が少ない人数でぐるぐる回るといのは効率が悪いので、デマンドタクシーで乗り合いにしていくというのが一番ありがたいかなというふうに思うので、ぜひ今年度中の方向性を出していただきたい。

また、職員さんも含めて、町民の皆さんがすごく元気で動いているのは、もう花火大会を見ていたらわかります。皆さんがよく動いてくれている。それが今ピンポイントだったのが、やっと線につながりつつあるんだけど、それを面にしていかないとすごいやっぱりロスが出てくるし、もったいないなど。あるいは町民の皆さん、みんな巻き込む運動にしていかないと、吉野町が元気だ、吉野町へ移り住みたいというふうに町の魅力をアピールすることはできないんじゃないかなというふうには思っています。

デマンドタクシーと関連してですけれども、ちょっと飛びますけれども、私は4年以上も前から南奈良総合医療センターができるときには、ぜひ直通で行けるようなバスをと要望してまいりました。また、ほかの議員さんからは直通で行けると同時に大きなスーパーに寄って買い物難民を防ぐような、そういう取り組みもできないかなと、一貫してそのことでもお願いをしてまいりました。2番、ちょっと飛んで申しわけないですけれども、3番の南奈良の総合病院に関しては、もっと利用しやすいものにしてほしいという大きな要望が出ています。ですから、まず交通の便の問題。

それから、先日相談がありました人のお話を聞いていたら、上市の方です。スマイルバスに乗って上市駅へ行った。上市駅の階段を上るのが大変だった。

電車来るのを待って電車に乗った。福神駅で降りたら駅のコンコースを歩かないとあかん。コンコースを歩いてエレベーターに乗った。エレベーターで上がったらまた道を通る、あの通路、高齢者にとってはこの歩くのが、若い人にとったら何でもないことなんですけれども、とても疲れて、もう病院へ着いて受付まで、あそこは広いからたどり着くのが大変だった。ボランティアの人が付き添ってくれたけれども、これを何とかしてほしい。本当に病院の正門にバスでつけてくれたら助かる。こういうお声を上市の方から聞かせてもらいました。

何とかやっぱり皆さんがあつた病院に期待しておられる。そこでの通院の足の確保をぜひ何とかしてほしい。また、南奈良総合病院に関しましては、待ち時間が長い、予約をして行かなかったら次々と後に回っていくから、もう病院で4時間以上も待っていて、しんどくて病院に行ったのに余計にしんどくなったというお話とか、行くときには介護タクシーが使えたんだけど、帰りが何時になるかわからないので介護タクシーが使えなかった。だから、病院行ってへとへとになって帰ってきたんだ。

皆さんが病院に対してすごい期待をしておられます。救急搬送は、もう去年度の3病院を合わせた2倍以上の方が利用しておられるとかいうので、期待が大きい分、やっぱりなかなか住民目線のところまでいかない。ある方は看護師不足違うか、いや、お医者さんがなれてへんの違うかといろいろおっしゃるんだけど、この辺も含めて、ぜひ町民さんの、住民さんの声を吸収して向こうへ持って行っていただけるような、そういう取り組みをしてほしい。

関連して、吉野病院も同じです。この前も行ったら、はい、書いてくださいと言われてたけれども、書くボールペンがなかった。ええ、ちょっとボールペンないんですけどもと言ったら、あつちの隅っこに1本ありますと。ええ、あの広い受付のあんなカウンターみたいなところでボールペン1本探さんなんみたいなのがあって、すごく以前の吉野病院とは雰囲気違ってきているなというのを、私自身実感しています。やっぱりここも同じく、今すごく混んでいるからというので、朝一で行った方が、予約していないから午後ですと言われて、一遍帰りますと言ったら、ちょうどもうスマイルバスのない時間だったから普通のタクシーでそのまま帰った。またそのまま普通のタクシーで来て、病院で

待ったというお話があります。

本当に高齢者にとって病院というのは命のつなぐもとですので、何としても病院関係のそういうあたりで南奈良のほうへ声を上げていただきたい。この辺はどなたがお答えくださいますか。よろしく申し上げます。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

また細かい話は担当から言っていただけると思います。

今の話で2点あると思います。病院への通い方の問題でございます。これはもちろんずっと言われていますし、私も認識しております。ご理解いただきたいのは、吉野町の交通の協議会と、大淀町がその後協議会できて、それで大淀町の許可がないと私どものバスは中に入れないということがまず一つと、それから全体で各町村がそれをやり出したら、あそこは一体どないなんねやという、そういう調整もございます。なかなかその辺がうまくいかない。

具体的な例で、これもなぜか東吉野はしょっぱなからタクシーを1台走らせましたが、これがほとんど利用されていないという話でございました。そういうことも見ながらいろいろ検討していきたいと。

この一月、懇話会に行きましても大体この話ばかりをしておりました。ダイヤ改正等にも時間がかかりますので、今から検討させていただいて、来年度、早くて4月から、1日1便ぐらいの病院行きのバスができないかなと思っております。ただ、時間を何時にするかとか、それが望ましいのかとか、そのバスに今度は予約時間を合わせてもらわなあかんとか、いろいろあるかと思えます。本当にいつ行ってもバスに乗れるような、そんな状況にはまずできないので、どこまでの提案ができるかなということも含めて来年度に何とか形にあらわしたいと思っております。

それから、今、駅の話もございました。確かに歩くのが不自由な方は大変ご苦労されますが、歩ける方はそんなに、全部バリアフリーでもございますし、距離的にもそんなにないので、電車で行っていただける方は電車で行っていただいたほうが本数もたくさんあって便利ですよという話はさせていただきますし

た。ただ切符の買い方がなかなかわからへん、難しいとか、いろいろ不自由な点があるなどと思って、そのこともソフト的にはお助けすることも考えなきゃならないなど思っております。

次に、南奈良総合医療センターと、あるいは吉野病院全体の運営の話でございます。

これも、吉野病院はかつては直営でございましたので、いろいろすぐに改善とか、ある程度の提案とかできたんでございますが、今そういう立場じゃないということで、もちろん物は申せるんですが、かつてほどではないということで、皆さん方の意見を集約しなきゃならない。何とかその窓口をつくろうということで、今、長寿福祉課保健センターのほうにすこやかお助けダイヤルをつくらせていただきまして、そちらで皆さん方のご意見、提案等をお伺いしよう。そこで意見聞いたからといって、すぐ解決なりませんけれども、そういうふうに公式的に意見を集めさせていただいて物申していこうというふうなことを今、しているところでございます。

担当のほうからもし具体的に追加ございましたら、よろしく申し上げます。

山本議長

芳田参事。

芳田参事

病院の待ち時間については、ご指摘のとおりいろいろ問題があるということで、病院のほうにも説明を求めて説明をいただいております。

今、議員ご指摘あったとおり、南奈良については、予約外の患者が多くて、待ち時間が1時間から2時間に及ぶ場合があるということも聞いておりますし、吉野病院につきましては、3月までの町営でやっていた間は、内科の常勤医が5名、非常勤が2名、3診で行っておったものが、現在は4名で2診と、1診少なくなっているという状況もありますし、整形外科につきましても、毎日診察をしていたものも、常勤1名、非常勤1名で月・水・金で診察しておるといった状況で、このことによって医師1人当たりの1日の診る人数が、従来の旧病院では27.41人であったのが、新病院では35.81人と増えております。整形に関しても40.47人であったものが52.06人と増えているという状況でございます。

ます。また、院長先生の場合は、多い日で68人もの患者さんを診ていただいているという状況でございます。

このような状況でありますので、病院としてもできるだけおくれが出ているときは、各患者さんにいついつまでかかりますよという旨を個別に患者さんにおかけをしたり、全体的にも待合室に待ち時間を示すような看板も設置をしたりということで工夫もされているようです。ただし、このことで議員がおっしゃるような根本的な問題の解決にはならないということは、もうそのとおりだと思います。

吉野町としては、根本的な問題の解決のために南和広域医療企業団に対して、吉野町に勤務する医者を増員していただきたいと、こういったことを今後10月から議会、あるいはそれまでの調整会議等で各構成する町村が集まって会議も開かれますので、そういった機会に強く増員について要請をしてみたいと考えております。

山本議長

藪坂議員。

藪坂議員

今、お話を聞いていて、根本的な問題、医師不足の問題もあるんだなというふうに思いますので、ぜひこれは声を上げていただきたい。院長先生が1日に68人も診るとするのは、もう異常事態だと思います。

それと、やっぱりくたびれたり、あるいはしんどくて行っている人が、病院のあの椅子に座るのはつらい。ちょっとでも横になれたらなというお声があります。ちょっとした畳の空間、カーペットの空間でもいいですので、もう座ってられない人が横になれるような待合室のそういう工夫も、ぜひ吉野病院としてできることはしていただきたいなというふうに要望したいと思います。

もう1つ、生き生きした高齢者の問題で、奈義町でびっくりしたのは、菩提寺というお寺に大イチョウを見にいったとき、あちこちの道の木陰や何やらでブルーシートを敷いて元気なお年寄りの人たちがお茶してはるという、そういうグループを、光景を目にしました。5カ所以上で目にしました。やっぱり吉野町の高齢者の人たちの話を聞いていたら、中荘温泉で集まってみんなでお茶

するのが一番楽しいねんとおっしゃる。

ところが、月末、8月末には3日連続でお休みだった。たまたま台風が来て涼しかったけれども、夏の残暑厳しいときに3日間連続はつら過ぎる。何とかしてほしい。せめて2日という要望が出されております。このあたりはどなたにお聞きしたらいいのかわからへんねけれども、お正月、それから年末も、多いときだったら6日、7日、休みになるんよね、祝日やら挟むということもあって。

もう最近は、高齢者でお風呂のない方もたくさんおられます。それとか、もう自分ところの家のお風呂沸かして片づけてというのが体力的に無理。この人たちの願いにどう応えるか、よろしくお願いします。

山本議長 芳田参事。

芳田参事 ご指摘の福祉センターに関しましては、指定管理の後もなく、現状では暫定的に町が直営で運営しているというところがございます。今後のあり方については、昭和52年に設立されておりますねけれども……。

藪坂議員 ちょっとごめんなさい。

それはもうみんなよく知っている中身なんで、その休日が続くのを何とかしてほしいということに対しては、無理ということなのか、いや、何か検討することおっしゃるのか、そこを尋ねたいんです。

芳田参事 現状としては、今、暫定的に直営で行っておりますねけれども、今後、この施設について、その設立当時の役割が現在の運営と合致しているのか、あるいは拠点施設として活用可能なのかと、住民ニーズには十分応えられているのかといったようなことを総合的に検討して、新しい方向性を今模索しているところでございます。

現状としては、3つぐらい方向性が考えられるんじゃないかなということで、1つとしては、財政面のことも考慮して無駄を落とした最低限の営業をしてい

くということも一つでございますし、老人クラブ等の高齢者の福祉の拠点として積極的に活用していこうよということもまた一つの考え方で、こうしたことを検討する中で、もう1つの選択肢として、当然廃止する方向性も認識した上で検討を行っております。

担当としては、今後高齢化がますます進んでくる中で、多くの高齢者にやっぱりもっと楽しんでもらわなあかんのやないかというようなことも考えて、もっと楽しんでもらえる施設にリニューアルをしていくことを念頭に、今検討をしております。

こういった積極的な選択をした場合には、高齢者が楽しんでいただくような娯楽施設の整備とか、あるいは、かなり老朽化しておりますので、電気設備あるいはいろんな内装設備についても、全体的なメンテナンスも必要やろうということを考えております。こうした中で、営業時間についてもあわせて検討をしていってまいりたいと考えております。

山本議長

藪坂議員。

藪坂議員

今、廃止という言葉もあってびっくりしたんですけども、今の現状と、あそこでお年寄りの皆さんが集まって元気でおられるという点から言ったら、本当に本末転倒している回答で、とても残念なんです。

ぜひ、だから、最後におっしゃってくださった前向きの検討で何ができるかいうのをしてほしいのと、今年の年末、お正月には、安心して、うちにお風呂ないけどお風呂あってよかったよと言ってもらえるような現場の声を聞きに行なってほしい。皆さんがあそこでおっしゃっている声をぜひ聞いてほしいと思います。

ちょっと時間がなくなっちゃったので飛ばしますけれども、吉野町の子供たちの次世代に取り組む、次世代につないでほしいという思いの中で、来年、国民文化祭、障害者芸術・文化祭があります。その中で、もう早速きょうからプレイベントが櫃原では始まっています。大淀では、先日プレイベントとして国民文化祭のその前振りの能楽の教室が行われました。吉野町は、次の子供の世

代に文化や芸術、吉野町ほど豊かなもの、歴史も含めていっぱいあるのに、なかなかそれが子供たちの財産、宝物になっていない。とても残念な思いをしています。何とか次世代に文化や芸術や歴史をつなぐための取り組み、どのよう
にお考えでしょうか。お尋ねします。

山本議長

森本教育長。

森 本
教 育 長

自席にて回答させていただきます。

今、藪坂先生のほうから次世代につなぐということで、歴史・文化をというお話がありましたけれども、先ほど私が述べさせていただきましたようなふるさと教育というものにつきましては、これはやはり本町の素晴らしい歴史や文化というものを伝えていくということで、全ての学校・園を通してこれを行っております。

私、ここへ来させていただいて一番感じましたのは、それぞれ学校には地域に合ったカリキュラムがございますけれども、その中で吉野町は、ふるさと教育、それから読書活動、この2点について全ての学校で統一した形で、そしてそこには学校ごとの特色を持った取り組みを行っております。そういう点、私、ここへ来させていただいて、いろいろなところで見させていただいております。

それから、文化・歴史をどう伝えていくのかということにつきましても、歴史講座、出前講座等、この間から、9月になりましてから、8月から9月にかけてまして竜門騒動につきまして3回の講座を開いております。60人近くの方々が毎回参加していただきまして、この後々も万葉講座があり、またこの9月4日にもさまざまな講座が開かれるようになっておりまして、60人、70人という方がお集まりをいただいていると。そういうようなことを見ましても、吉野町としてそういうような豊かな文化や歴史を継承していくという取り組みを熱心に行っているつもりでございます。

ただ、先ほど奈義町の、先生お話をさせていただきました。私自身も今、町が行っていることを子供たちが肌身で感じて、そして主体的に社会にかかわって
いこうとする子供にという点につきましては、奈義町の教育のあり方というの

を、私は学ばなければいけないというように思っております。先日もそういうことを感じましたので、今まさに先生が言われましたのはシチズンシップ教育という部分にかかわることかと思えます。

先日、京都教育大の水山先生に来ていただきまして、職員にもそのあたり、主体的に社会にかかわる子供を育てるためにはどうすればいいのかということにつきましても、この夏季休暇中に研修を行っているような状態でございます。以上でございます。

山本議長

藪坂議員。

藪坂議員

ありがとうございました。

義経千本桜、妹背山婦女庭訓などなど、本当に何とか吉野町を支援したいという外部の声がたくさん今届いてくる、そこまで吉野のファンが増えている時代です。ぜひ外部の力をかりて、この吉野のすぐれた文化・歴史の継続のために頑張ってくださいと思います。

ちょっとお尋ねしますけれども、国民文化祭と障害者のそういう文化祭とかは教育委員会ですか、観光ですか、担当は。

山本議長

藪坂議員、すみません、今は一般質問なので、それは個人的な質問で。後でよろしく願いいたします。

藪坂議員

こちらから回答があると思ったものですから、すみません。ありがとうございました。

山本議長

西澤巧平議員より提出されております

(1) 一人暮らしになっても安心して住み続けることのできる町にするために

の一般質問をお願いいたします。

西澤議員

11番、西澤でございます。一般質問の機会をいただきまして、ありがとうございます。

先ほどから、辻本議員、また藪坂議員から日本一の健康長寿、また高齢者が生きがいを持って住み続ける吉野町というような質問がございまして、私の質問と少しダブる部分があるかと思いますが、ちょっと考えてきたものを、また提案しながら町長の考え方をお聞きしたいと思います。

高齢者の中には、大変困っている方も、元気でびんびんしておられる方も、お金を持っておられる方もない方も、健康な方もそうでない方もいろいろおりますが、本当に困っている、暗闇の中にいる人こそ、暗闇の中からは見えない光というものがあると思います。それを吉野町の町民みんなの社会の共通した目標として取り組んでいていただきたいと思って、少し提案を考えてまいりました。

最近のひとり暮らしの高齢者の中からよく相談されることは、今は車の運転ができるから買い物や病院に行けるけれども、運転ができなくなったら吉野で生活するのは心配やなとか、だんだん腰も足も弱くなってくるので、今後はどこかの施設でお世話にならなければいけないとか、一人での暮らしは寂しくて不安だという話をよく聞きます。このような悩みは、私も含め誰でもが直面する悩みだと思います。

確かに考えてみると、高齢者のひとり暮らしは不安で仕方ないと思います。特に子供や親戚が近くにいない方はもっと不安だと思います。こういった年寄りが生活する中で、不安や不便さをいろいろ感じると思いますが、ひとり暮らしの高齢者が日常生活でどのようなことが困るというのを考えてみると、誰でも年をとると足腰も弱くなり、高いところにある電球の交換や重たいごみを出す行動ができなくなる。また、掃除や食事の準備、調理、後始末といった毎日の生活が大変になってくる。そして、地域活動への参加の大切なことはわかっているものの、ひとり暮らしの高齢者にとっては、地域の役員や当番などに対する負担が大変重くなっています。

特に、大変なのが買い物、散歩、外出、通院といった1人で出かけるときの

不安感や外出先でのお金の管理や持ち帰る重たい荷物のことを考えると、年老いた者が一人で生活するには大変な苦勞が伴います。

しかし、今は、不安を感じる要因は、都会で生活するひとり暮らしの高齢者も同じような不安を抱えていると思います。都会と吉野町の違いは、都会に比べて坂道が多いことや交通機関が少ないこと、近くにスーパーや病院がないといったことでしょう。大変なのは、どうしたら吉野で年老いても安心して暮らせるか、住み続けることができるかということだと思います。

町行政としては、老後も安心して住み続けられるようにさまざまな施策、例えば、私が昨年一般質問で提案したごみの戸別収集といったことは、実践していただいていると思いますが、これだけではなく、高齢者のさまざまな不安を一つでも取り除く施策をさらに充実させていかなければならないと思います。

福祉担当参事にお伺いしますが、吉野町における今現在の高齢化率とひとり暮らしの高齢者世帯などについてどのようになっているか、お答えください。

山本議長

芳田参事。

芳田参事

老人関係にまつわる数値について、10年間の推移等も含めてお答えさせていただきます。

まず、高齢化率についてですが、10年前の平成18年には33.8%、5年前の平成23年には37.8%、直近の7月末の数字で45.3%といった状況でございます。

また、ひとり暮らしの老人の人数ですが、平成18年422人、平成23年493人、平成28年534人。老人夫婦の世帯、どちらか1人が80歳以上の世帯となりますが、平成18年116人、平成23年161人、平成28年204人となっております。

また、何らかの介護や支援が必要であるという老人に関しましては、平成18年が648人、平成23年が695人、直近の数字で749人となっております。

以上でございます。

山本議長

西澤議員。

ただいま芳田参事からお聞きしましたように、ひとり暮らしの高齢者が、数字から見てみますと、右肩上がりにどんどん増えてきているように思います。先ほども言いましたが、町としてもっと老後も安心して住み続けられるように体制を整えていかなければならないと思います。

そこで、提案ですが、生活支援サービスの充実について、この町で家から歩いて買い物を済ませることができる地域というのは、非常に限られております。多くの方が車で上市や大淀などのほかの市町村へ出かけ、買い物を済ませているのが現状です。

高齢者の方が毎日生活をする上で、買い物支援、宅配給食・配食サービスなど食を支えるサービスが非常に重要になってくると思います。現在、吉野ストアさんが各地域に移動販売車両ヨシスト号というのを走らせていただいておりますが、全ての地域に移動車両を配車するのは難しいようです。

大和郡山では、市のホームページに配食宅配サービス一覧を掲載しており、食事をつくるのが困難な方や買い物に行くのが困難な方を対象とした、例えばヨシケイ・ナラやならコープなどの事業所を案内しております。吉野町としてもこのような民間の力を活用して、それらを支援していくことも必要でないかと思えます。

次に、お年寄りの交通手段の確保についてであります。日本の警察は、70歳以上に対して車の運転免許証の更新時に一律に高齢者講習を導入し、さらに75歳以上には、認知機能検査と視野検査を行うなどで高齢者の方々に運転能力の低下を自覚してもらおうとして道路交通法の改正が行われました。それも含めて、高齢ドライバーを取り巻く人たちの多くは、危ないから運転はやめてほしいという意見です。

しかし、高齢ドライバーの方は、運転をやめてしまえば移動手段を奪われることになり、病院や買い物へも行けなくなるため反発をしております。

この背景には、我が国の大部分の地域が公共交通機関の発達が不十分であり、マイカーに依存した移動を強いられていることが関係していると思います。加えて、車の免許証を持つことが高齢者にとって自立の象徴になっていることもかかわっています。

ですから、吉野町では、以前実施していたタクシー券の配布をまた復活させてはいかがでしょうか。例えば、高齢者を対象に、初乗り運賃無料チケットを毎年20回分配付すれば、行き先に関係なく利用でき、またコミュニティーバスを併用することで高齢者の外出の促進、公共施設の利用促進を通じた町の活性化や買い物、そして通院支援対策になると思います。

次に、これ、全部提案ですが、厳しい質問をさせてもらったら聞いておる人もおもしろいかわかりませんが、町長も職員の皆さんも一生懸命されていることはわかっておりますので、一緒に吉野の目標を持って考えていったらいいと思って、こういう提案をさせてもらっておるということをご理解ください。

次に、ひとり暮らしの方の見守りについてですが、5年ほど前に地域担当として役場の職員が、各地域のひとり暮らしや高齢者夫婦世帯を回って見回りも兼ね、困っていることの聞き取りを行っておいりましたですね。このことについてですが、住民の方からは、役場の職員が来られいろいろな話を聞いてくれてよかったとか、職員からは自宅に役場職員が来ると知り、服装も小ざれいにされ、温かく迎えてくれたと、非常によい意見が出ていたように思うんです。

今の地域担当の業務は毎年内容が変更されて、地域の何でも屋のように一職員が役場全ての業務の窓口として対応させるように聞いておりますが、役場の職員はスーパーマンではないので、役場の全ての窓口の対応ができるわけがないと思います。やはり餅屋は餅屋、担当は担当の専門的な知識を持っている者であると思います。地域担当職員が全ての地域の問題解決をできるものではなく、中途半端に終わってしまうのではないかと思います。

地域に根差す職員として、5年前に地域担当職員として高齢者宅などを1回だけ回っただけで終わりにしてしまうのではなく、定期的に巡回して日々の不安などに耳を傾けることをやっていけば、少しでも社会から孤立する方を減らしていけるのではないかと思います。そうすることによって、このような活動を日ごろから献身的に担っていただき、ご苦勞をさせていただいておる民生委員の方々の負担も少なくなるのではないかと思います。

そこで、傾聴ボランティアの育成ということを提案したいと思います。

ひとり暮らしの多くは、話を聞いてほしい、話し相手になってほしいという欲求を持っておられます。体の不自由な方は体のぐあいのお話や、家族の話、お金の話、仕事の話、一人で寂しいというような話、生きていても仕方がないんじゃないかという歎きの話など、人は話すことによって心が軽くなり、心が浄化されると言います。話を聞いてもらうだけでスッキリしたということも大いにあります。

全国的にも、悩みや寂しさを抱える人の話を真摯に聞くことで孤独や不安を軽減させる手助けをする傾聴ボランティアの育成が行われております。傾聴ボランティアはひたすら相手の話を聞きます。カウンセリングとは違い、問題の解決のためにアドバイスなどは行いませんが、一定の研修を行えば誰でもできるボランティア活動です。

現在、さまざまな理由から話したくても話せない人が増えております。特に、急速に進展する高齢化社会の中で、話す機会の少ない高齢者の心のケアがクローズアップされております。

しかし、高齢化社会といえ、その8割以上が元気な高齢者という状況もあります。ですから、元気な高齢者自身が同世代の高齢者の心のケアをするという傾聴ボランティアのような活動を行えば、相互支援になり、高齢者福祉施策にも沿うものであると思います。高齢者の方の孤独を防ぐとともに、安否確認の一つの手法とも言えると思います。

傾聴ボランティアは、一定のトレーニングが必要ですが、一旦それをクリアすれば、誰にでも、また長く続けられる活動であります。このため、吉野町としても傾聴ボランティア養成を行ってはどうでしょうか。

最後に、収入の確保についてですが、定年退職後は少しの蓄えや年金があるものの、やはり少しでも収入があると生活に張りが出て、生きがいにもつながります。長くなった高齢期を健康で生きがいを持って生活するためには、高齢者がこれまでに培ってきた経験や知識、能力を生かし、社会の支えとなって就労の機会の確保が必要です。

この役割を担っているのがシルバー人材センターであり、一部内職のあっせんもやっていますが、町も支援してシルバー人材センターの内職のあっせんを

拡大することで、就労する機会を増やすことができます。このことによりお年寄りの生きがいづくりに貢献することにもなり、介護予防にもつながると思います。

以上のような提案をさせていただきましたが、吉野町ではどんな施策を講じられるように考えておられるのか、町長のご意見をお伺いします。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

すみません、自席から失礼いたします。

おっしゃるとおり、本当に私も議員になって、あと今、町長になってと、20年ぐらい前からいろいろと回って、いろんな話を聞いていて、特にこの五、六年のさま変わりのような、一体これからどうなるんだろうというのを、自分でも不安に思うことがあるぐらいと、冗談に思います。

特に、この一、二年、いろんな区の状況を聞かせていただいたり、この1カ月はずっと各地区ごとのいろんなことを聞かせていただきまして、本当に20年たったらどうなるんやろうという切実な思い、お買い物の不便、本当に今、議員さんおっしゃるとおりでございまして、これに対応せんとどうするんやという気がいたしております。極端にしたら、移住・定住を増やして、もちろん町を元気よくしてという話も格好よくは言いますけれども、現実問題、今住んでいらっしゃる方が明るく、楽しく、そして不安考えずにどうやって過ごしていけるかということをするのは大事だと、私も確かに思っていますので、たくさんご提案いただきましたが、しっかり聞いておりました。

まず、買い物手段といいますか、生活支援のサービスでございまして。

議員さんおっしゃるとおり、移動スーパー等がまず、上げられておりました。多少残っている商店さんへの気遣いもあって、全域に行けていなかったというのがございますが、川上村で、この間から法人をつくられて移動スーパーを用意されたという話でございまして。このようなことができるのであれば、我々もそれ考えていいのじゃないかなと。多少のその商店さんとのあつれきがあるかもしれませんが、全域的に同じようなサービスをできないかということ、業

者の方々と検討する段階に入っているんじゃないかなと思っております。

あわせて、給食等食事の宅配等でございますが、これ一部、国栖のほうでは、福祉協議会等で今、月に何回かでございますけれども、配っておられると。こういう動きをしていただくことも大事でございますし、あるいは業者の方々にお弁当をどう配達していただけるかと、これも、ならコープさんも吉野のほうに進出しておられますので、ご相談もできるのかなということも思っております。

続きましては、交通手段でございます。

確かに免許がだんだん言われると、今、聞いていて思いまして、ご提案されなかったんですけれども、高齢者の方々の運転の講習でもないけれども、もっとそういうずっと運転できるんじゃないかなということも、こちらからいろいろとお助けしてあげるということもあるのかなと思いつながり聞いておりましたが。

タクシー券、これ、どういうふうに配ると……。平等にというような感覚があるので、今おっしゃっていただいた初乗りを何枚か、何歳か以上の方という、そういうもう単純なルールで配らせていただくと、それはそれでいいのかなと思っておりまして、担当のほうで検討をさせていただきたいとは思っております。

見守りでございますが、見守りはいろいろ手段がございますして、郵便局と提携したりとか、また、ごみの収集も議員さん提案のとおり、戸別に行くで見守りになるとか、いろんなことがございますが、今、地域担当のことでもう一回改めてやれと話ございました。

地域担当職員を四、五年前につくりまして、最初回らせたときに、それ何ぞと逆に言われて、そんなん民生委員の仕事やないかとか、ただただちょっと聞いて帰っただけやないかと、結構私の耳には不評のほうが多かったんでどうかという感じがしております。

最近、区の会議とか、あるいは地区のイベントとか、あるいは懇話会とかに出席させていただいて、何でも言うこと、話を聞けど、自分で解決できなくても自分の行政の勉強も含めて調べてお答えをしろというふうな形での進め方

をしておりますが、もう一度原点に戻って、一軒ずつ回らせていただくということもあるのかなと思っております。

今回、ふだんお話を聞けない方々、女性の方であったり、若い方であったりのお話を聞く機会が多数ございまして、この意見は聞きたいと、聞いてそれにお応えすること、これこそが役場の仕事だということを、改めて職員にも申ししておりますので、地域担当の動きの中で各大字ごとにそういう訪問をする、高齢者と限らずいろんな方のご意見を聞くというふうなことも必要かなと思っております。

その中で、傾聴ボランティアの話がございました。

傾聴ボランティア、一応町の制度としても講習をやらせていただいたり、そういう動きはずっとあることはあります。ただ、広まっていませんし、なかなか少ない。これをもっと普通に、例えば職員の大半がそれできないのかとか、もっとたくさんの方が傾聴ボランティアのスキルを身につけるといふ、傾聴のスキルを身につけるといふことで、もっと広く傾聴の講習会というようなことを進めなきゃならないなと今改めて思っております。これも担当のほうで、どこまでできるか検討させたいと思っております。

それから、収入の確保の話をしていただきまして、これももう議員さんがずっとおっしゃっていただいたシルバー人材センターも、やっと軌道に乗って動いているところでございまして、まだまだやれる話があるだろうと。

普通、内職のあっせん等もある程度収入になるとかいうんですが、ある程度までいなくても、ちょっと少しの収入でもいいからやれる仕事というのがあるのではないかと。それを販売することがそれほどビジネスとしてうまくはいかないかもしれないけれども、損しなきゃいいじゃないかというぐらいの感覚も含めて、内職の考え方、その仕事をどうつくるかということも考えなきゃならないのかなと、あるいはどういう仕事があるのかなということ、調べさせていきたいなと思ったところでございます。

本当に我々自身の老後にもかかわる話でございまして、我々自身もそのうち動けなくなるし、運転できなくなる。そのときにどうかということも含めて、切実な問題として我々も町民の皆様方に寄り添って動いてまいりたいと思いま

すので、どうかこれからもご意見、またご指導をよろしくお願い申し上げます。
ありがとうございました。

山本議長

西澤議員。

西澤議員

ありがとうございます。

このような超高齢化社会というのは、私たち今までに経験したことのない、日本が今までに経験したことのないような社会がもう間近に迫っていると思います。

今回の一般質問をただ一回の一般質問として終わられるのではなく、専門委員会を設置してでも、やっぱり吉野町のちゃんとした目標として検討していただくことが吉野に住み続けることに対するの安心であると思います。これからも引き続き、また検討よろしくお願いをして、一般質問を終わりたいと思います。

もうちょっと。日本一目指してください、日本一。やっぱり日本で2番目でもいいねんみたいに思っておったらあきませんので、何でもやっぱり日本一を目指した結果が、オリンピックも世界一目指して素晴らしい結果残していますから、日本一目指してください。よろしくお願いします。

山本議長

10分間の休憩に入りたいと思います。再開は、2時45分とさせていただきます。

(休憩 午後 2時34分)

(再開 午後 2時45分)

山本議長

再開いたします。

続きまして、中西利彦議員より出されております

- (1) 定住促進住宅について
 - (2) 各大字の集会所（公民館）の利用について
- の一般質問をお願いします。

中西議員。

中西議員

10番、中西でございます。

一般質問の前に、過日8月にオリンピックがございまして、日本人選手、一生懸命頑張ってくれまして、私たちに夢や希望や多くの感動を与えていただきました。また、この調子で4年間精進をいただいて、東京大会でも頑張っていていただくことを期待するところでございます。

ということで、議長から許可がございましたので、一般質問をさせていただきます。

まず、定住促進住宅についてお伺いをいたします。

私は、まだ中学校の子供がいるような関係で、吉野中学校へ行く機会がちょいちょいございまして、帰りに河原屋の信号で待っていると、住宅の前の道とか広場で、何人もの子供さんが走ったり、自転車に乗ったりして固まって仲よく遊んでいる光景を見る日が何回もございました。最近では、なかなか子供同士で遊んでいる姿は見ないし、すごく和やかな気持ちになったところがございます。

住み始めてから約5カ月が過ぎるわけですが、担当課としては、今の、例えば、住み心地であるとか、逆に苦情であるとか、また家賃のこととか、ほかにもいろいろお尋ねするようなことがあると思うのですが、そのようなアンケートを全戸にとられたというようなことはございますか、ひとつお聞かせください。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

個々の入居者の方からは、新築でもって低い家賃での入居ということで、喜んでいただいておりますというようなことは、間接的に聞いておるんですけども、

アンケート等については、まだ行っておりません。

山本議長 中西議員。

中西議員 次回にも定住住宅を考えておられると思うのですが、次回のためにもきっちりアンケートのようなものをもって、去年やったことの検証をしていくことが必要であると考えますが、その辺はどうでしょうか。

山本議長 吉岡参事。

吉岡参事 検討したいと思います。ありがとうございます。

山本議長 中西議員。

中西議員 私はたまたま数軒の方々からお話を聞くことができまして、その内容なんでもございますが、全体が広いので駐車場も楽々と2台分はとれますし、何よりも新築であることがすごくうれしいようでもございました。

また、たまたま子供さんが3人おられる方とお話をさせていただきました、家賃も普通なら5万円のところを割引というんですか、4万5,000円であり、とても助かっていますと非常に好評でありましたし、河原屋地区の行事にも積極的に参加させていただいていることということもお聞かせをいただきました。

また、そのご意見として、吉野に若者を残すためには、もっともつこのような住宅を建てていくことが必要だろうというような貴重な意見も聞かせていただきました。

それと、公園に当初は遊具を置くという話があったようでもございますが、予算の関係で今はベンチしかないようですが、何か遊具を置いてほしいというような要望もありましたが、いかがでしょうか。

山本議長 吉岡参事。

吉岡参事

遊具につきましては、町のほうでいろいろ検討もしております、現実的には、今、議員さんがおっしゃっていただいたとおり、予算的なこともございまして、それで遊具は置いていない状況であるんですけども、芝生をきっちり管理すれば、またそれはそれで小さな子供さんにとっては遊び場ということになるのかなというふうに思いましたので、置くとすれば複合の滑り台がついたり、ブランコがついたりというようなそんなものを想定はするんですけども、それよりか今の状態の芝生もいいのかなというふうに、今現在は思っておるところでございます。

山本議長

中西議員。

中西議員

できましたら、そういう要望があったということもちょっと押さえておいていただいて、何か検討をいただけたらなというふうに思います。

それと、今回の河原屋の定住建築について、少しでも若者や子供を残すことや、また地場産業の活性化ということで、製材組合を通して木材を利用させていただきました。入札も終わりました、上棟の日も決まっておるにもかかわらず、まだ使う材料が決まらずに内容の変更があったり、部材が変わったというような点も見られましたし、工期についても業者はきっちりと期限内に完了をさせていただきましたけれども、あのときは、たしかおしまいが3月22日だったと思うんですが、そういうふうに決まっていて、役場側もいろいろと段取りもあるでしょうが、もう少し余裕を持たせた工期を考えていただいたらいいのにと私自身は思ったのですが、その辺はどうでしたか。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

この定住促進住宅、戸建ての住宅を吉野町で建てるというのは、今回初めての試みでございまして、その辺について、いろいろな反省点もございます。

まずは、その発注のタイミングにつきましても、ちょっと時間的に遅かった

のかなと。その辺については、建設業者さんにはご無理も申し上げたのかなというふうには思っておるんですが、何とかその工期内におさめていただきまして、入居のほうも問題なくしていただいたというところは、もう本当に役場としてもありがたい話でございました。

今後、こういった定住促進住宅、こういった形になってくるかまだまだわかりませんが、次回にはもう少しその辺の、いろんな反省点がございましたので、その辺をもう一度洗い直して、次の事業に進めていきたいと思っております。

山本議長

中西議員。

中西議員

ありがとうございます。

この一般質問を提出してから議案書を私、見たんですけれども、9月議会で通過されますと、新たに土地を買うという話が上程されておりました。また、産業建設委員会や予算決算委員会でいろいろとお聞かせをさせていただきたいと思うんですが、河原屋の住宅については義務教育というか、小さいお子様がいることというのが必須条件でございましたけれども、次の住宅も同じような条件にされるのか。また、いわゆる一般向きと言ったいいんですか、どういう言い方をしたらいいかわからないんですが、そういうふうにされるのかという町長の夢のようなお話をちょっとお聞かせいただきたいと思います。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

自席からで失礼いたします。

今いろいろ担当のほうに質問をいただきまして、この事業そのものが吉野町にとりましてといたしますか、非常に異例の事業の進め方だったと私は思っています。ほとんど大ざっぱな、とにかく定住促進をしなければならぬ、子育て世代に来てほしいというところから始まり、戸建てをつくろう、過疎債使い、何とか使って、これでいけるん違うかと。非常に、もっと詰めなくていいのかとか、今おっしゃっていただいた工期大丈夫かとか、このコンペするけど大丈夫

夫かとか、あるいは、途中からもっと吉野材のPRにもなるようにせなあかんの違うかとか、いろんな条件で、町外からしかとらないような方向から、いや町内の方もよそに行かないために、とどめるために必要やとか、いろんなことが入ってくる中でどんどん変わりながらやっていました。

おかげさまで、議会の皆様方のご協力が本当にありがたかった、またご意見もありがたかったとっておりますし、また業者の方々の、ここでやっぱり組合としてもという感じでのご協力いただいたこと、本当にありがたかったなと思っています。

私の悪い癖でもございますが、とりあえず走って、つまずいては考えて、また修正すればいいという感覚もございますので、今言っていたいろいろな問題を抱えていると思います。

今大事なのは、おっしゃっていただいた今入っていただいた方のアンケートをきちっととること。これに対して要望をどうするかということと、それから、もう一つ、今話にはなかったんですが、地元の反応はどうかということも大事かなと思っておまして、ご近所にお住いの方にお聞きすると、子供の声が聞こえるのは非常にいいと。ただ、でも、世間一般では、芦屋かどこかみたいに、保育所来たら困るねんみたいな反対運動があるようなそんな場所もあるようなので、とりあえず地元の方々にも受け入れられて、喜んでいただいているということは非常によかったなと思っています。

こういうことを経験いたしまして、今度次の段階をどうするかということでもございます。この戸建ての住宅を建てるときに、浄化槽の問題があるんで、今のところは下水道が整備されている地域のほうがいいたろうということで、今、やっています。今回も飯貝でございまして、一応下水道がつけられる場所でやろうとしております。

条件をどうするかということ、これもいろんな町政懇談会等でいろんな方にお聞きすると、若い人ばかりやないよと、第二の人生で定年控えて、その後の老後するために移ってきたいという人もいるよとか、いろんな方のご希望があるかもしれませんし、また住宅だけでなく店舗つきはどうかとか、いろんなあれがあると思います。

今度は、まだはっきりと固めておりませんが、飯貝の木材団地に近い場所でございますので、そういうふうな、今度は後から木材のPRというのじゃなくて、吉野材のよさみたいのところをもうちょっとPRできるような、そういう形の方向性をもうちょっと出せないかなというふうな私の希望を、担当には言っているところでございまして。

それから、今回の河原屋住宅、本当に広くとってすごくいい住宅ではございますが、全体的な統一感がないのではないかとご指摘をいただいておりますので、そういったふうなプロポーザル的なこともやってみたいなというようなことを、今、しておるところでございます。また、具体的に進み出しますと、当然議会のほうにもご相談いたしますので、また教えていただきたい、ご指導お願いしたいなと思っています。

それから、こういう地域だけでなく、吉野町全体でももう少し住宅政策をしなければならぬ。空き家を昨年度調べさせていただいて、町内には約600件くらいあると。これどう活用するかとか、どれをどう処分していくかということも大事やし、また新しいこの住宅をどう建てていくか、こんな下水道の整備してあるところにそういう集合住宅的でなくても、国栖や中竜門、竜門とか中荘でも、そういう地域でもっと戸建ての違う形でつくれないかとか、もっと大きなもの建てられないかとか、あるいはハイツのようなのもできないかと、その場所に合った、こんな人に来てほしいということ、土地の提供も含めれば、どんな方を連れてきたいということ、地元の方々の要望も含めた、そんな形の住宅政策というのを広く吉野町で考えるべきじゃないかなということ、今思っているところでございます。

木の町でございますので、鉄筋コンクリートでつくる気はさらさらございません。木造で木を十分に使ったものでということ、前提に置いて、そういう取り組みを、夢のある取り組みをしてまいりたいと思っています。また、いろいろとご指導よろしくお願ひ申し上げます。

山本議長

中西議員。

中西議員

町長、ありがとうございます。

また、私は私なりに産業建設委員会、また予算決算委員会などで少しまた提案的なこともさせていただきたいと思いますので、またその節はよろしく願いたいと思います。

今回の建物については、先般、東京お台場でハウスビジョン2016東京展が開催されまして、有名な建築家、また先生、そして奈良県が吉野の杉、ヒノキを思い切り宣伝していただきましたし、またその反響としてでも、表谷参事からもお聞きしたんですが、例えばTBSテレビの方の問い合わせとか、韓国の業者からの問い合わせとか、また外務省などからも含め、いろんな問い合わせがあるということをお聞かせいただいております。また、先ほど町長にもありましたけれども、8月28日の最終日には、雨の中にもかかわらず、約5,000人の方が来られて行列をつくったというような話を聞いております。

これは、9月定例会通過後の話ですが、これだけ吉野の木材を宣伝していただいた以上は、私ども組合としても吉野材を前面に出して、見せる化粧材として、安価でできるような建物を提案させていただきたいというふうに思っておりますし、また次の住宅を住宅兼モデルルーム的な形をとれないのかなというふうにも思ったりもしております。

また、新しい観光ルートとしては、今現在吉野サイドでもされておられますが、川上村さんにもご協力をいただきまして、川上の大径木を見ていただき、できれば伐採も見ていただき、帰りには恐らく平宗の下のほうにできるハウスビジョンのモデルルームを回っていただき、新しい住宅も回り、そして製材組合や製材所の見学などが考えられ、少しでも木材の活性化につながるかというふうに思いますが、その点はどうでしょうか。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

今の話は、ハウスビジョンから移築する吉野杉の家のことでよろしゅうございますか。

本当に反響がすごくて、例えば、これは輸出もできないのかと外務省のほう

から話があったりというふうな、非常に大きな話になってございまして、もちろん今の長谷川豪さんとエアビーアンドビーというアメリカの会社でございしますので、その辺のところも非常に期待するところでございます。

今度、これどう運営しながら、教えていただいたように、どうPRに使えるかなと思っております、製材組合のほうでも対応する方を専任につけていただいたと聞いております。私ども役場のほうでも、その対応する職員をきちんと役職をつけて木材のPR、それから民泊の宣伝、吉野の観光というようなことで、いろんなところからの対応をきちんとしていきたいなと思っております。どうぞまたよろしく願いいたします。

山本議長

中西議員。

中西議員

ありがとうございます。今後とも、またその木材の活性化という点でいろいろ議論をしていまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いをいたします。

次に、集会所（公民館）の利用についてでございますが、補助金の出どころによりまして集会所とかいう名前であったり、老人憩いの家であったり、公民館というふうにあります。全て今回、公民館ということでお尋ねをいたします。

公民館は、今は指定管理で各地域をお願いをしているのですが、ここ最近の公民館の利用状況というのは、担当課では把握はされておるのでしょうか。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

今、議員さんがおっしゃっていただいたように、補助金の国からの出方によりまして、それぞれ吉野町内でも担当課は決まっております。

まず、教育委員会、長寿福祉、町民課、産業観光振興課、暮らし環境整備課等、その所管でもって老人憩いの家、生活改善センター等の建物をその自治会では公民館でありましたり、集会所でありましたり、いろんな方面で使ってい

ただいております。また、議員さんがおっしゃったとおり、主には指定管理によりまして地元のほうで管理をしていただいているようなところがございます。

私が調べさせていただいた中では、町内で45施設ございました。これについては、まだまだ確かな数ではないですけれども、およそ45施設あるかなというふうに思っております。その施設の中で、年間の利用回数でございますが、多い集会所でありますと、年間182回の使用とかいう、ちょっと多くの使用をいただいておりますところもございますが、平均いたしますと50回程度というような回数での利用でございました。

山本議長 中西議員。

中西議員 今、平均して50回程度とおっしゃられたのは、全部45箇所の平均ということなんですか。

(「はい」の声あり)

中西議員 大体は総会であるとか、役員会であるとか、そういう利用料をいただけないようなことかなというふうに想像するんですが、その辺はどうなんですか。

山本議長 吉岡参事。

吉岡参事 指定管理をしております施設につきましては、年度末にそれぞれの地区から報告書をいただくわけなんですけど、その中では、収入のあるなしは全くその報告には、その辺は町としては求めておりませんので、詳しくはわからないんですけども、大方は自治会の総会、役員会、それから地元の方の集まりでありますとか、その辺のことでの利用がもう大方でございまして、二、三年前は告別式等で利用されておるところもあったようにございますが、ここ最近はその辺のこともなく、収入のないというような利用が大半でございました。

山本議長

中西議員。

中西議員

ありがとうございます。

今、お話しいただきましたように、総会あるいは役員会とかいうようなことで、利用料もいただけないというようなことで、公民館の維持管理というものにも大変になってくるような気がいたします。

そこで、少し卑近な話で、高尚ではない話なんですけど、少しお話をしたいと思います。

かつて、葬儀というものは各家で行って近所の方々にお手伝いをいただいた時代から、公民館を利用されるようになり、今はセレモニーホールを利用することが主流になってまいりましたけれども、その背景には、やはり地域住民の高齢化によりましてお手伝いをする方が減ってきていることや、若い方が仕事を2日も3日も休めないこと、そして、また施主側というんですか喪主側からいたしますと、お手伝いをいただくことで気を使うなどの理由で、公民館は利用されなくなりつつあります。そうすれば、区としても収入やお金のある大字はいいんですが、収入のない大字としては、公民館の維持管理が区財政を圧迫してまいります。

たまたま私の知り合いの方に葬儀社の方がおられまして、少し話をさせていただきました。これ、全くJAさんや久保さんやモリカワさんがどうこうというわけでもなくの話でございまして、セレモニーホールでの葬儀は、車なしでは遠くてお参りが不自由であること、また葬儀費用がかかり過ぎること。

そして最近では、家族葬や、また香料をとっていただけないという葬儀が最近増えてきていることなどから、そういう理由で適正料金での葬儀が必要な時代になってきたという点から、これからの葬儀は、電話連絡一つあれば準備から受付、ずっと一連のお通夜から葬式云々、そして後片づけまでの仕事を全てされるようございまして、公民館を利用することで非常に安価でできるようでございます。私も一応一通りのプランを見せていただきましたが、改めてこれは安いなというふうに思いました。

また、区としても公民館利用収入を増やすということができるといふふうに

思うんですが、葬儀というのは、個々それぞれの考え方があるのですが、何となくベターな方法ではないかなと思うし、これはちょっと町長や行政側にお尋ねする話ではないかというふうに思うんですが、ちょっとその辺、町長、いかがでございますでしょうか。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

ちょっと具体的なその葬祭場の話は置いておきまして、本当に区の運営が大変だということで、一昨年から大字別に懇話会をして、もろその話でございます。この集会所大変でしょうとか、区の運営大丈夫ですかというのも、年に何回か葬式さえしてくれたらこのあれがもつんやということも含めて、じゃ、預かれるということで指定管理をお願いしていますので、それができなくなったときに指定管理そのものもできなくなるじゃないかということも含めて、これをどうしようかということから、いろいろと話を聞かせていただきました。

たしかに、ほとんどのところが集会所をお葬式に使わなくなっちゃったと。最近、セレモニーホール以外でやったのは、お寺さんのお葬式だけでありまして、これではいかんよなと思っています。

ただ、その集会所がいいのかというと、避難場所でもございますし、やっぱり区の集まる場所の象徴でございますので何とか運営していただきたいということで、わずかでありますけれども、防犯灯もLED化して使えるようにとか、この集会所をもっと別の形で使えませんかというような提案とかいうふうな話を、今、片方で進めております。

今、議員さんがおっしゃっていただいたとおり、セレモニーホールがこんなにできるまでは、もっと使えませんかという話もしました。現実問題、河川交流センターで業者の方が来られて、何回かやられたりとかいうふうな話もあったんで、そんな形でも使えませんかという話もしたんですが、なかなかそうは簡単にいかないようでございます。これは、そこの集会所をふだん数が減っていますけれども使っていますよね。そのときと葬儀とぶつかるかとか、そのときに業者さんまで連れてきてやれるかとか、あるいは、よそのまで引き受ける

か、いろいろなことがあると思うんで、その辺はもう区と業者さんとの話かなとは思いますが。

ただ、向こうさんもそろそろ競争も激しくなってきたので、その辺は交渉次第で、セレモニーホールへ行くけれども、幾らかこちらにバックマージンいただけませんかとかも含めた交渉というのを上手にされたらよいかと思います。

山本議長

中西議員。

中西議員

ありがとうございます。

全くそのとおりで、とりあえず各大字で公民館、集会所を持たれているわけですが、維持管理本当に大変な時代になってきていますので、これからいろいろな方法をまた皆さんと一緒に考えていきたいなというふうに思っています。終わります。

山本議長

続きまして、野木康司議員より出されております

(1) 債権管理について

(2) 観光資源の利活用について

の一般質問をお願いいたします。

野木議員。

野木議員

5番、野木です。一般質問の機会をいただきましてありがとうございます。

まず1点目、債権管理についてということで質問をいたします。

今の9月議会に提出されております平成27年度一般会計決算書によりますと、町税の収入未済額は3,291万5,207円で、平成26年度と比較しますと111万2,592円の減少となっております。一方で、手数料など税以外の債権の収入未済額は平成27年度が490万2,358円であり、平成26年度と比較して、逆にわずかではありますが29万485円の増加と、このようになっております。

27年度の一般会計では、この2つを合わせて約3,800万円の収入未済額が発生をしております。一般会計予算五十数億の吉野町の予算規模からしますと、この3,800万円という収入未済額、決して小さな数字ではないのかなと、このように思います。

町税では、税務課職員の皆さんの懸命な取り組みによりまして年々減少傾向にあるものの、若干ではありますが増加傾向にある税以外の債権についても、管理体制を強化すべきではないでしょうか。何よりも、納付する力、余裕はあるのに納付をしない悪質な納付者がいるとすれば、使用料、手数料等の公正・公平の大原則に照らして、断固たる措置をとるべきであると考えます。

次に、収入未済額について担当参事に説明を求めたいと思いますが、まず、田中参事にお答え願います。

一般会計にはどのような種類がありますか。この決算書による町税から諸収入まで収入未済額があるものだけ、それぞれの金額も一緒をお願いをいたします。

山本議長

田中参事。

田中参事

お答えいたします。

町税から諸収入までの目ごとに返答させていただきたいと思います。

町税では、個人町民税が調定額2億7,587万698円でございまして、そのうち収入未済額は925万2,892円でございます。法人町民税は4,125万2,440円でございまして、収入未済額はそのうち19万5,000円でございます。固定資産税は3億8,544万5,365円の調定額のうち、収入未済額は2,302万6,075円になっております。軽自動車税は2,166万1,740円の調定額のうち、44万1,240円の収入未済になってございます。

続きまして、分担金及び負担金でございますが、民生費負担金で未収がございます。調定額332万9,956円のうち23万8,000円でございます。

続きまして、使用料及び手数料の中では、民生手数料で調定額2,267万1,660円のうち16万6,910円の収入未済でございます。また、土木使用料でございます

が、調定額4,211万1,076円のうち収入未済は254万2,180円でございます。衛生手数料では3,347万6,951円の調定額のうち68万1,580円の収入未済でございます。

最後に、諸収入では、雑入で1億3,540万8,301円の調定額のうち127万3,678円の収入未済でございます。今申し上げましたトータルですと、調定額9億6,122万8,187円で、そのうち収入未済が3,781万7,555円ということになっております。よろしく申し上げます。

山本議長

野木議員。

野木議員

続きまして、特別会計の収入未済額の説明を、それぞれの参事をお願いをしたいと思いますが、国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険事業、簡易水道事業、下水道事業、農業集落排水事業のそれぞれの特別会計の報告を各担当参事をお願いをいたします。

山本議長

芳田参事。

芳田参事

それでは、国民健康保険会計につきましては、調定額2億5,961万3,159円に対しまして未納額が2,639万6,386円、後期高齢者会計につきましては、調定額8,921万8,960円に対しまして未納額が114万3,500円、介護保険会計につきましては、調定額2億2,577万1,760円に対しまして、未納額が802万9,720円となっております。

山本議長

吉岡参事。

吉岡参事

特別会計で、私のほうで3つの会計を持たせていただいております。

まず、簡易水道でございますが、過年、現年合わせまして29件の件数で、未収金額が140万2,963円ございます。それから、公共下水道事業におきましては、36件で31万8,669円、農業集落排水事業では、4件で2万8,350円でございます。

以上でございます。

山本議長

野木議員。

野木議員

今報告を受けた中で、細かい話ですが、ちょっと10円、1円単位で2点ほど違いがありました。これは結構です。

それで、今説明を受けました一般会計、それから特別会計、合わせて収入未済額が約7,500万円に上っております。平成23年度、24年度には、それぞれ約1億円近くありました。減少したとはいえ、7,500万円という数字は非常に大きな額であろうかなと、このように思います。

近年、各自治体では、税収の落ち込みや他の納税者との公平性の観点から、滞納者に対する特定役務の提供を停止することや、あるいはまた、悪質滞納者の氏名を公表する内容の条例を制定するなどの動きが活発化していると聞きます。債権管理条例を制定し、その中で強制執行などの債権回収手続や回収見込みがない債権を処理することについての規定が盛り込まれている例もあると、このように聞いております。

自治体の債権管理における姿勢を示すことが大事ではないのかなと、このように思います。債権は公有財産、物品、基金と同じく、町民全体の財産であります。この7,500万円の収入未済額、この現状を町長はどのようにお考えでしょうか。

また、今後さらなる収納率の向上を目指して債権管理条例の制定も含めて、どのような体制をとるべきと考えておられるのかお尋ねをいたします。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

自席から失礼いたします。

大変多額の未済額かなとは感じております。ただ、一般的な常識、普通の商取引の常識でいうと大変多いなと思いますが、自治体のこういう勘定から見ますと吉野町はまだ頑張っているほうでございます。特に税の収納率では、本

当に県下でも有数のほうで入っておりますし、その他債権のところでもきちんとやっておるといふふうには思っております。

ただ、行政の特殊なサービス提供といいますか、すぐにやめられない、一般的な商取引でしたら、一遍払わへんかったら、次買えないですけれども、それをずるずる引っ張っていくとか、そういう状況というのはあるので、つい大きくなってしまっているなど思っていますが、それなりに努力をしていると。

ただ、それなりに努力しているではいけませんので、議員さんがおっしゃるとおり、これはもう皆さん方の財産でございますので、きちんと管理しなきゃならないということで、債権管理にどういうやり方があるかということも、今検討中ございまして、もっと厳しい条例を結んでどうするかということも、罰則も含めてあるのかなとは思っております。ただ、しゃくし定規にきちんときつくやるだけが能ではございまして、やっぱり本当に困っている方にはどうするかとか、本当に払えない方にはどう対応するかというふうなことも、きちんとしたご指導といいますか、ご相談もやりながらやっていかなきゃならないと思うところでございます。

また、さまざまな方策を検討はさせますが、また議員さんのほうのご指導もよろしくお願い申し上げます。

山本議長

野木議員。

野木議員

議会前に担当課にちょっとお願いをいたしまして、収入未済額の一覧表みたいなものをつくっていただきました。

一般会計と水道事業の特別会計、これは決算期が違いますので、あえて除いたんですが、一般会計と6つの特別会計、合わせての収入未済額、平成23年度から27年度までの決算の数字を表にさせていただきました。

先ほどちらっと言いましたように、23年度は約1億500万、24年度が約9,650万、それから25年度は、そこから1,300万ほど少なくなりまして8,350万、平成26年度が、さらにまた1,000万ほど少なくなって約7,450万と。平成27年度は、若干ですが26年度より増えておりまして、ちょっと足踏み状態かなと。

税については、先ほど言いましたように、担当課、非常に努力の成果が見えておりました、個別的に効果的な徴収方法、手段を検討して、いろいろ対応していただいたものと、こういうふうに思います。

ただ一方で、使用料、手数料など、いわゆる税以外の収入未済額については余り大きな成果が見られないと。介護保険等につきましては、前年度より約五、六十万増えているというような現状もございます。

さらに、もう少し詳しい比較する表をつくっていただきました。これは、先ほど説明を受けました町税から分担金、負担金、使用料、手数料から諸収入までの一般会計の26年度と27年度の2年度の収入未済額の数字と件数、それから、特別会計の26年度と27年度の収入未済額の数字と件数、これをそれぞれ表にさせていただきました。町長もわかっておられるのかわかりませんが、未済額の金額と件数というのが、この2年度だけの比較でも非常に似通った、同じような数字が並んでおります。これは全く一般会計、特別会計同じような数字が出ております。

これでその金額、件数が同じということは何が言えるかと、町長も状況おありかと思えますけれども、もしかして同じ人が滞納しているのではないのかということも想像できるわけです。こういうふうに比較をしますと、非常にこういう状況が見えてまいります。それで、そこからおのずと債権回収の方法も見えてくるのではないかと考えられるのではないのかなと、こういうふうに思うわけです。こうして表にさせていただきますと非常によくわかります。

これ以上債権を増やさないためにも、何よりも公正・公平を原則とするという観点から、適切に債権を回収するということが必要であるのかなと、このように思います。私は専門家ではありませんので、これ以上詳しいことわかりませんが、債権には公法上の債権と私法上の債権があり、前者は時効の援用を必要とせず、後者は時効の援用を必要とします。そのことから、私債権については、債務者の破産あるいは行方不明などにより事実上回収不能となっている債権に関しては、管理コストも踏まえて早期に見切りをつけていくことも必要であるのかなと、このように思います。

そのためには、先ほど言いました債権管理条例が必要となります。回収すべ

き債権は回収し、そしてまた、落とすべき債権は法律上適切に落とすという姿勢が大事であるのかなと思います。債権の回収というのはスピードが非常に重要な要素となります。そのためには情報の一元化など、今より迅速かつ効率的な債権回収に向けた体制づくりを考えていただきたいなど、このように思います。町長、よろしく願いをしておきます。

続きまして、観光資源の利活用についてということで質問をいたします。

吉野町には長い歴史とともに生まれた歴史資産や多くの文化財があり、何よりも桜の名所として日本中はもちろん、世界の多くの人々にも知られた吉野山があります。それはもちろん吉野町が誇る一番の観光資源であります。もう一つ、忘れてはならない観光資源があります。

それは津風呂湖であります。津風呂ダムは、大和平野、紀伊平野への農業用水及び奈良県上水道への供給を目的とした利水ダムであります。重力式コンクリートダムで、ダムの高さ54.3メートル、ダムの長さ240メートル、総貯水量2,565万立方メートル、満水面積が1.5平方キロの規模でありまして、昭和36年に竣工をしております。

このダムの建設に当たっては、津風呂地区72戸、約300人の多くの人々の生まれ育った美しいふるさとが二度と見れなくなるという大きな犠牲を伴う協力があつて生まれたダム湖であります。そのことを思うと津風呂の人々の無念の気持ちに伝えるためにも、そして多くの先人たちのご苦勞に報いるためにも、もっと全町を挙げて海のない奈良県において唯一大きな湖面が利用できるこの観光資源の利活用を積極的に進めなければならないと思います。

特に、近年吉野町に住む多くの人々から津風呂湖に寄せる関心が薄れているように感じてなりません。最近では、モンベルという団体から津風呂湖竜門岳の周辺道路にコースを設定し、カヌー、自転車、バイク等を使った自然の循環を体感するスポーツイベントの提案があつたようですが、実現にまでは至らなかつたようです。非常に残念なことであります。

ごく最近の話ですが、関西ワールドマスターズゲームズ2021というスポーツの大会が、東京オリンピック・パラリンピックの翌年、2021年5月14日から30日までの16日間、関西一円を会場として開催されるようであります。参加者人

数は、国内から2万9,800人、海外からは2万200人、合計5万人の参加が見込まれている大きな大会であります。その中で、県を通じて、カヌーのスプリント競技を津風呂湖での開催を希望しませんかとの打診があったようであります。それに対して町長もぜひにということで手を挙げたと、このように聞いております。

津風呂湖でのカヌー競技は、4日間、想定競技参加人数は300人を想定しているようです。昭和59年のわかき国体カヌー競技に次ぐ大きな大会であります。多くの大会関係者に吉野町を訪れていただくことにより、吉野町の観光資源がアピールできます。観光施策の見直しも含め、より一層の拡大を図るきっかけにしていきたいなど、このように思います。

このカヌー競技が吉野町で開催されるかどうか、近いうちに正式決定すると聞いております。また、このまたとない絶好のチャンスを受け入れるのかどうするのかは、吉野町の今後の津風呂湖の利活用をどう考えるかにかかっています。今この機会を逃がすと、二度と大きな吉野町の観光資源であります津風呂湖を広くアピールすることができないのではないのかと危惧さえします。ぜひ吉野町が主導権を持って、吉野町の看板を背負った津風呂湖の資源活用をしていただきたい。さらには、この大会が実現すれば、これを契機として湖面や北岸道路、また竜門岳、そして吉野運動公園などの周辺施設や自然を活用したスポーツイベントなど、開催できる仕組みづくりにぜひ取り組んでいただきたいなど、このように思います。

町長のお考えをお聞きします。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

ご質問ありがとうございます。

津風呂湖は、議員さんがおっしゃったとおり、これは利水のダムでありまして、これを今までずっと吉野町も絡んでは、環境問題的に、ここの環境を守らなきゃならない、保全しなきゃならないという方向での協議会であり、活動がずっと中心でございました。今、これを議員さんはもっと観光資源として利用

しろということで、既に観光協会等はまだ頑張っておられて、また漁業組合等も、最近ではワカサギ釣りが始められたり、いろいろ頑張っておられます。ただ、もっとできるのではないかとということかと思えます。

最近では、日本遺産が奨励をするように、文化財でも保全保護じゃなくて、もっと活用しようと、利活用しようと、そういうふうな動きでございますので、もちろん利水ダムでありますけれども、もっと観光に使えるようにということかと思っております。

今回、関西ワールドマスタース2021が催されるということが、昨年以來ご案内いただいております、これを議会にはからなきやならないのか悩みながらも一応手を挙げさせていただきました。4年に一遍、たしか30歳以上の方がどなたでも参加できるという、そういうスポーツ大会で、関西一円で受けようということでございます。これの4年前、要するに2017年、来年でございますが、来年はニュージーランドのオークランドを中心にやられるということでございます、そういう大会があると。

この中で、吉野町というか、何か手を挙げませんかねということで、県のほうからも打診がございまして、かつて大きな大会をしたのは、わかさ国体のカヌーのレーシングと卓球でございましたので、その辺を上げさせていただいたんですが、ほかの競技、ほかの地域とのバランス、るる考えて、カヌーのレーシングが今非常に有力な候補として上がっているようでございます。これが5年先でございますので、これに向けてどういう動きができるかなということをお考えしております。

そんなこともありまして、フジカドさんの自伝をいただいたのがありまして、読んでございまして、本当に苦労されて、本当に苦労されて交渉して、今の津風呂ダムがあるということを読ませていただきました。その思いも本当に大事にしながら、それに応えるためにももっと利用しなきゃならないなとかと思っております。

まだ5年ございますので、どこまで観光資源として活用できるか、湖だけでなく周辺もどれだけ整備できるか、終わった後、カヌーレーシング大会ができたんだから、その先が何かずっと定期的にやれるものはないのかとか、この

際もう一度カヌーを広めることはできないのかと。かつての国体のときに、カヌーで吉高にカヌー部があったりとか、いろいろあの当時頑張っておられました。現在も続いておまして、今、吉中の生徒さんで全国大会で非常に優秀な成績を上げられる方もいらっしゃる。

そんなところも含めて、カヌーに対する盛り上げ方を今からできるんじゃないかなと、カヌーに対する理解と盛り上げ方、そして、その大会の運営、そのときに全世界から来られる方のインバウンドの対応、それから旅館とのつながり、旅館だけで間に合うのか、今は余り進んでいませんけれども、民泊は進められないのか、津風呂湖周辺でももう少し受け入れ施設ができないのか、それから、その後の、今おっしゃっていましたがモンベルさんとか、その辺のそういう団体とうまくもつとできないのかということ、これから本当にやらなきゃならないなと思っております。

ちょっと最近調べておりましたら、わかき国体もちょうど5年前から協議会をつくって、それに向けて何をしていくかとやったようなことがございますので、今年度中、また来年度に多少予算をつけまして、そういう協議をやっていくと。それで、湖面の利用権とか水利権とか、その辺のところの整理もさせていただいて、きちんと精査していただいた上で全町的に、これはもう奈良県が誇る、関西が誇る湖だということで、琵琶湖というのは別にありますけれども、じゃなくて、うまく使えるいい形での観光資源としての利活用というのを、全町的に考えていかなきゃならないと思っておるところでございます。

近いうちに正式発表があるかと思いますが、その時点で新たに組織を立ち上げて動いてまいりたいと思います。またご協力をよろしくお願い申し上げます。

山本議長

野木議員。

野木議員

カヌーの町、吉野町というのも非常に素晴らしいアイデアかなと、このように思います。

町長の話にもありましたように、利水ダムでありますので、当然ダムの機能保全、あるいはまた環境保全というのも大事なことかと思っておりますけれども、も

し何か縛りがあるとすれば、解決に向けてまた努力もしていただきたい。ぜひ力を入れて取り組んでいただきたいなど、このように思います。

5年後の話は、私たち議会としても、議員としても全員一致して賛成を得られる素晴らしいイベント、取り組みであるのかなど、このように思います。ぜひ広い視野に立った津風呂湖の利活用、新たな組織づくりも含めて検討をお願いしたいと思います。

以上で質問を終わります。

山本議長

続きまして、中井章太議員より出されております

(1) 事業所得の向上に繋がる行政政策についての一般質問をお願いします。

中井議員。

中井議員

2番、中井でございます。一般質問の機会を与えていただき、ありがとうございます。

皆さん方、議員各位、いろいろ今吉野町の現状、課題、そしてまた新たな提案等、私自身もまた新たな視点から、この一般質問を聞かせていただきました。

そしてまた、吉野町は今60周年ということで町長初め各職員さんがさまざまな事業を展開され、いろんな形で頑張っている姿も見ております。その中で、やはり町民さんが税金を納めて福祉であったり、またいろんなサービスを受ける上において、やはり税収、自主財源の確保、また事業所得、地域所得の向上というのは欠かせない問題でございます。

過日、北海道並びに東北のほうでも大きな台風が立て続けに来て、今までにないような地域でも大きな災害が起こっております。そんな中で、やはり吉野町としても、防災という視点もそうですし、いろんな意味で財源を確保していかないといけない。そういう時期に来ているということの考えから、本日は事業所得の向上につながる行政施策について質問をさせていただきたいと思っております。

6月の一般質問にて、前期基本計画の検証結果を踏まえて、選択と集中すべき政策について強化政策の一つである産業振興について質問をさせていただきましたが、先ほどお話しさせていただきました新規事業や広域連携事業の産業振興施策が進む中で、事業所得向上につながる行政施策の必要性について、町長並びに担当参事にご質問をさせていただきます。

少子高齢化による人口減少、木材産業を中心とする地域産業の低迷が続く中で、当然事業所得も減少し、町内の総生産、町民所得も下がっている現状にあります。奈良県が平成28年3月28日に公表されました平成25年度奈良県市町村民経済計算推計結果にもその数字が顕著にあらわれております。吉野町は木材産業を中心とということで、産業比率であるそういう数字を昨今は押さえに入られておりますけれども、この経済の計算推計というのも参考にさせていただきながら、25年までの数字ですけれども、ちょっとお話をさせていただきたいと思います。

例えば、平成17年の総生産は267億9,700万、町民所得は216億2,600万円でございます。それが平成25年には、町内の総生産210億4,700万、町民所得におきましては163億200万と、8年で約50億円を超える減少となっております。平成25年度の町内生産の経済活動別構成比を見ますと、政府サービス生産者、これはつまり行政機関、国、県、市町村を中心とした政府サービスの生産者が21.5%と最も高く、次いでサービス業17.9%、製造業17%の構成比率となっております。

参考に、町民所得構成比を見ますと、平成17年度の雇用者の報酬ですけれども、これは66%で、企業所得、個人企業とか法人とかそういうふうな方が29%であったのが、平成25年度には雇用者報酬が10%増えて76%、企業所得が18.1%となっております。これは、やはり商売人、企業環境が悪化した結果、廃業であったりとか、また雇用に変わられたというケース、比率的にはやはり行政機関のほう主流になってきたということも考えられると思います。

その中で、当然、人口というのも減少しております。平成17年には9,984人が平成22年には8,642人というふうな形で、最近では7,671というふうになって下がっています。

全てこういう地域所得で事業総生産であったり、企業所得、人口というのが右肩下がりです。下がっておりますけれども、ちょっと違う視点で、吉野町の一般会計の歳入の推移を見てみますと、平成17年が49億4,200万、平成22年が58億1,200万、平成27年が60億、今回決算でも出ておりますけれども、60億4,300万円と増加しております。その分、基金のほうも、平成17年の4億6,877万から5億171万4,000円に基金も積み上げられております。

この数字をなぜ出したかという、地域の所得であったり、そういう人口が減少しているけれども、実は自治体の財政というのは、いろいろ地方創生であったり、いろんな交付税であったりとかも含めてですけれども、やはり財政が膨らんでいます。今も60周年を迎えてさまざまな事業を展開されておまして、行政の職員の方々もいろいろ奮闘、働いていただいております。ただ、ちょっと見ていただいて、その自治体の財政が、すなわちその事業者、民間のほうに非常に活力に流れていくかということも、少しちょっと違う視点、角度から見ていただきたいなというふうに思います。

人口が減少して、財政規模は膨らんでくるんだけど、行政主導でやる分の中で、いかにそれを民間の活力に反転できるかという、この辺が実は大事じゃないかな。だからこそ、今いろんな事業がありますけれども、前回の質問でも言いましたように、選択と集中ということをやったり今やっていくべき時代に来ているのかなというふうに思います。

そういうことで、私もまだ詳しくは分析はできておりませんが、このような数字から地域の環境変化と政策分析を行い、行政力を民間力に少しでも転化できる政策を打ち出していかなければ、真の地方創生にはつながらないと感じております。行政が展開しようとしている政策が、事業所得につながる政策でなければ新たな企業創業や雇用の確保につながらないだろうし、定住、自主財源の確保にもつながらないかと思っております。

このような観点から、現在進められている実践型地域雇用創造事業、また広域でやりました日本遺産認定事業の取り組みが、今後民間力にどのような影響を与えていくのか、広域連携の視点と事業所得の向上の観点から、町長並びに担当参事からご答弁をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

山本議長

北岡町長。

北岡町長

ご質問ありがとうございます。

今、最後のところで民間力と行政力という話がございました。これはそうなっていたわけじゃなく、しかたなしになっていったと。民間のほうの力が減ってきた分だけ行政がやらなきゃならないということで、という形で徐々に増えてきたんだろうなと私は思っております、これを変えていかなきゃならない、もう議員さんおっしゃるとおりでございます、数年前から何とか吉野町全体、私もともと吉野町全体の総生産をどう上げるかと、一人一人の所得をどう上げるかということが一番大事だとは言っておりましたが、なかなかそうはできなくて、まず、町内の産業育成にどれだけ力を発揮できるかということから始まったわけです。

それが、前期の木のまちをやろうというのが始まりでございました。なかなか結果の数字が出ないまま、それでも民間の方々といろんな交流が始まって、いろんな動きが出てきていると。そこへもってきて、今の地方創生の動きの中で改めて吉野町は木材産業なんだと、そこをちゃんとやるんだということと、木のまちでしっかりやろうという動きが、今やっているところでございます。

その中で、どういう手法をとっていくかと、これは今、木村特別参与にもいろいろお教えいただきながら、指導をいただきながら、厚労省のこの実践型地域雇用創造事業をやっているわけでございますし、また一方では、タモツ先生にもご指導いただきまして、日本遺産をもって、文化遺産として、これも活用してやっていくんだというふうなところを主に置いているところでございます。

環境の保全でありましたり、文化財の保全でありましたり、それは大事でありますけれども、やっぱりここで人が生きていくのでありますから、しっかり産業を育成し、生産を高め、そして、民間の力を高めていくんだと、こういうことを改めて今、本当に動いているところでございますので、これから改めて今の実践型地域雇用創造事業とは何かとか、今どんな動きとか、日本遺産認

定事業もこれからどう動くのかというも、これは担当のほうから具体的に説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

山本議長

田中参事。

田中参事

町長のほうから今、実践型地域雇用創造事業と日本遺産の取り組みについて具体的なところをというお話がありましたので、私のほうから説明をさせていただきます。

まず、実践型地域雇用創造事業につきましては、吉野町と川上村と東吉野村とが共同で取り組んでいる事業でございます。

先ほど議員さんもおっしゃいましたように、地域の産業が疲弊しまして働くところがない、吉野には働くところがないというような状況が起こっております、それで、人口の流出、また地域の衰退というようなことにつながってきたかと思えます。実は、この6月の統計で見ますと、全国的に雇用状況が改善してまいりまして、国平均では1.37の有効求人倍率になったそうであります。

吉野町も奈良県内も大体それに引っ張られまして、吉野町の6月の有効求人倍率は1.88だったそうです。でも、これは、じゃ、1人のお仕事を求めている方に2つぐらい職場がぶら下がっているかということ、現実にはその職種が限定されておまして、福祉関係のお仕事でありますとか、宿泊施設のお仕事でありますとかということに割と集中しておまして、ほかの仕事がなかなかないという現実があります。

その中で、やっぱり地域に活力を与えるためには、地域に雇用を生み出していかなければならないということで、同じような文化と同じような状況下にあります吉野と川上と東吉野がタッグを組んで、何かできないかということでやり出した事業がこの事業でございます、ちょうどこの6月1日に実践型地域雇用創造事業が厚生労働省から採択を受けまして、向こう3年間、いろんなセミナーを行います。例えば、雇用拡大につながるセミナーでありますとか、求職者向けの人材育成セミナーや就職促進セミナーなどというような、この中にいろんな種類のセミナーがあるんですけども、そのセミナーを通じて就職あ

るいは雇用につなげていただきたいというふうに考えております。

また、同時に、大変今、鹿やイノシシでご苦労されている方も多いと思いますが、この鹿やイノシシを何とかジビエ肉として活用できないかというような実践メニューや、観光の新しいルートを開発できないかと、ツアーを開発できないかというようなことも、実践的なことも研究してみようということで考えているところでございます。

3年間で102名の新しい雇用を生み出すことを目標としております。現在、上市の尾仁山で事務局を設けまして、新たに雇用いたしました8人が事務局として各事業所のほうへ回って、このようなセミナーを行いますということで紹介に回っているところでございまして、今月からいよいよ本格的にセミナーも実施するところでございますが、事業所さんも話を聞いていただいて、今までなかった取り組みということで、興味を示していただいているというふうに報告を聞いているところでございます。これが3年間で雇用を生み出して、地域の活力につながっていければというふうに思います。

一方、日本遺産につきましては、吉野町と下市町と黒滝村、天川村、川上村、東吉野村、上北山村、下北山村という吉野郡の2町6村が共同して昨年度から文化庁のほうに認定を申請していた事業でございます。

これはどんなことかといいますと、この地域の人たちは森とともに暮らしてきた。当たり前のお話ですけれども、もともとの古代からの自然林も吉野にはたくさんありますけれども、500年前に、この地域で初めて造林が、日本で初めて造林が発祥したというところで、その造林技術というのは日本で屈指の造林技術というふうに言われているといいますけれども、その造林された山々がとても美しいやないか、これを何とか観光資源にもできるんじゃないかということで、その山にまつわる景観や文化を文化庁に資産として認定をしてほしいということで、1年間かけて申請したわけですけれども、今回7月1日に「森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地“吉野”」という題名で日本遺産に認定を受けました。

今後、この吉野地域の美林あるいはその美林の中で生まれた、例えば柿の葉ずしとか吉野葛なんていうような食文化も含めまして、文化を全国に発信して

いって誘客に努めたいというふうに思っております。

今年度の事業といたしましては、その8町村で共同でホームページやパンフレットを作成いたしましたり、雑誌に掲載あるいはテレビで紹介番組をつくってもらったり、あるいはボランティアガイドを養成したり、観光ルート、新たに山の中へ、先ほどもお話が少し出ていましたけれども、大径木の山の中、今までは人が入らなかったようなところへ入っていただいて、今までにない観光あるいはそれにまつわる製材所でありますとか、その関連の地域を回ってもらうような観光ルートの造成などをしまして、地域の活性化に資するものとしたというふうに考えているところでございます。ちょっと長くなりましたが、よろしく願いいたします。

山本議長

中井議員。

中井議員

ただいま、実践型地域雇用創造事業と日本遺産認定の事業の説明をいただきました。

実践型におきましては、3年間で102名の雇用ということで、ジビエであったり、観光ツアーということも入っておりましたけれども、実際にいろいろこういう補助メニューでやるときに、その3年間、実際に102名の雇用が各事業所なり、新たな企業を起こしていただく形でできた後、やはりどうやってそのランディング、3年間の補助事業が終わった後に継続できるかというところが非常に大きな問題でございます。

林業におきましても、緑の雇用制度ということで林業従事者を育成してということで、国のほうからも3年間の緑の雇用制度をやって、3年間は実体験であったり、研修を終えた後、結局その事業所が体力がない、また仕事がない分やめていくというケースがあります。ですから、非常にここらが地域の民間力が力をつけられるような形に持って行って初めて、環境ができて、こういうふうな新たな事業であったり、そしてまた、日本遺産の認定事業が生きてくると思います。

ですから、当然ツアー観光というのは民間でもいろいろつなげてできるわけ

ですけれども、実際に働く人が輝く姿を見て、それが日本遺産認定として今まで続けてきたという、製材もそうですけれども、山を守ってきたということも含めて、その視点をぜひ持っていただきたいなというふうに思います。

せつかくこの実践型も東吉野、川上、吉野、それと、日本遺産に関しては、もう少しエリアが広がって広域的な連携を持っていこうとしています。ですから、この連携を、補助メニューでできた連携じゃなくて、実際にこの連携で新しい行政が果たす役割を見つけ出していただきたいなというふうに思っています。

それが、実はちょっと話の続きになるんですけれども、先ほど中西議員のほうからハウスビジョン2016の反響であったりとか、定住促進の中で住宅PRという話が若干ございました。それが少し、その広域連携の中で、また行政が今やっぱり行政だからこそできること、民間ではできないけれども行政だからできるというふうなことで、ちょっと質問をさせていただきたいなというふうに思います。

先ほど、ハウスビジョン2016展覧会での吉野杉の家のPRを通して吉野材の供給体制、また、ウッドスタート宣言をし、ファーストイ事業、木育を推進していく中で、行政として果たすべき環境整備、今後求められるであろう森林認証制度の必要性について質問をさせていただきます。

2020年に開催される東京オリンピックの建造物等に使用される木材は、森林認証を使用すると明記されております。また、木材輸出、先ほど町長も輸出という話がちょっと出ましたので、木材輸出の必須条件、特にヨーロッパのほうは必須条件になっています。中国、韓国の方も、これからですけれども、日本の木を使う場所というのは構造材、ひょっとしたら明記されるという話も聞いております。あと、大手のハウスメーカー等が木材の調達基準として今推進中でございます。など、森林管理だけの認証制度ではなく、素材、製材、製造事業者、市場、家具メーカー、工務店、最終製品、おもちゃとかモックスバイオマスそういうところまでつながる仕組みの認証制度で、客観的評価、ラベルでの識別、トレーサビリティが求められる制度でございます。

こういった制度は、決して個人、民間だけで取得認証するにはハードルの高

い、審査費用も含めてですけれども、非常にハードルが高い制度でもございます。過日、奈良県の奈良の木ブランド課のほうでも、この認証制度の説明会を開いて推進体制に入っているところがございます。

このような流れの中で、吉野材を安定的に供給できる体制を確立するためにも、一自治体で取り組むのではなく、吉野郡全域で取り組み、奈良県と連携しながら、いま一度吉野材のブランド価値を高め、地域所得の向上につながる行政政策を進めるべきであると考えます。

実際に、ハウズビジョンでいろんな出展をしたことによって、今まで吉野町でやっていた事業じゃなくて、やっぱり世界のハウズビジョンということで、エアビーアンドビー、その吉野杉の家を建てたという記事が各地の雑誌にも掲載されております。その創設者のジョー・ゲビア氏、今後1年間程度吉野杉の家によって吉野がどのように変化していくか追跡する予定です。吉野を助けることによって、このモデルが吉野以外の日本の都市にも貢献できるのではと考えています。このようなコメントも出されています。単に我々が、吉野町並びに県が出展して始まったものではなく、積み重ねの中で、つながりの中で、こういう皆さん方の製材組合へ3,000万円寄附していただいたり、いろんな方の協力でこの事業があそこまでいったと思っています。

ですから、そういったせつかくのチャンスをつかむためにも、世界から求められたときに輸出できるチャンス、そういったためには、やっぱり森林認証制度というのを今ぐらいからもう準備していかないと、非常に対応できないようになってしまうんじゃないかなというふうに危惧しております。

ですから、吉野町だけでやるのではなくて吉野郡全体で、こういうふうな制度設計、認証制度取得に向けて動きをしていくべきであると思います。その中で、町長に今、28年の施政方針にも書かれている吉野材の認証制度の確立と、この自伐型林業の推進の戦略性、これも兼ね備えて、町長から考え並びにご答弁をいただけたらなというふうに思います。

山本議長

北岡町長。

私の認識がちよっとずれていたり、間違っていたりしたら、またご指摘いただいたらいいと思うんですが、森林認証制度、これは基本的に奈良の木ブランド課といいですか、県がやっていることだと私は思っております。

吉野材は、その中でももっともう一つ違うんだということを私はやりたいと思っております、木育でありましたり、あるいは木のおもちゃをさわっていたりとか、あるいはまた吉野材の家とかでこうやっても、誰が見ても誰がさわっても吉野材は違うんですね。杉の色目から香り、ヒノキの艶とか香り、全く違う。これは従来から吉野材は違うんだということを、特に業界の方々も含め言っておられるし、一昔前、今もそうかもしれませんが、木材の価格表を見たら、ほかのは全部値段が入っているけれども、吉野材だけ時価やみないな、そういう全然違うんだというところを、これをもうちょっとはつきりしたいというのが私の気持ちでございまして、森林認証とか、最低限の強度の問題とか、どういうふうな縛りをするか、あるいはトレーサビリティをどう使うか、そのような話は、奈良の木ブランド課というか、奈良県でやればいいと僕は思っています。

その上で、吉野材をどうよくするか。吉野材が何がいいかというのは、その艶であったり、それをどう表現するかというのが問題でありまして、これがなかなか難しい。普通に聞くと、皆さん方は数字であらわそうとしたりとかされます。そうじゃなくて、官能でやりたいなど、やっていただきたいと僕は思っています、仕事柄、酒のことをやりますけれども、昔で言う級別審査とか、あるいは品評会とか、これ、官能なんですよ。どんな香りがするか、それがいい香りなのか悪いかをチェック、色はどうかチェック、木の場合でしたらさわわり方、酒の場合でしたら味が酸味であったり何かと、いろいろあるんですね。そういうのをチェックして、それで皆さんの中で官能検査をして、10人中8人がオーケーと言ったらオーケーというふうな制度でいいのじゃないかと。

見るからに本当に違うので、材として。堂々とそういうことをやればいい。それで、それなりの専門家であったり、あるいはそういう味覚や嗅覚にすぐれた方とか、ある程度の審査員をきちんと養成して、審査員で審査して、その塊でこの製材所に出したものは、これならオーケーというをすれば、それを使っ

た木工製品は全部吉野材認定制度みたいなことでやれば、そんなに難しくなく、しかもよさを堂々と発揮できると。

そういう官能検査というのは、そんないいかげんなもの違うかとおっしゃるかもしれませんが、これは、統計できちんとやれば、推計学とか学問もちゃんとありますので、そういうところにつくってほしいということを希望して、今検証してもらっている。

今の段階は、ただ吉野材のよさって何というところをしっかりと、共通のまずよさは何かというところをきちっとあらわさせていただけないかということ、今お願いしておるところでございまして、ちょっと業界には全くなじめないやり方かもしれませんが、そういうPRの仕方が、私は吉野の材には合っているのではないかというふうな認識をしております。

それから、自伐型の林業の話でございしますが、これも議員さんのほうがよくご存じかと思えます。現実に高知県等で自伐型林業として成功されている林家が何件かあると。特に地域おこしで来て、林業を学んで、自分で山を買うこともありますけれども、基本的には預かって数十ヘクタールから百ヘクタールぐらいを預かって、その中で林業をします。みずからが勉強して、道をつけ、作業道をつけ、みずからが伐採してやっていくと。それで大体何千万かの収入は得ているということが、高知県内のあるところでは数件がそれで仕事できているというふうな話を聞いております。これは、他の代議士も非常に熱心で、その事務局とやられて、一生懸命やっておられますし、吉野にもその方々が入ってきているし。作業道のつくり方なんかでは、清光林業さんが一枚かんでいたりとか、いろんなことをされています。

そういうふうなところで、我々、非常に情動的には恵まれた環境にありますので、その自伐型林業、言い方変えれば、昔からの吉野でやっていた山守制度の山守さんが本当に自分で林業をするという、そういう仕組みなんです、これをぜひ導入したいなということで、この協議会のほうからもお勧めもあって、いろいろ勉強してもらっているところでございます。ただ、下北山かな、あちらのほうが進んでおりまして、そちらとも並行してやっていきたいと。

なかなか林業そのもの、特に川上や東吉野ですと非常にいい材があつてとい

う感覚があつて、吉野町の林業はどうという話もありますが、とりあえず、小さな林分をたくさんの方が持っているのを何とか集約するという、ありますけれども、とにかく自伐型でどんな林業をやったら、そこそこの生活が成り立つのかということ、幸い左曾のゴルフ場跡地の奥が四、五十ヘクタールの山林があると、大した木は生えていないですけれども、そこでちょっとお試しにやってみると。今ちょうど、この間から入ってきました地域おこし協力隊で林業をしたいという人間と、そこで林業を学ばせて、そして、どういうふうに集約化していったら林業として成り立つかということこれから取り組んでいきたいということでございます。

その間、いろんな清光林業さん、あるいは中井さんのところとか、そういう民間の業者の方にも研修に行くとかいうことをしながら、何とか収入を得て、ここで住んでいただけるような自伐型林業を進めていきたいと。吉野町の森林の面積と材積から考えると、上手にまとめれば5軒なり10軒ぐらいの方々が生活していけるぐらいの山はあるのではないかと推測しております。何とかそれでも増やし、仕事も増やしていきたいと思っております。

以上でございます。

山本議長

中井議員。

中井議員

時間があともうわずかでございますので、今、町長からご答弁をいただきました。実際に認証材質制度におきましては、吉野材の香りとか、町長とは何回かその話もさせていただいております。ただ、こういうハウズビジョンで世界に向けて供給できる体制というベースで、やはり吉野材の私も、今、奈良の木ブランド課ができて、吉野材という名前が前面に最近出ていかないというふうなこともあります。ですから、吉野材を吉野郡全域で、本来の吉野林業地帯で、やはりもう一度ブランド価値を高めていくために、吉野材の認証制度と、そのベースになる森林認証制度というのを研究対象には入っていて、いつでも対応できるような仕組み、組織というのをつくってほしいなという思いで質問させていただきました。

それと同時に、先ほど自伐林家に関しては、ベースになる集約化、境界の明確化、ここがやはり民間ではできていない、森林組合でもなかなか進んでいないところがあります。ですから、その自伐林業が成立する上での町内の山林の集約化であったり、境界の明確化、ここにぜひ全力投球をしていただいて、そのベースができて、自伐型林業の推進というふうな形になっていくんじゃないかというふうに思いますので、そこはなかなか行政でしかできないところでもあろうかと思しますので、力を注いでいただきたい。

最後に一つだけ、エアビーアンドビー、今回の事業でサマラという会社を設立して、この吉野杉の家を今後日本の過疎化、また空き家が進むところでモデルケースでやっていきたいというふうな形で立ち上げられています。こういうチャンスというのは、非常に行政的にも、やはり吉野町も空き家の問題であったり、先ほどの定住住宅ですけれども、吉野杉、吉野ヒノキの新たな活用提案というところまでつながってこようかなというふうに思います。

ですから、これをどういう形で行政として組織をつくって連携してやっていくかという、そういうところもやっぱりぜひ大事じゃないかな、この1年の中で、ひよつとすると民泊というのは、今、町長も言いましたけれども、まだ規制緩和の問題もありますし、先日、小泉進次郎農林部会長も民泊に対する推進をという言葉も農林部会でもいろいろ話をされていました。

ですから、結構課題であったり、問題があるところにぶつかっていくということは、世界から、また日本からも注目を浴びる。その分ハードルはあると思いますけれども、ぜひこのチャンスを生かしていただいて、民間と行政と一緒に、そしてまた、民間の、外国、世界を羽ばたく企業と協働で地域所得、事業所得の向上につなげていただくことをお願い申し上げ、一般質問を終了いたします。

ありがとうございました。

山本議長

これで一般質問を終了いたします。

本日上程いたしました議案の審議がすべて終了いたしました。

明日から特別委員会、常任委員会を開催いたしまして、付託議案等の審議をお願いしたいと思います。

明日からの委員会の日程を申し上げます。

9月	3日		休 会
9月	4日		休 会
9月	5日	午前10時	総務委員会
9月	6日	午前10時	産業建設委員会
9月	6日	午前10時	文教厚生委員会
9月	7日	午前10時	予算決算特別委員会
9月	8日	午前10時	予算決算特別委員会
9月	9日	午後3時	本会議（第2日目）

を開会いたします。

明日からの委員会には、十分ご審議を賜りますようお願いいたします。

本日はこれもちまして散会することにいたします。

ご協力ありがとうございました。

（ 午後 4時10分 散会 ）

- 日程 6 議第 50 号 平成 28 年度吉野町一般会計補正予算(案)第 2 号について
- 日程 7 議第 51 号 平成 28 年度吉野町介護保険特別会計補正予算(案)第 2 号について
- 日程 8 議第 52 号 平成 28 年度吉野町簡易水道事業特別会計補正予算(案)第 1 号について
- 日程 9 議第 53 号 平成 28 年度吉野町下水道事業特別会計補正予算(案)第 2 号について
- 日程 10 議第 54 号 平成 28 年度吉野町水道事業特別会計補正予算(案)第 2 号について
- 日程 11 認第 3 号 平成 27 年度吉野町一般会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 12 認第 4 号 平成 27 年度吉野町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 13 認第 5 号 平成 27 年度吉野町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 14 認第 6 号 平成 27 年度吉野町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 15 認第 7 号 平成 27 年吉野町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 16 認第 8 号 平成 27 年度吉野町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 17 認第 9 号 平成 27 年度吉野町農業集落排水事業特別会計歳入採取決算の認定について
- 日程 18 認第 10 号 平成 27 年度吉野町土地開発基金会計歳入歳出決算の認定について
- 日程 19 要望等について
- 追加議案等
- 日程 20 同第 4 号 吉野町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて
- 日程 21 議員派遣について

11. 本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

12. 議事の経過は次のとおり

山本議長

ただ今の出席議員総数は 10 名でございます。
定足数に達しておりますので、議会は成立いたしました。
これより本日の会議を開きます。
本日の議事日程はお手元に配付のとおりでございます。

山本議長

日程 1 9 月 2 日の本議会で各委員会に付託した議案等の審議結果について委員長報告をお願いします。

まず、総務委員会 上滝 義平 委員長をお願いします。

総務委員会 上滝 義平 委員長報告

上滝議員

総務委員長として私のほうから委員会の報告をさせていただきます。この開催には、理事者側、及び町議会の議員の皆さん方が熱心に議論をされ、ちょっとでも吉野町がよくなるように皆さん頑張っておったことを感謝申し上げます。

まず、「議第 47 号 吉野町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正することについて」は、女性消防団員の新たな入団に伴い、団員定数を実態に見合ったものとするとの説明を受け、本案を承認することといたしました。

次に、「議第 49 号 辺地総合整備計画の変更について」は、公共的施設の整備計画において、小名地内の町道（中竜門 24 号線）の事業費について、平成 28 年度において追加工事をおこなうために辺地対策事業債の予定額を 1,100 万円増額し、2,200 万円に変更するとの説明を受け、本案を全員一致で承認することといたしました。

次に、上市町内会連合会会長 轟町内会長 梶井啓司 氏 他 7 名より提出されております、「消防車両更新についての要望書」については、町全域の消防車両更新計画等からも審議し、町の消防機能を保持するための重要な案件であることから、異議なく採択いたしました。

次に、「町制 60 周年記念事業の進捗状況について」、町主催の企画事業、他団体との協賛事業及び町民からの提案事業等の説明を受けました。

また、本定例会で提出されている、「平成 28 年度吉野町一般会計補正予算（案）

第2号」に計上の「ふるさと元気まつり in 吉野」で実施検討されている、プロレス興行及び歌手ミニコンサートについても説明を受けました。

次に、「吉野材の魅力発信拠点整備事業について」は、先日、東京にて開催されたハウスビジョン 2016 の反響や展示されました「吉野杉の家」の今後の利活用について、また吉野地域の復活に向けた「基幹産業である木材関連産業の課題克服プロジェクト」等について説明を受けました。

次に、議会改革に伴う議会議員の定数については、今後も継続して審議をおこない、10月初旬に改めて総務委員会を開催し十分な審議をおこなっていくこととしています。

以上が本委員会における調査、審議の結果であります。

なお、議会閉会中においても、当委員会所管事項について、継続して審議できるよう申し出いたしまして、総務委員会委員長報告を終わります。

山本議長

続いて、産業建設委員会 西澤 巧平 委員長にお願いします。

産業建設委員会 西澤 巧平 委員長報告

西澤議員

産業建設委員会 委員長報告を申し上げます。

本定例会において、産業建設委員会に付託されました議案等の審議、並びに、結果につきまして、ご報告を申し上げます。

本委員会は、9月6日午前10時から理事者に出席を求め、開催いたしました。

暮らし環境整備課所管の「議第46号 吉野町都市計画審議会条例の一部を改正することについて」は、吉野町課設置条例の改正に伴い、吉野町都市計画審議会の庶務を新たに機構改革により設置された「暮らし環境整備課」に改めるとの説明を受け、本案を承認することといたしました。

次に、「議第48号 吉野山地区簡易水道統合事業中央監視装置及び送水ポンプ盤設置工事請負契約の締結について」は、吉野山地区簡易水道統合事業における中央監視装置を飯貝浄水場内に、送水ポンプ盤を低区配水池内に、それぞれ設置するための請負契約の締結であるとの説明と、平成25年度からの全体事業の概略及び進

捗状況の報告を受け、本案を承認することといたしました。

次に、本定例会で提出され、総務委員会付託案件となっております「辺地総合整備計画の変更」に係る小名地内の町道（中竜門 24 号線）の工事内容について、雨水等による浸食に伴いオーバーハングし、不安定な状態となっている法面の対策工事であるとの説明を受けました。

次に、産業観光振興課所管の「実践型雇用創造事業の状況について」、本町、川上村及び東吉野村の官と民が連携し設立した吉野三町村雇用創造協議会において今年度を実施する、「雇用拡大」、「人材育成」、「就職促進」、「雇用創出実践」に関するセミナー等の事業内容及びスケジュール等の説明を受けました。

また、雇用創造に向け、奈良労働局と雇用対策協定を締結し、上市地内に設置した吉野三町村雇用創造協議会事務局内にハローワークの出張相談が受けることが出来る「みよしの Job（ジョブ）センター」を開設したことなどの報告を受けました。

次に、「自伐型林業の取り組み状況について」、左曽地内の町有林等を活用して、地域おこし協力隊の研修を含め自伐型林業に取り組んでいくとの説明を受けました。

次に、協働推進課所管の「左曽地内の太陽光発電所建設に関する進捗状況について」、電力関係事業者の電力側連係工事及び鉄塔工事、また伐採、造成及び発電所建設工事に関するスケジュールなどの説明、並びに、売電開始予定が平成 31 年 3 月である旨、報告を受けました。本事業の将来性には大いに期待をするものではありませんが、本事業に伴う建設工事等が本格的になれば、周辺地域だけではなく、町内のいたる所で工事関係車両の往来等が予想されます。本委員会としては、吉野町のいいところ、「おだやかで、すごしやすい環境」が一変し、町民の安心、安全が脅かされることの無いよう、町当局に各事業者と安全確保に関する協定締結等あらゆる対策を講ずるよう求めました。

次に、各地域の近隣住民の方が大変困られている河川でのバーベキュー等のごみ対策について、担当課から現状対策等の説明を受けました。本委員会としては、来年度からは、ごみ収集が町直営化となり、柔軟でスピーディーな対応が期待できますので、改めて河川管理やゴミの回収及び処分の担当部局である「河川管理者の

県)、「吉野3町村クリーンセンター」、「暮らし環境整備課」等の各関係機関が連携し、この問題の解消に向けて再検討いただくよう要望致しました。

以上が本委員会における調査、審議の結果であります。

なお、議会閉会中におきましても、当委員会所管事項について、継続して審議できるよう申し出いたしまして、産業建設委員会委員長報告を終わります。

続いて文教厚生委員会 中井 章太 委員長にお願いします。

文教厚生委員会 中井 章太 委員長報告。

中井議員

文教厚生委員会の委員長報告を行います。

本定例会におきまして、文教厚生委員会に付託された議案等はございませんでしたが、調査、審議の結果等につきまして、ご報告を申し上げます。

当委員会は、9月6日午後1時から理事者に出席を求め、開催いたしました。

まず、「国民健康保険事業の今後のあり方について」、平成17年度からの国民健康保険事業の収支状況及び基金残高、また、平成30年度から奈良県国民健康保険への広域化に伴う県が示す標準保険税率(案)等の現状説明を受け、国保事業の安定した財政運営及び制度維持を目的に、県が示す標準保険税率(案)を勘案し、税率に関し「資産割」を無くし、「所得割」、「均等割」、「平等割」の3方式に改める等、平成29、30年度に段階的な税率変更を実施したい旨の説明を受けました。

次に、「中荘温泉の今後の運営方針に関する検討状況について」、担当課より、老人福祉センター「中荘温泉」及び付設している「ゲートボール場」の利用状況の推移、並びに本年4月から7月までの第1四半期の収支状況等の説明の後、今後も引き続き、中荘温泉の運営方針について検討していくとの、報告を受けました。本委員会としては、町民ニーズの調査を含めて、引き続き今後の運営方針について検討いただきたいと申し出を致しました。

次に、教育委員会所管の「関西ワールドマスタースゲームズ2021について」、

この大会が、国際マスタースゲームズ協会により4年ごと開催され、原則30才以上のスポーツ愛好が集う生涯スポーツの国際総合競技大会であり、2021年にアジ

アで初めて、関西で第 10 回記念大会が開催されるとの説明を受けた後、この大会のカヌー競技のスプリント種目の開催を津風呂湖に招致するため申請等を行ったとの報告を受けました。

以上が本委員会におきます調査、審議の結果であります。

また、議会閉会中におきましても、当委員会所管事項について、継続して審議できるよう申し出いたしまして、文教厚生委員会委員長報告を終わります。

山本議長

続いて予算決算特別委員会 野木 康司 委員長にお願いします。

予算決算特別委員会 野木 康司 委員長報告

野木議員

本定例議会におきまして、予算決算特別委員会に付託を受けました議案の審議並びに結果等につきまして、ご報告を申し上げます。

当委員会は、9月7日、8日 午前10時から、理事者に出席を求め、開催いたしました。

まず、「議第50号 平成28年度吉野町一般会計補正予算(案)第2号について」、主な歳入の補正は、「普通交付税1億2,053万5千円」の増額と、「臨時財政対策債2,733万4千円」の減額で、主な歳出の補正は、「大字施設整備等助成金100万円」、「町制60周年記念事業として開催するプロレスの開催実行委員会交付金250万円」、「災害対策事業として防災士育成に伴う研修費等188万円」、「平成27年度繰越金確定に伴う財政調整基金積立金1億9,300万円」、「自伐林業推進事業として自伐林業研修費等276万4千円」、「町道管理事業として側溝及び横断溝等の改修費500万円」、「河川整備事業として香束地区河川護岸整備費150万円」、「定住促進住宅新築事業として用地購入費、造成工事費、住宅設計委託料等5,200万円」の増額、また、「介護保険特別会計繰出金については補助金の減額331万9千円」、また、「本年7月1日付の機構改革に伴う人事異動による各歳出予算科目での職員給与費の増減等」の補正である旨説明があり、審議を致しました。

本委員会としては、住宅政策に全般について、町全体の開発等の計画の中で、各地域の特性を生かしつつ、「吉野らしい」最適な施策展開を求めました。

次に、「議第 51 号 平成 28 年度吉野町介護保険特別会計補正予算（案）第 2 号について」は、主なものは、「介護ロボット導入に対する交付金 92 万 7 千円」、「財政調整基金積立金 1,774 万円」、「平成 27 年度事業の精算に伴う国庫支出金等過年度分返還金 483 万 4 千円」などにかかる増額補正である旨説明があり、審議を致しました。

次に、「議第 52 号 平成 28 年度吉野町簡易水道事業特別会計補正予算（案）第 1 号について」は、「水道事業変更認可業務委託料 660 万円」にかかる増額補正である旨説明があり、審議を致しました。

次に、「議第 53 号 平成 28 年度吉野町下水道事業特別会計補正予算（案）第 2 号について」は、「7 月 1 日付人事異動に伴う職員給与費 355 万円」の減額補正である旨説明があり、審議を致しました。

次に、「議第 54 号 平成 28 年度吉野町水道事業特別会計補正予算（案）第 2 号について」は、「収益的収入」及び「資本的収入」については、一般会計からの繰出し基準の変更によるもの、「収益的支出」及び「資本的支出」については、職員手当等の補正である旨説明があり、審議を致しました。

次に、「認第 3 号 平成 27 年度吉野町一般会計歳入歳出決算の認定について」各担当参事、課長から項目ごとに説明を受け、審議し、事業本来の必要性を精査し、来年度予算に関しては、効率化しメリハリのある事業展開となるような予算編成をしていただくよう求めました。

次に、「認第 4 号 平成 27 年度吉野町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について」、保険税、国庫支出金及び各交付金の歳入、保険給付費、後期高齢者支援金、共同事業拠出金等の歳出で実質収支は 1,972 万 9,540 円、財政調整基金残高は 192 万 827 円の決算であり、厳しい財政運営となっている旨の説明を受けました。

次に、「認第 5 号 平成 27 年度吉野町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について」、保険料や繰入金等の歳入、後期高齢者医療広域連合納付金等の歳出で実質収支 48 万 7,090 円の決算であるとの説明を受けました。

次に、「認第 6 号 平成 27 年度吉野町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について」保険事業勘定の実質収支は 2,068 万 491 円、サービス事業勘定の実質収支は

0円となる旨説明を受けました。

次に、「認第7号 平成27年度吉野町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について」、実質収支は3,843万5,330円であり、町内各簡易水道施設の業務概要と執行状況、施設の管理委託状況等の説明を受けました。

次に、「認第8号 平成27年度吉野町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について」、下水道使用料や一般会計繰入金などの歳入と流域下水道維持管理負担金や公共下水道工事費、流域下水道建設負担金などの執行状況について説明を受けました。

次に、「認第9号 平成27年度吉野町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について」実質収支は699万2,756円であり、香東地区農業集落排水事業にかかる使用料等の歳入と施設管理費及び公債費等の歳出である旨の説明を受けました。

次に、「認第10号 平成27年度吉野町土地開発基金会計歳入歳出決算の認定について」、現金預金は、歳入歳出差し引き額として3,393万1,275円、有形固定資産2億3,635万5,491円、投資として8,730万円、保有資産合計3億5,758万6,766円の説明を受けました。

以上、本委員会に付託されました、議案等の審議結果について、予算決算特別委員会委員長報告を終わります。

山本議長

上程議案の採決に入ります。

日程2 議第46号 「吉野町都市計画審議会条例の一部を改正することについて」意見を求めます。

おはかりします。本案を原案どおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を、原案どおり可決することに決しました。

山本議長

日程3 議第47号「吉野町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正することについて」意見を求めます。

おはかりします。本案を原案どおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を、原案どおりに可決することに決しました。

山本議長

日程4 議第48号「吉野山地区簡易水道統合事業中央監視装置及び送水ポンプ盤設置工事請負契約の締結について」意見を求めます。

おはかりします。本案を原案どおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を、原案どおりに可決することに決しました。

山本議長

日程5 議第49号「辺地総合整備計画の変更について」意見を求めます。

おはかりします。本案を原案どおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を、原案どおりに可決することに決しました。

山本議長

日程6 議第50号「平成28年度吉野町一般会計補正予算(案)第2号について」意見を求めます。

上滝議員。

上滝議員

議第50号 平成28年度の一般会計補正予算書の中に、プロレスを250万使って11月の3日にするというのを聞いております。良い悪いは別として、平成28年

の3月に実行委員会ができております。また、会議も6回しておったにもかかわらずプロレスのプも出てなかったそうでございます。そんななかで、急遽、他の実行委員会でプロレスをしたいということ町に申し入れ、町が250万を補正してプロレスをしたいと、こういう説明もあったわけでございますけれども、もったいないなと。もっと福祉に力を入れていただきたいなと、こういう思いでこの件については反対です。

以上。

山本議長

反対意見が出ましたので、この採決は起立によって行います。

本案を原案どおり可決することに賛成諸君は起立願います。

賛成多数です。

よって本案を、原案どおり可決することに決しました。

山本議長

日程7 議第51号「平成28年度吉野町介護保険特別会計補正予算(案)第2号について」意見を求めます。

おはかりします。本案を原案どおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を、原案どおり可決することに決しました。

山本議長

日程8 議第52号「平成28年度吉野町簡易水道事業特別会計補正予算(案)第1号について」意見を求めます。

おはかりします。本案を原案どおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を、原案どおり可決することに決しました。

山本議長

日程9 議第53号「平成28年度吉野町下水道事業特別会計補正予算(案)第2号について」意見を求めます。

おはかりします。本案を原案どおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を、原案どおり可決することに決しました。

山本議長

日程10 議第54号「平成28年度吉野町水道事業特別会計補正予算(案)第2号について」意見を求めます。

はかりします。本案を原案どおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を、原案どおり可決することに決しました。

山本議長

日程11 認第3号「平成27年度吉野町一般会計歳入歳出決算認定について」意見を求めます。

おはかりします。本決算を認定することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本決算を認定することに決しました。

山本議長

日程12 認第4号「平成27年度吉野町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について」意見を求めます。

おはかりします。本決算を認定することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本決算を認定することに決しました。

山本議長

日程 13 認第 5 号「平成 27 年度吉野町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について」意見を求めます。

おはかりします。本決算を認定することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本決算を認定することに決しました。

山本議長

日程 14 認第 6 号「平成 27 年度吉野町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について」意見を求めます。

おはかりします。本決算を認定することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本決算を認定することに決しました。

山本議長

日程 15 認第 7 号「平成 27 年度吉野町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について」意見を求めます。

おはかりします。本決算を認定することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本決算を認定することに決しました。

山本議長

日程 16 認第 8 号「平成 27 年度吉野町下水道事業特別会計歳入歳出決算認定に

ついて」意見を求めます。

おはかりします。本決算を認定することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本決算を認定することに決しました。

山本議長

日程 17 認第 9 号「平成 27 年度吉野町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について」意見を求めます。

おはかりします。本決算を認定することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本決算を認定することに決しました。

山本議長

日程 18 認第 10 号「平成 27 年度吉野町土地開発基金会計歳入歳出決算認定について」意見を求めます。

おはかりします。本決算を認定することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本決算を認定することに決しました。

山本議長

日程 19 要望等について

総務委員会に付託いたしました、上市町内会連合会長 轟町内会長 梶井 啓司氏 他 7 名より提出されております「消防車両更新についての要望書」につきまして、意見を求めます。

おはかりします。本要望を先ほどの委員長報告のとおり採択することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本要望は、委員長報告のとおり採択することに決しました。

山本議長 追加議案が出ております。

山本議長 日程 20 同第 4 号「吉野町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて」を議題として上程し、議案は事務局が朗読いたします。

(事 務 局 朗 読)

説明を求めます。

北岡町長 はい議長。

山本議長 北岡町長。

北岡町長 山口 昇氏の略歴を紹介いたします。

山口 昇氏は、昭和 25 年 9 月 27 日にお生まれになって、現在 65 歳。吉野町大字小名 95 番地にお住まいでいらっしゃいます。昭和 41 年 3 月に吉野中学校を卒業。学業を修められた後、昭和 51 年に建築業を開業され現在に至っております。平成 4 年 4 月から平成 6 年 4 月まで中竜門第 5 分団長。平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月末まで中竜門地区人権まちづくり推進協議会会長を歴任され、平成 26 年 4 月から小名区自治会長を現在お努めいただいております。

山口 昇氏は、町内小学校の 3 年生から 6 年生の児童を対象に、祖父母や父母、日ごろお世話になっている方々へ感謝の言葉、ありがたい気持ちを伝える葉書を子ども達に書いてもらい、便りを送る「感謝プロジェクト」を継続して展開していただいております。この取組みは、奈良県教育委員会、吉野町教育委員会も後援させていただいておるものでございます。子ども達の感謝の気持ちを喚起し、また、暖かい家族のつながりや絆を深める取組みを続けてくださっている方でございま

す。

以上でございます。

山本議長

質疑を求めます。

意見を求めます。

おはかりします。本案を同意することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって本案を同意することに決しました。

ただいま教育委員に同意されました、山口さんがお見えですので、ご挨拶をお願いしたいと思います。

山口
教育委員

皆様、こんにちは。

(「こんにちは」の声あり。)

ただいまご紹介いただきました、吉野町小名で住まいさせていただいております山口 昇でございます。今回、ここに立たせてもらってる、本当に、ことの重大さに緊張しております。そういった中で、私は、本当に子どもが大好きです。いま、町長からご紹介いただきましたように、本当に何もわからない私ではございますが、少しでも子どもの中のお力になればと思っております。

町長をはじめ、教育委員長、教育長、そして議会の先生方に今後ともよろしくご指導をお願い申し上げまして、本当に簡単ではございますが、私のご挨拶といたします。

どうかよろしく願いいたします。

山本議長

ありがとうございました。

日程 21 「議員派遣について」議題といたします。

会議規則第 128 条の規定により、お手元に配布のとおり議員派遣をいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認め、お手元に配布のとおり議員派遣をいたすことに決しました。

閉会中の継続審議についておはかりします。

それぞれの委員長より、所管事項について閉会中の継続審議の申し出がありますが、これに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

よって、会議規則第 75 条の規定により、それぞれの委員長の申し出どおり、所管事項について、閉会中の継続審議に付する事にいたします。

山本議長

本定例会に付議されました議案の審議はすべて議了いたしました。

おはかりします。

これをもって本定例会を閉会いたしたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

閉会にあたり、町長のご挨拶をお願いいたします。

北岡町長。

北岡町長

閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずは、本定例会におきまして私どもから上程いたしました議案、すべて承認いただきまして誠にありがとうございます。

審議の過程で、委員会等では本当に真剣な討議いただきまして、また、たくさんのご意見をいただきまして、また今後に繋がるご意見もたくさんいただきました。閉会中も委員会を開いていただけるそうでございますので、また、我々にも懇切丁寧なご指導をいただくことをあらためてお願い申し上げます、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

山本議長

皆様の熱心なご審議によりまして全議案を議了することができました。
ここに閉会の運びとなりましたことを深く感謝申し上げます。
これをもちまして平成28年第3回吉野町議会定例会を閉会いたします。
ご協力ありがとうございました。

(午後3時50分 閉会)